

男女共同参画社会に関する市民意識・実態調査 結果報告書

平成 22 年 3 月

逗 子 市

目次

1 調査概要

(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象・調査方法	1
(3) 調査実施期間	1
(4) 回収状況	1
(5) 調査結果の見方	1

2 調査結果

あなた自身のことについて (問1～9)	2
---------------------	---

問1 性別	2
問2 年齢	2
問3 居住地区	3
問4 市内居住歴	3
問5 職業	4
問6 同居の家族	5
問7 結婚等の状況	5
問8 子どもの年齢	6
問9 世帯の状況 (共働きの有無)	7

職場を含むいろいろな場面での、男女のあり方をめぐるさまざまな問題について (問10～25)	8
--	---

問10 用語の認知度	8
問11 男女の地位に関する平等意識	9
問12 男女の役割分担に関する意識	16
問13 女性が職業を持つことについての意識	20
問14 女性の職業に関する意識形成の理由	25
問15 女性が職業を持つ上での障害	27
問16 現在働いている理由	29
問17 職場における差別等	31
問18 育児・介護休業制度利用の可否	33
問19 育児・休業制度を利用できない理由	34
問20 職場でのセクシュアル・ハラスメントの有無	36
問21 パートタイムで働いている理由	37
問22 子どものしつけや教育についての考え	39

問 23	学校における男女平等教育への希望	40
問 24	女性の人権が侵害されていると感じること	41
問 25	マスメディアにおける性にまつわる表現についての意識	42
結婚や家族、生活などのことについて（問 26～34）		43
問 26	性などについての知識の入手先	43
問 27	女性の健康を支援するために必要なこと	45
問 28	結婚観	46
問 29	離婚観	47
問 30	夫婦やパートナー間におけるコミュニケーションの状況	49
問 31	家庭における役割分担のイメージ	50
問 32	家事分担の状況	52
問 33	男性があまり家事に参加しない理由	60
問 34	夫婦の「姓」に関する意識（夫婦別姓など）	61
老後の生活について（問 35・36）		64
問 35	老後を安心して迎かえるために大切なこと	64
問 36	自分に介護が必要になったらどうしたいか	65
パートナーからの暴力について（問 37～41）		66
問 37	パートナー間の暴力の経験	66
問 38	経験したパートナー間の暴力の内容	67
問 39	パートナー間の暴力を受けたときの相談先	68
問 40	パートナー間の暴力について誰にも相談しなかった理由	69
問 41	パートナー間の暴力に対し有効な援助	70
地域活動などについて（問 42～46）		72
問 42	最近参加した地域活動	72
問 43	地域活動での男女共同参画の進捗	73
問 44	女性に進出してほしい分野	74
問 45	男性に進出してほしい分野	74
問 46	市の事業の認知度	75
「男女共同参画社会の実現」をめざしてのこれからの施策について（問 47・48）		76
問 47	男女平等推進のため重要と思うこと	76
問 48	力を入れてほしい男女共同参画推進施策	80
3	自由記述	82
資料・調査票		90
▪ 単純集計表		98

1 調査概要

(1) 調査の目的

本調査は、市民の生活の実態や意識を把握し、平成 22 年度の「ずし男女共同参画プラン後期基本計画」の策定や施策推進のための基礎資料とするため、「男女共同参画社会に関する市民意識・実態調査」を実施しました。今回の調査は、平成 16 年に続き 2 回目の調査になります。

(2) 調査対象・調査方法

本調査は、市内在住の満 18 歳以上の市民 2,000 人（男女各 1,000 人）を無作為に抽出し、調査対象としました。

調査方法は、郵送による配布、回収で行いました。

(3) 調査実施期間

調査期間は、平成 21 年 10 月に実施しました。

(4) 回収状況

配布数 2,000 票に対して、有効回収数は 985 票、有効回収率は 49.3%となっています。

(5) 調査結果の見方

比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しています。そのため、百分率の合計が 100.0%にならないことがあります。

基数となる実数は N として掲載し、各表の比率は N を母数とした割合を示しています。

一部のグラフについて、クロス集計をする上で「無回答」を省略しているものがあります。

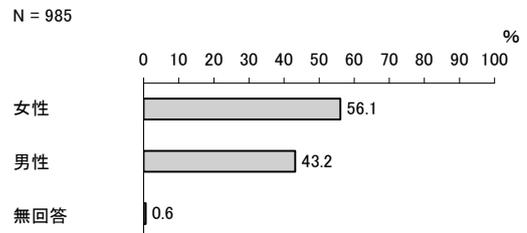
1 人の回答者が複数回答する設問では、その比率の合計が 100.0%を上回ることがあります。

2 調査結果

あなた自身のことについて

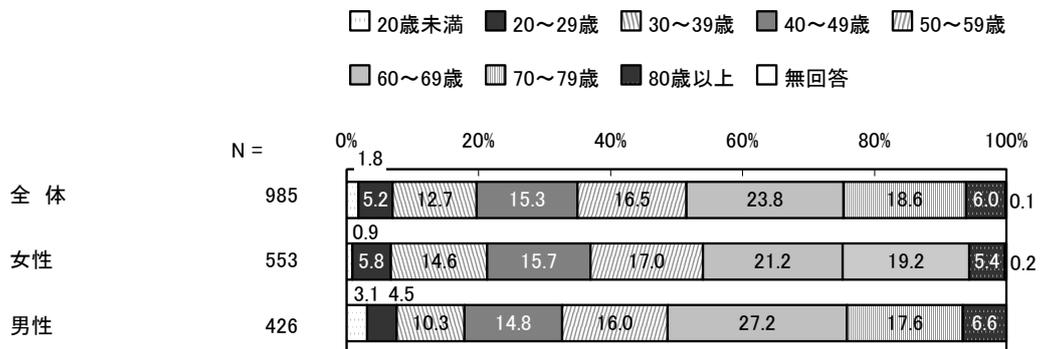
問1 性別は、次のどちらですか。

性別については、「女性」の割合が 56.1%、「男性」の割合が 43.2%となっています。



問2 年齢はおいくつですか（平成21年10月1日現在）。

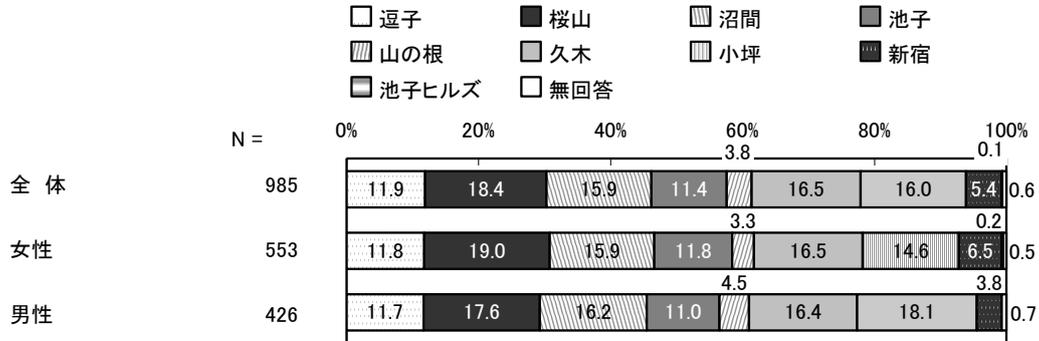
年齢については、「60～69歳」の割合が 23.8%と最も高く、次いで「70～79歳」の割合が 18.6%、「50～59歳」の割合が 16.5%となっています。



問3 現在お住まいの地区はどちらですか。(数字を○で囲み、さらに「丁目」を記入)

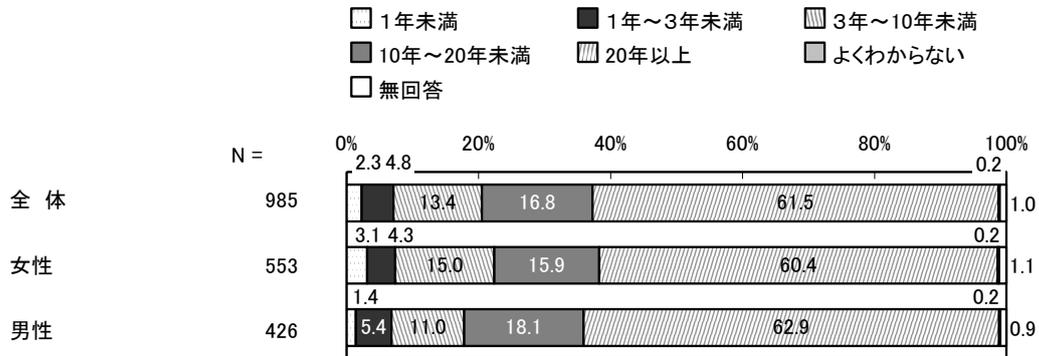
居住地区については、「桜山」の割合が18.4%と最も高く、次いで「久木」の割合が16.5%、「小坪」の割合が16.0%、「沼間」の割合が15.9%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



問4 市内に何年間お住まいですか。

居住年数については、「20年以上」の割合が61.5%と最も高く、次いで「10年～20年未満」の割合が16.8%、「3年～10年未満」の割合が13.4%となっています。

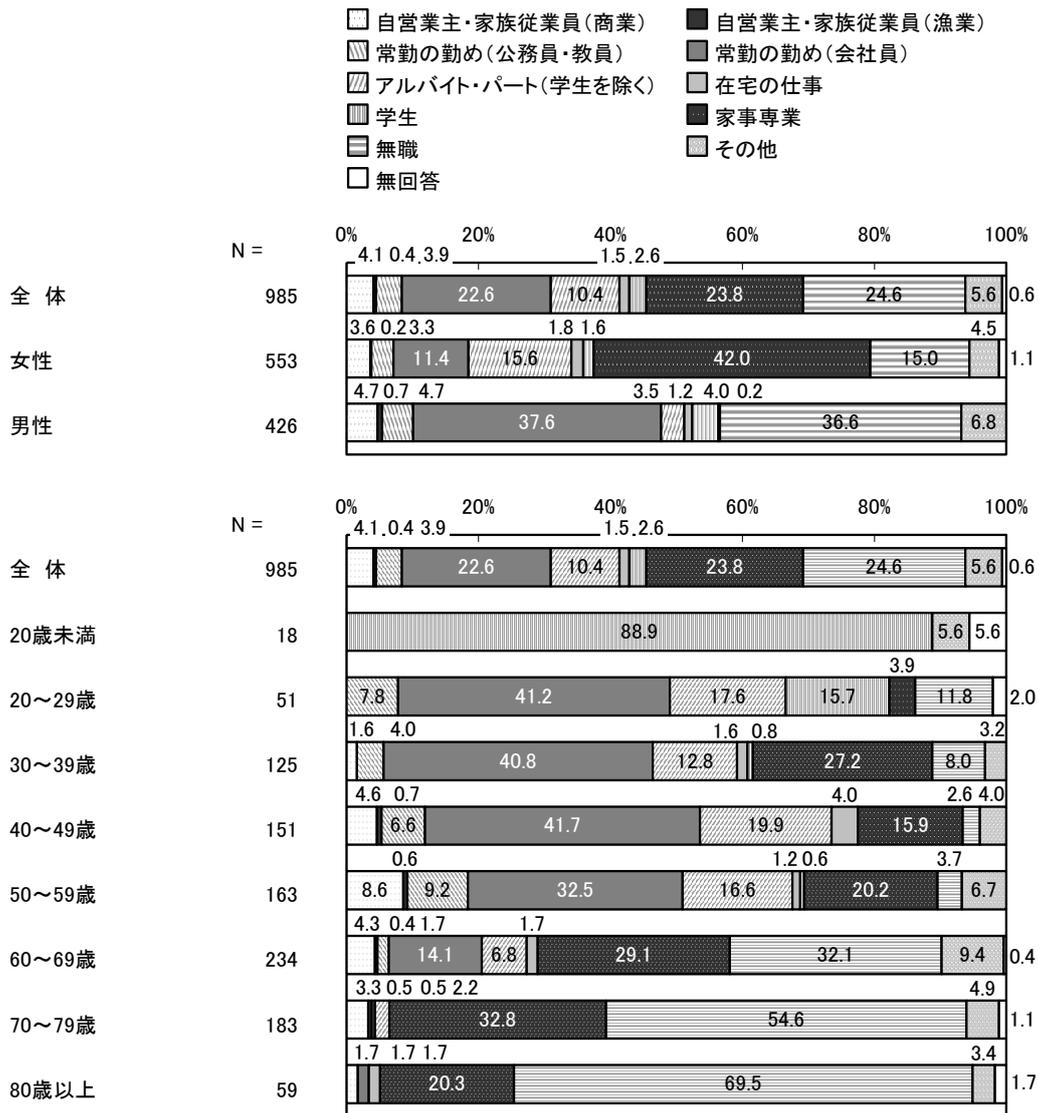


問5 ご職業は何ですか。

職業については、「無職」の割合が24.6%と最も高く、次いで「家事専業」の割合が23.8%、「常勤の勤め（会社員）」の割合が22.6%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「家事専業」の割合が高く、約4割となっています。また、女性に比べ男性で「常勤の勤め（会社員）」、「無職」の割合が高くなっています。

年代別でみると、他の年代に比べ、20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳で「常勤の勤め（会社員）」、「アルバイト・パート（学生を除く）」の割合が高くなっています。



問6 あなたが同居している家族等は、次のうちどなたですか。(すべてに○)

同居している家族については、「パートナー（配偶者など）」の割合が65.5%と最も高く、次いで「未婚の子ども」の割合が32.2%、「自分の親」の割合が19.2%となっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「ひとり暮らし」の割合が、女性に比べ男性で「パートナー（配偶者など）」の割合がそれぞれ高くなっています。

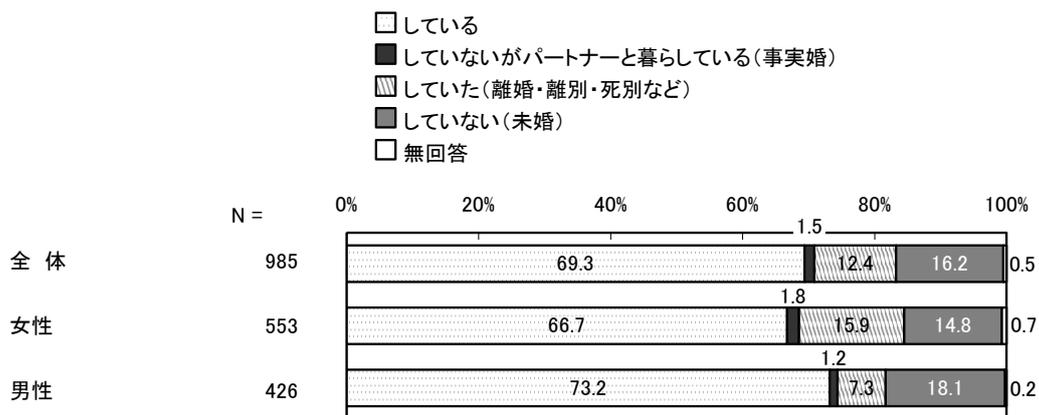
単位：%

区分	有効回答数 (件)	パートナー (配偶者など)	自分の親	パートナーの親	未婚の子ども	子どもとその パートナー	孫	祖父母	兄弟姉妹	ひとり暮らし	その他	無回答
全体	985	65.5	19.2	2.7	32.2	8.2	3.1	2.1	8.8	7.5	3.1	0.9
女性	553	62.2	17.4	3.4	31.8	9.0	3.4	1.6	8.3	9.2	3.3	1.3
男性	426	70.2	21.8	1.9	32.4	7.3	2.8	2.8	9.6	4.9	3.1	0.5

問7 結婚していますか。

婚姻の有無については、「している」の割合が69.3%と最も高く、次いで「していない(未婚)」の割合が16.2%、「していた(離婚・離別・死別など)」の割合が12.4%となっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「していた(離婚・離別・死別など)」の割合が、女性に比べ男性で「している」の割合がそれぞれ高くなっています。



問8 あなたのお子さんは、次のどれに当たりますか。(複数いる場合はすべてに○)

子どもについては、「高校生以上の年齢」の割合が 55.5%と最も高く、次いで「子どもはいない」の割合が 25.7%となっています。

年代別でみると、他の年代に比べ 30～39 歳で「0～3 歳」の割合が高く、2 割を超えています。また、40～49 歳で「小学生」、「高校生以上の年齢」の割合が高く、約 3 割となっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	0～3歳	4歳～未就学児	小学生	中学生	高校生以上の年齢	子どもはいない	無回答
全体	985	4.7	4.6	7.9	5.3	55.5	25.7	6.1
20歳未満	18	—	—	—	5.6	—	94.4	—
20～29歳	51	3.9	—	—	—	—	84.3	11.8
30～39歳	125	24.8	19.2	22.4	6.4	1.6	47.2	4.0
40～49歳	151	7.9	13.2	29.8	20.5	29.8	30.5	3.3
50～59歳	163	0.6	—	2.5	6.1	73.0	19.0	3.7
60～69歳	234	—	—	0.4	—	85.0	10.7	4.3
70～79歳	183	—	0.5	—	0.5	74.9	13.1	11.5
80歳以上	59	—	—	—	1.7	76.3	13.6	10.2

問9は、問7で「1 結婚している」「2 していないがパートナーと暮らしている」と答えた方に対する質問です。該当しない方は、問10へお進みください。

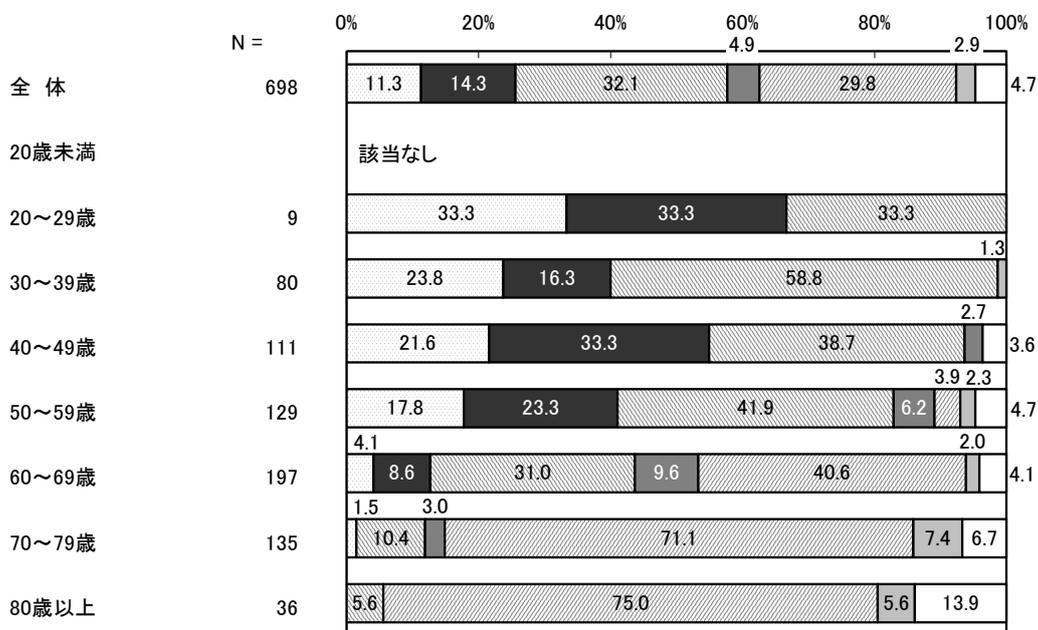
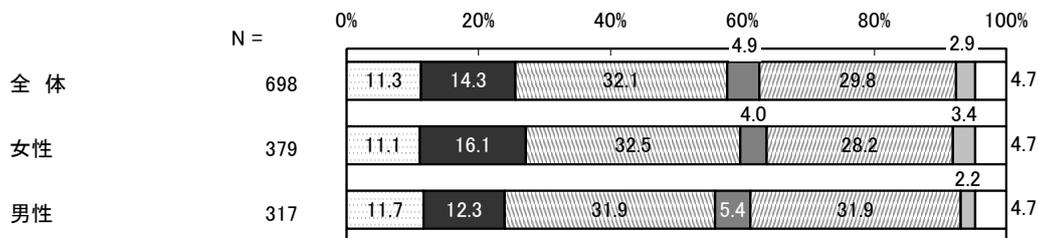
問9 あなたの世帯は、次のどれに当たりますか。

夫婦の働き方については、「夫（男性）だけ仕事を持っている」の割合が32.1%と最も高く、次いで「夫婦（男女）とも無職」の割合が29.8%、「共働き（どちらか、またはともにパートタイム）」の割合が14.3%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「共働き（ともにフルタイム）」の割合が低くなっています。また、他の年代に比べ30～39歳で「夫（男性）だけ仕事を持っている」の割合が高く、約6割となっています。

- 共働き(ともにフルタイム)
- 共働き(どちらか、またはともにパートタイム)
- ▨ 夫(男性)だけ仕事を持っている
- 妻(女性)だけ仕事を持っている
- ▨ 夫婦(男女)とも無職
- その他
- 無回答



職場を含むいろいろな場面での、男女のあり方をめぐるさまざまな問題について

問 10 下に掲げる1～9の用語のうちで、あなたが知っているものをすべて選び、数字を○で囲んでください。(いくつ選んでもかまいません。)

用語の認知度については、「セクシュアル・ハラスメント」の割合が88.8%と最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」の割合が87.6%、「育児・介護休業法」の割合が79.7%、「DV（ドメスティック・バイオレンス）防止法」の割合が78.4%、「ストーカー規制法」の割合が77.8%となっています。

一方、「男女混合出席簿」、「ワーク・ライフ・バランス」、「デートDV」、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）」の割合が2割未満と低くなっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「世界女性会議」、「女性の再チャレンジ支援」の割合が、女性に比べ男性で「男女雇用機会均等法」、「男女共同参画社会基本法」、「ジェンダー」、「セクシュアル・ハラスメント」の割合がそれぞれ高くなっています。

単位：%

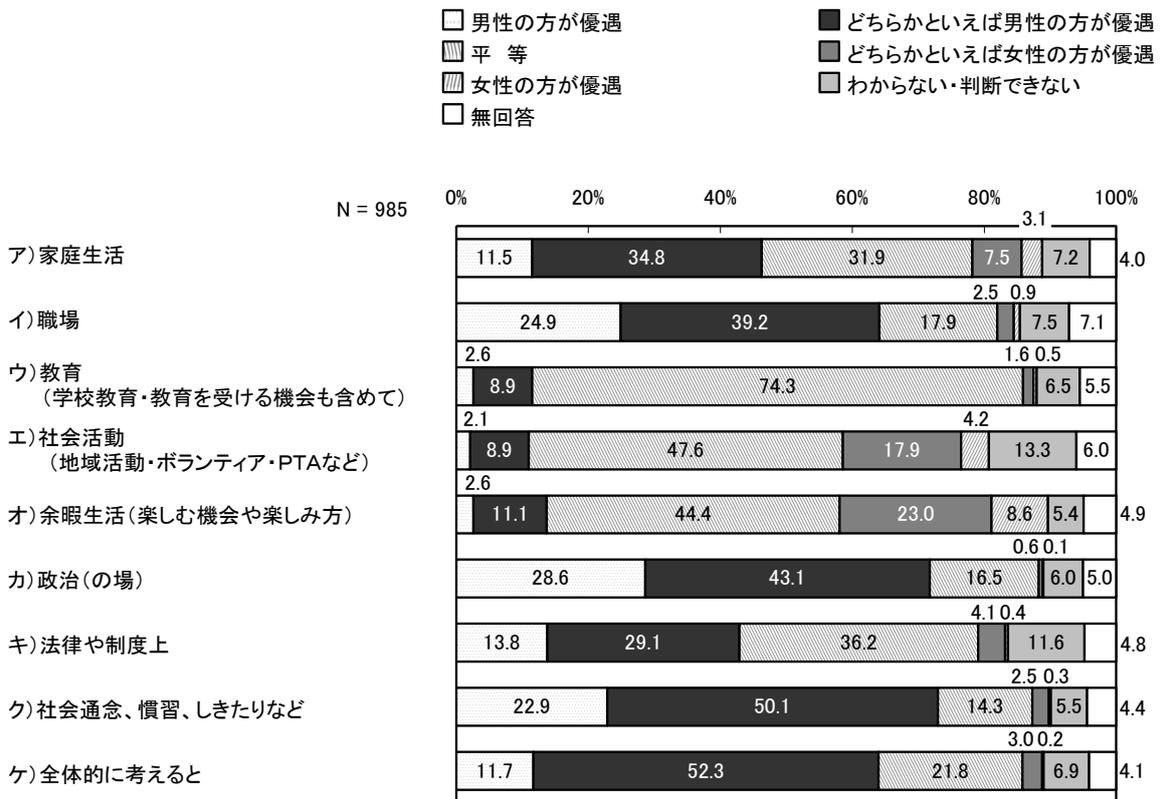
区分	有効回答数（件）	男女雇用機会均等法	育児・介護休業法	男女共同参画社会基本法	ストーカー規制法	DV（ドメスティック・バイオレンス）防止法	女性差別撤廃条約	世界女性会議
全体	985	87.6	79.7	31.7	77.8	78.4	31.2	29.6
女性	553	84.3	79.7	28.2	78.1	78.8	29.5	32.5
男性	426	91.8	80.0	36.6	77.7	77.5	33.6	25.8

区分	ジェンダー	男女混合出席簿	ワーク・ライフ・バランス	デートDV	積極的改善措置（ポジティブ・アクション）	女性の再チャレンジ支援	セクシュアル・ハラスメント	無回答
全体	28.7	14.6	19.4	18.2	6.0	20.7	88.8	4.1
女性	26.2	16.6	18.6	20.3	5.6	23.9	86.6	5.4
男性	32.2	12.0	20.7	15.5	6.6	16.4	91.8	2.3

問 11 あなたは、次に掲げる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。ア)～ケ) のそれぞれについて、1～6の中から1つだけ選び、表の該当欄の数字を○で囲んでください。

各種の分野での男女平等については、「政治（の場）」、「社会通念、慣習、しきたりなど」で「男性の方が優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」をあわせた『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が高く、7割を超えています。

一方、「教育（学校教育・教育を受ける機会も含めて）」で「平等」と思う人の割合が高く、7割を超えています。



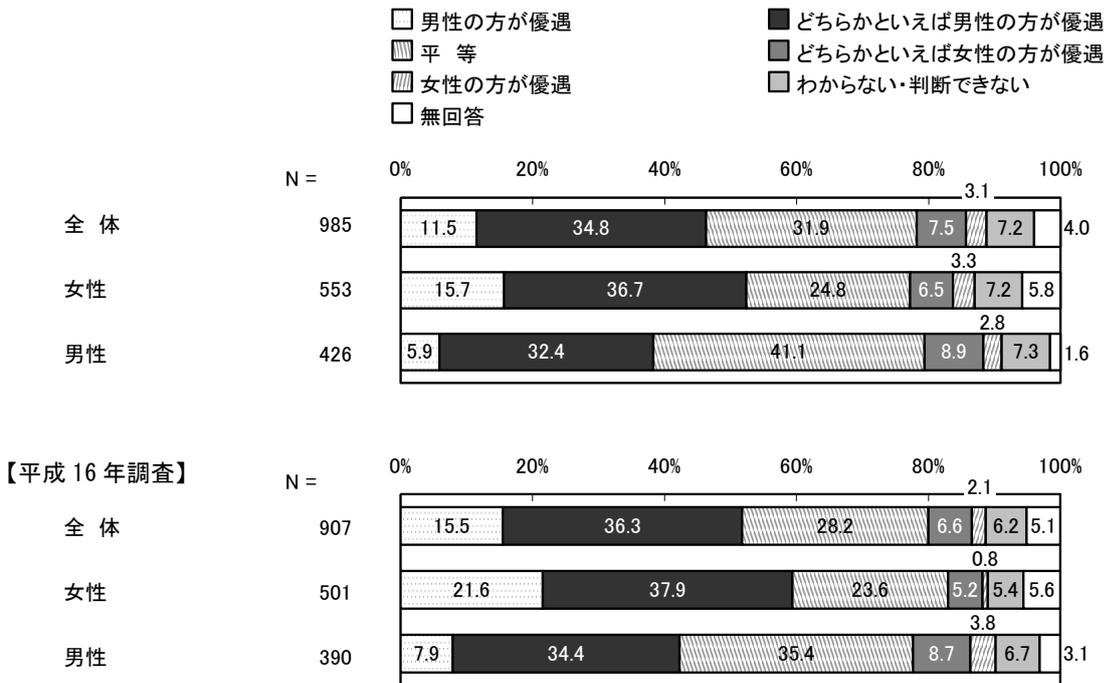
以下 ア)～ケ) までの解説では、「男性の方が優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」をあわせた回答を『男性の方が優遇されている』、「女性の方が優遇」と「どちらかといえば女性の方が優遇」をあわせた回答を『女性の方が優遇されている』と表記しています。

ア) 家庭生活

家庭生活については、『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が46.3%、『女性の方が優遇されている』と思う人の割合が10.6%となっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で、『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が高く、5割を超えています。また、女性に比べ男性で「平等」の割合が高く、約4割となっています。

前回と比較し、性別では、女性で『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が7.1ポイント減少しています。また、男性で「平等」の割合が5.7ポイント増加しています。

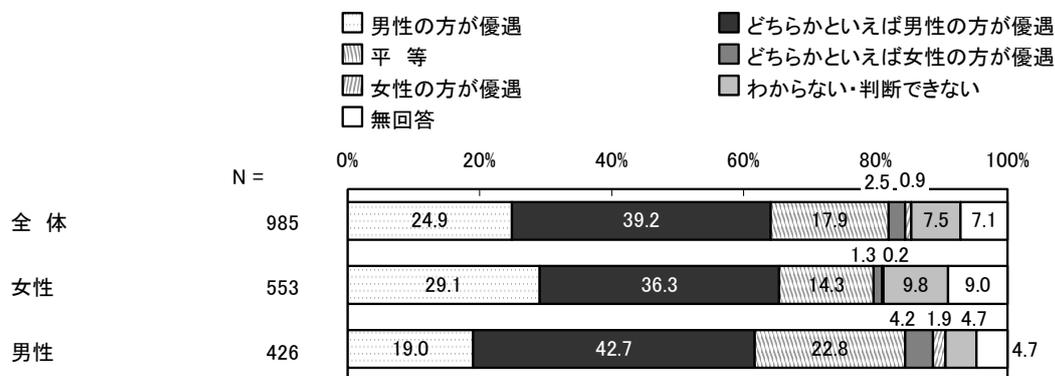


イ) 職場

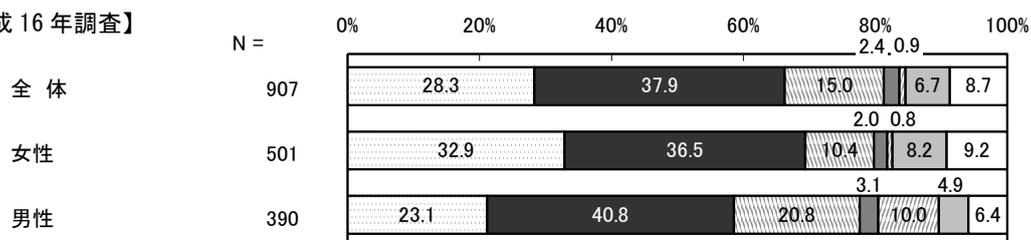
職場については、『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が 64.1%、『女性の方が優遇されている』と思う人の割合が 3.4%となっています。

性別で見ると、女性に比べ男性で「平等」の割合が高く、約 2 割となっています。

前回と比較し、性別では、女性で「男性の方が優遇」の割合が 5.9 ポイント減少しています。また、男性で「平等」の割合が 5.7 ポイント増加しています。



【平成 16 年調査】

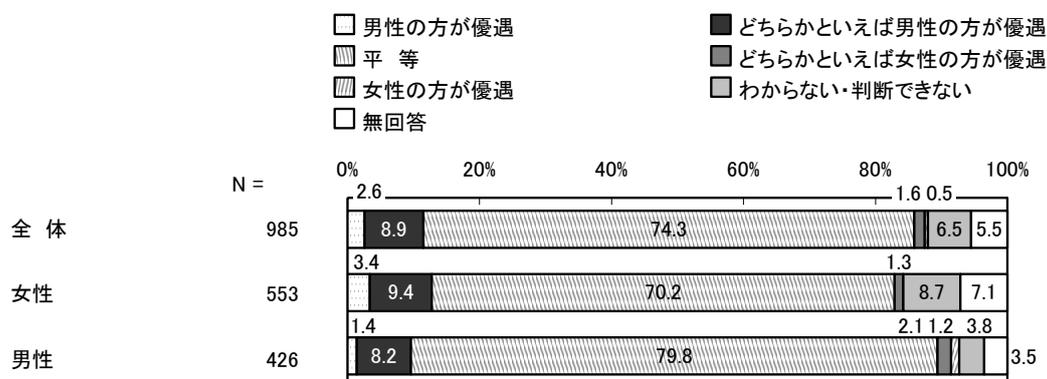


ウ) 教育（学校教育・教育を受ける機会も含めて）

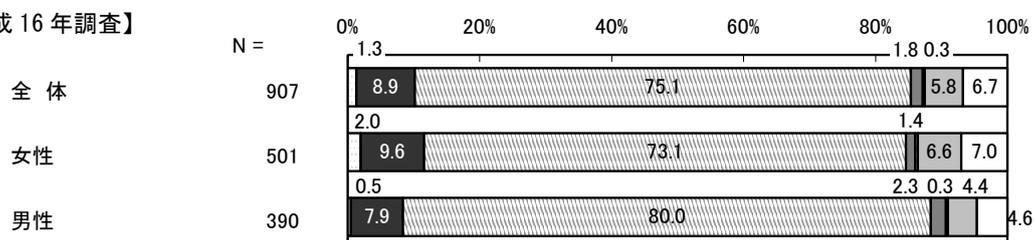
教育（学校教育・教育を受ける機会も含めて）については、「平等」の割合が 74.3%となっています。

性別で見ると、女性に比べ男性で「平等」の割合が高く、約 8 割となっています。

前回と比較し、大きな差異はみられません。



【平成 16 年調査】

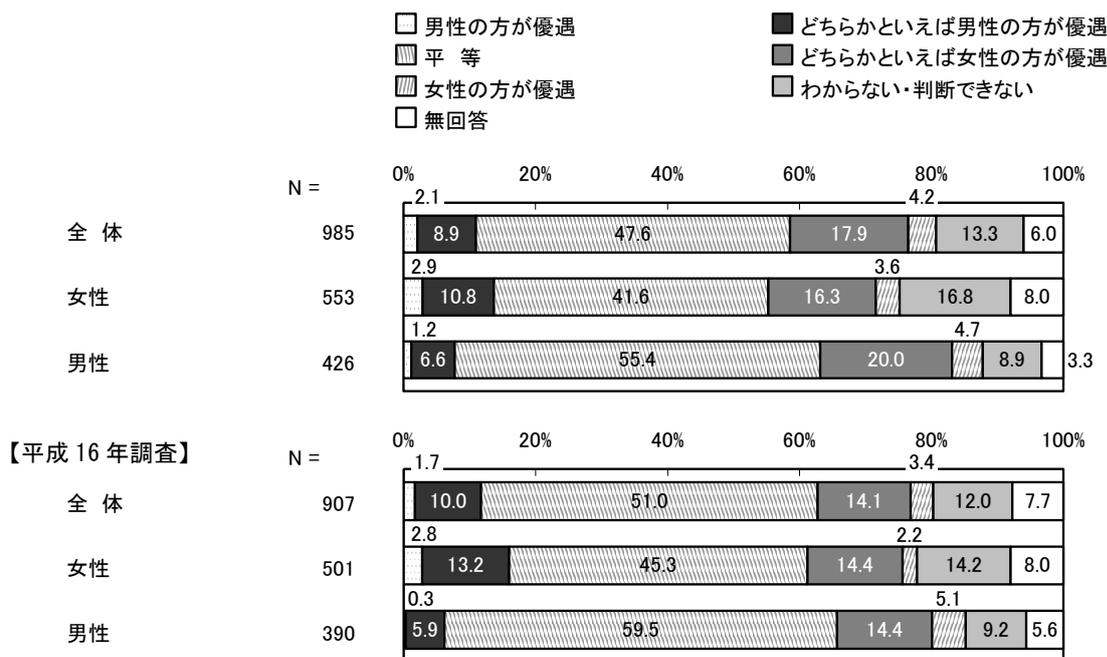


エ) 社会活動（地域活動・ボランティア・PTAなど）

社会活動（地域活動・ボランティア・PTAなど）については、『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が11.0%、『女性の方が優遇されている』と思う人の割合が22.1%となっています。

性別でみると、女性に比べ男性で、『女性の方が優遇されている』と思う人の割合が高くなっています。

前回と比較し、性別では、男性で『女性の方が優遇されている』と思う人の割合が5.2ポイント増加しています。

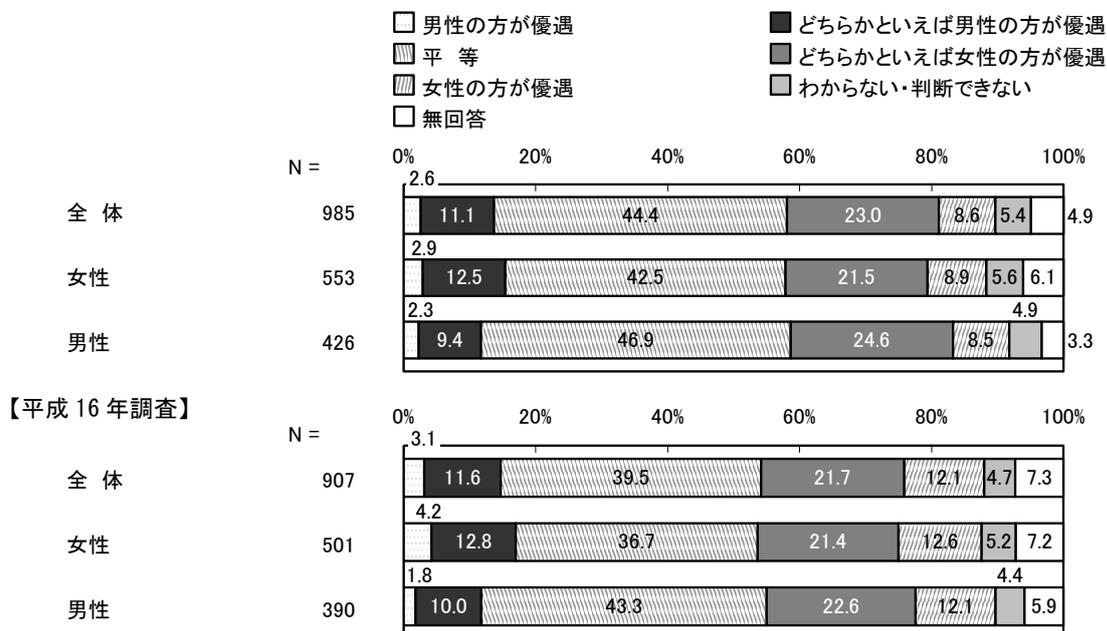


オ) 余暇生活（楽しむ機会や楽しみ方）

余暇生活（楽しむ機会や楽しみ方）については、『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が13.7%、『女性の方が優遇されている』と思う人の割合が31.6%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

前回と比較し、性別では、女性で「平等」の割合が5.8ポイント増加しています。

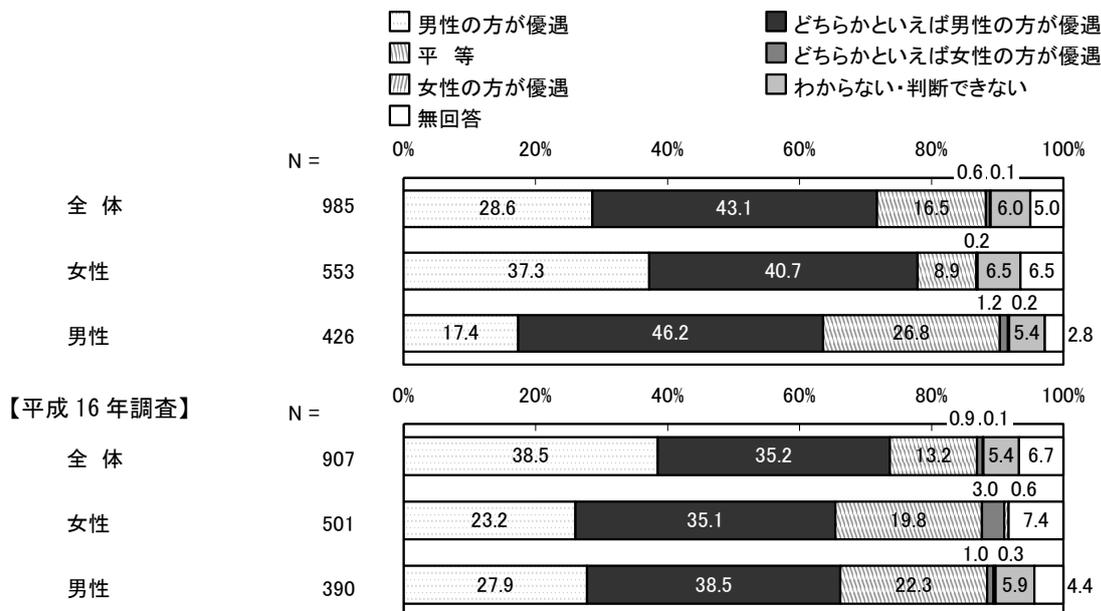


カ) 政治（の場）

政治（の場）については、『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が71.7%、『女性の方が優遇されている』と思う人の割合が0.7%となっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で、『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が高く、約8割となっています。また、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっています。

前回と比較し、性別では、女性で『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が19.7ポイント増加しています。



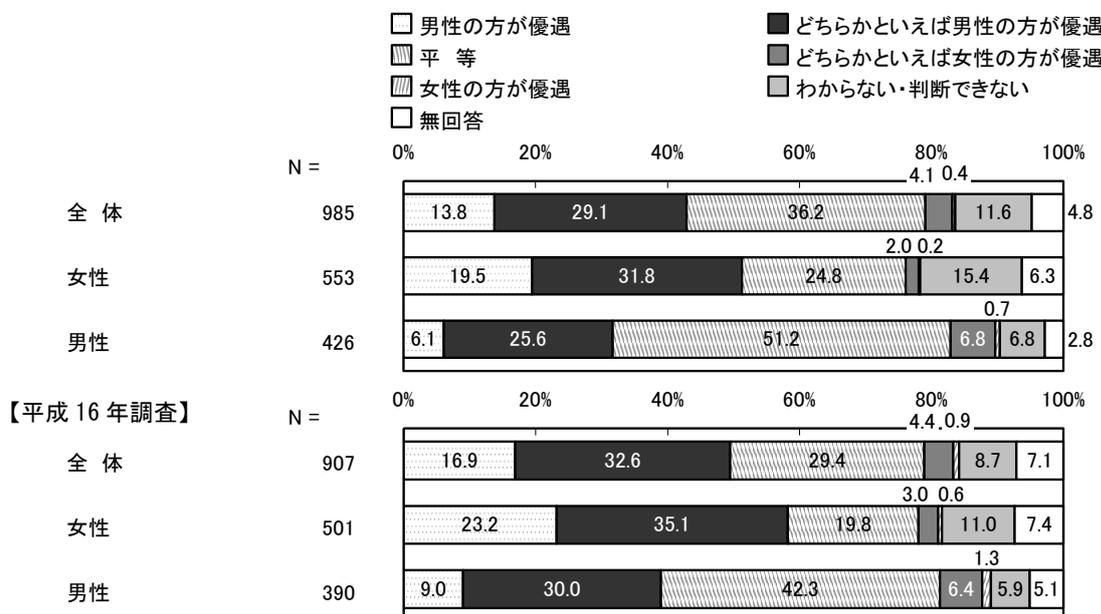
キ) 法律や制度上

法律や制度上については、『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が42.9%、『女性の方が優遇されている』と思う人の割合が4.5%となっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で、『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が高く、5割を超えています。また、女性に比べ男性で「平等」の割合が高く、5割を超えています。

前回と比較し、全体では「平等」の割合が6.8ポイント増加しています。

性別では、女性で『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が7.0ポイント減少しています。

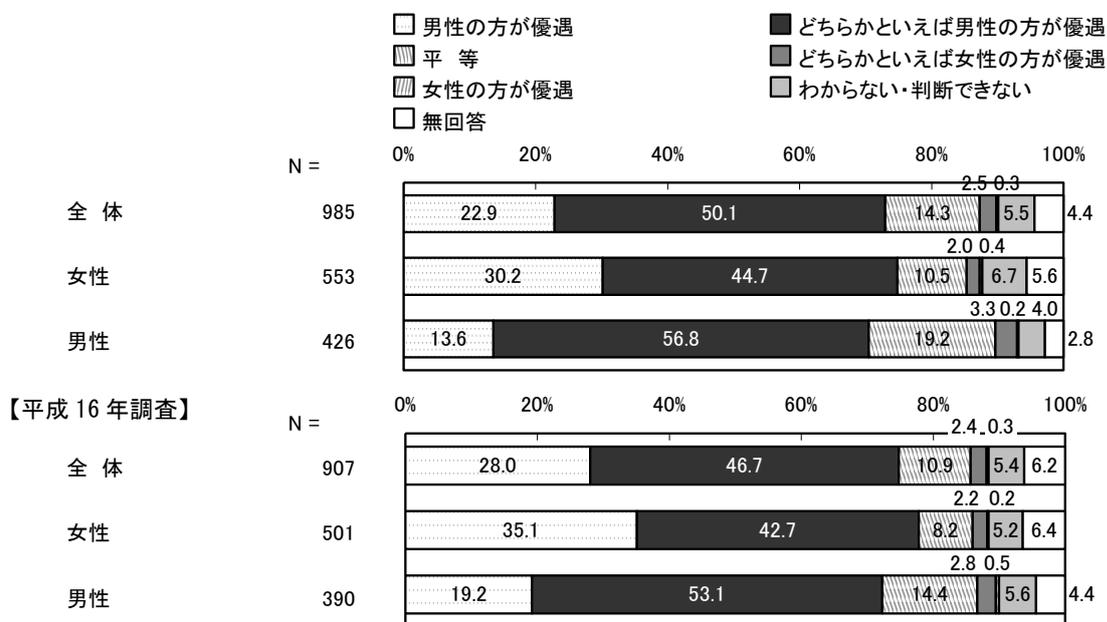


ク) 社会通念、慣習、しきたりなど

社会通念、慣習、しきたりなどについては、『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が73.0%、『女性の方が優遇されている』と思う人の割合が2.8%となっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で、『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が高く、7割を超えています。

前回と比較し、大きな差異はみられません。



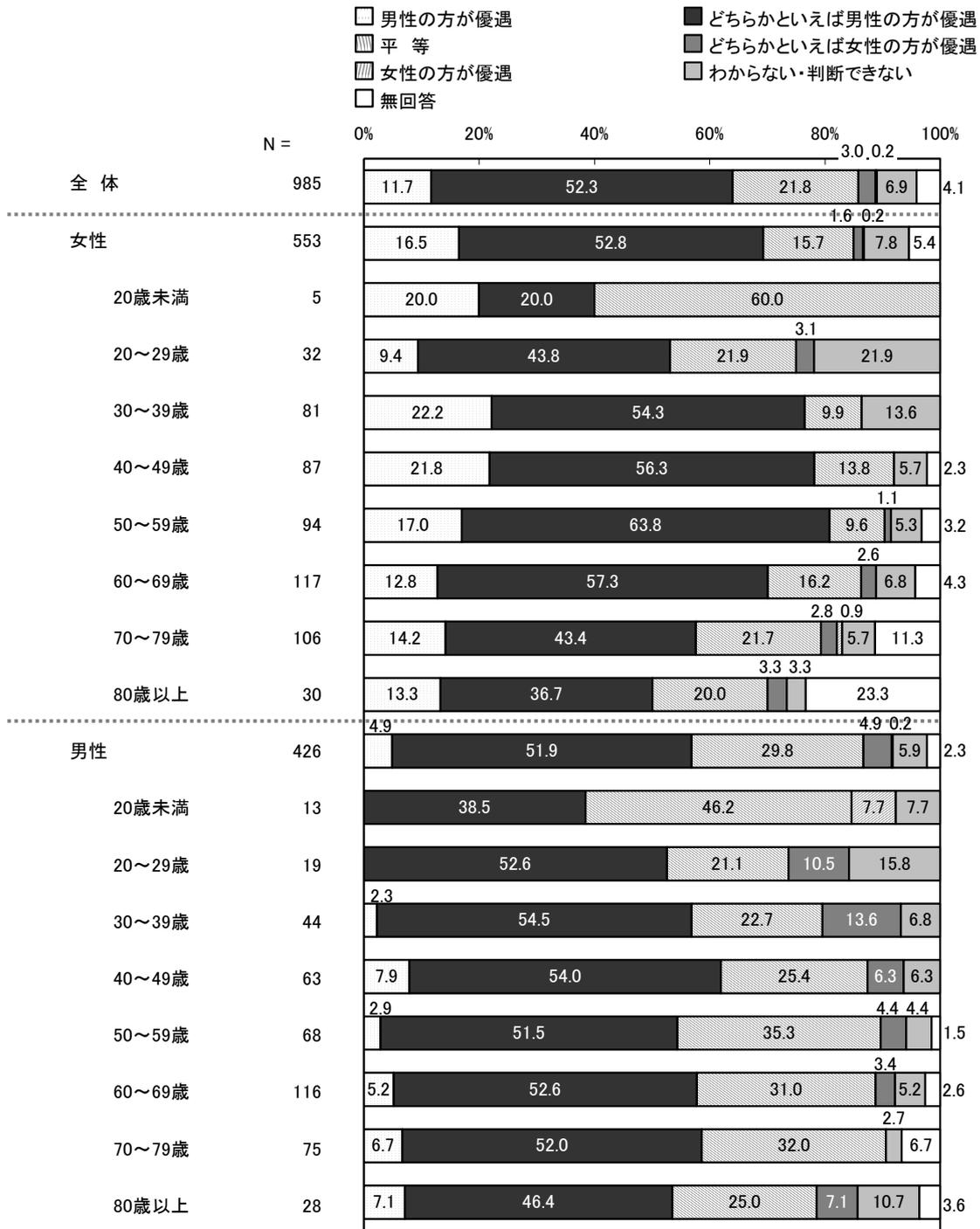
ケ) 全体的に考えると

全体的に考えた場合については、『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が64.0%、『女性の方が優遇されている』と思う人の割合が3.2%となっています。

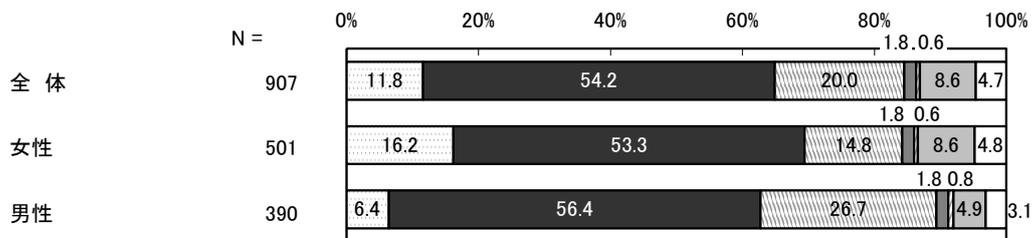
性別で見ると、男性に比べ女性で、『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が高く、約7割となっています。

性別年代別で見ると、女性の30～39歳、40～49歳、50～59歳で『男性の方が優遇されている』と思う人の割合が高く、約8割となっています。

前回と比較し、大きな差異はみられません。



【平成16年調査】



問 12 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたのご意見に一番近いものを下の 1～5 の中から 1 つだけ選び、数字を○で囲んでください。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた賛成する人の割合が 42.8%、「どちらかといえば反対」と「反対」をあわせた反対する人の割合が 30.8%となっています。

性別でみると、女性に比べ男性で賛成する人の割合が高く、約 5 割となっています。

年代別でみると、他の年代に比べ 60～69 歳、70～79 歳、80 歳以上で賛成する人の割合が高く、特に 80 歳以上で 6 割を超えています。一方、20 歳未満で反対する人の割合が高く、5 割を超えています。

性別婚姻別でみると、他に比べ男性の既婚で賛成する人の割合が高く、5 割を超えています。また、男性の離婚・死別・離別で反対する人の割合が高く、約 5 割となっています。

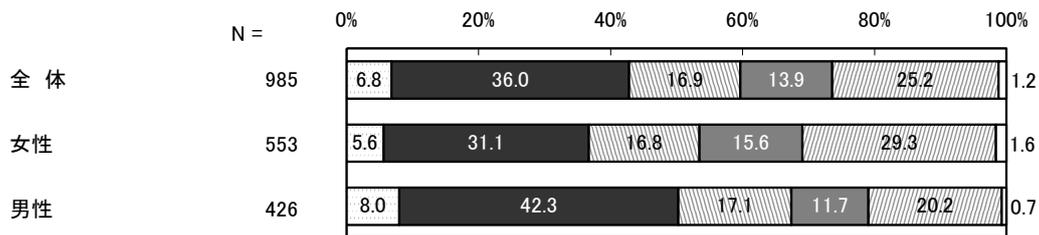
夫婦の働き方別でみると、他に比べ、夫（男性）だけ仕事を持っている、夫婦（男女）とも無職で賛成する人の割合が高く、約 5 割となっています。また、共働き（ともにフルタイム）、妻（女性）だけ仕事を持っているで反対する人の割合が高く、約 5 割となっています。

性別職業別でみると、他に比べ男性の無職で賛成する人の割合が高く、約 6 割となっています。また、女性の常勤の務め（公務員・教員）、常勤の務め（会社員）で反対する人の割合が高く、約 5 割となっています。

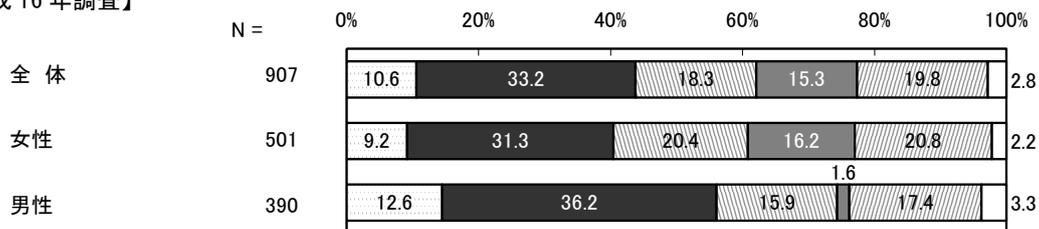
前回と比較し、性別では、男性で「どちらかといえば反対」と「反対」をあわせた反対する人の割合が 11.3 ポイント増加しています。

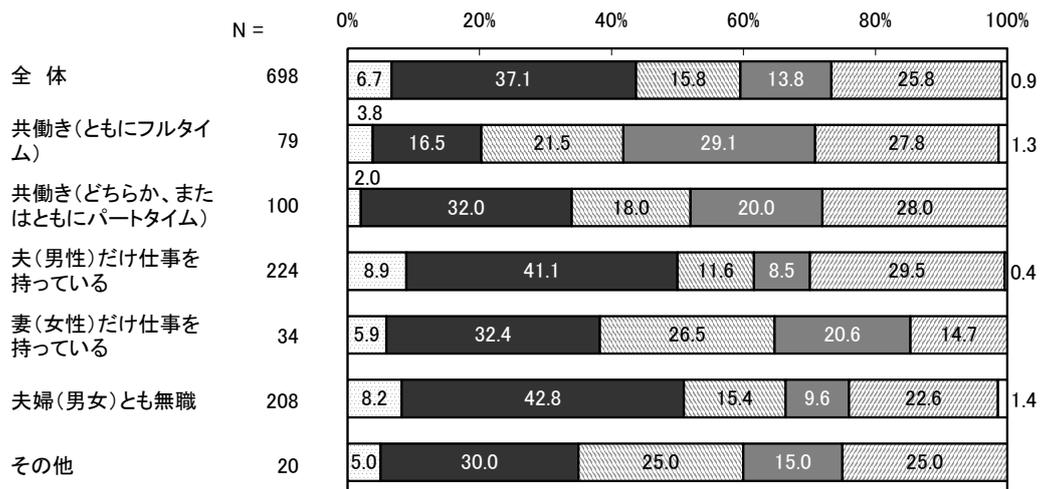
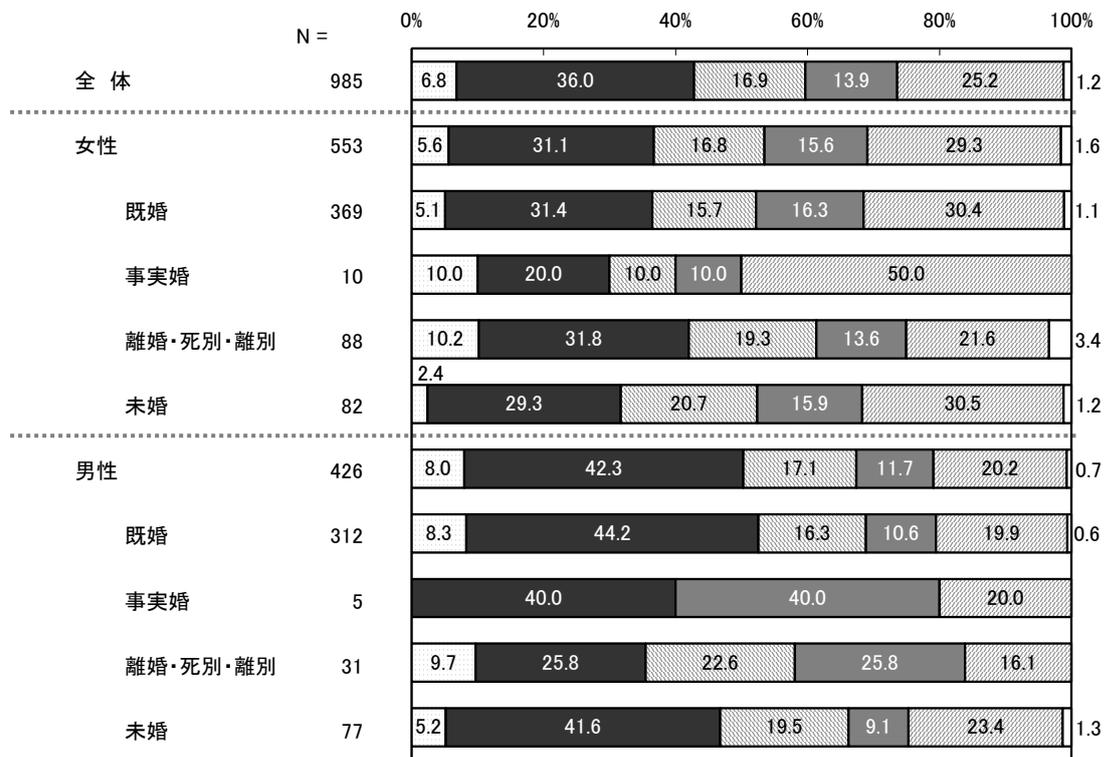
年代別では、20 歳未満で「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた賛成する人の割合が 11.6 ポイント、20～29 歳で 20.5 ポイント、40～49 歳で 7.6 ポイント増加しています。また、50～59 歳で 14.1 ポイント減少しています。

□ 賛成
 ■ どちらかといえば賛成
 ▨ どちらかといえば反対
 ▩ 反対
 ▤ どちらともいえない・わからない
 □ 無回答



【平成 16 年調査】





問 13 女性が職業を持つことについて、あなたの考えに近いものを下の1～7の中から1つだけ選び、数字を○で囲んでください。

女性が職業を持つことについては、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長した後再び職業につくのがよい」の割合が45.2%と最も高く、次いで「結婚・出産にかかわらず、職業を持ち続けるのがよい」の割合が24.8%、「子どもが生まれるまでは職業につき、子どもが生まれた後は家事や育児に専念するのがよい」の割合が11.3%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

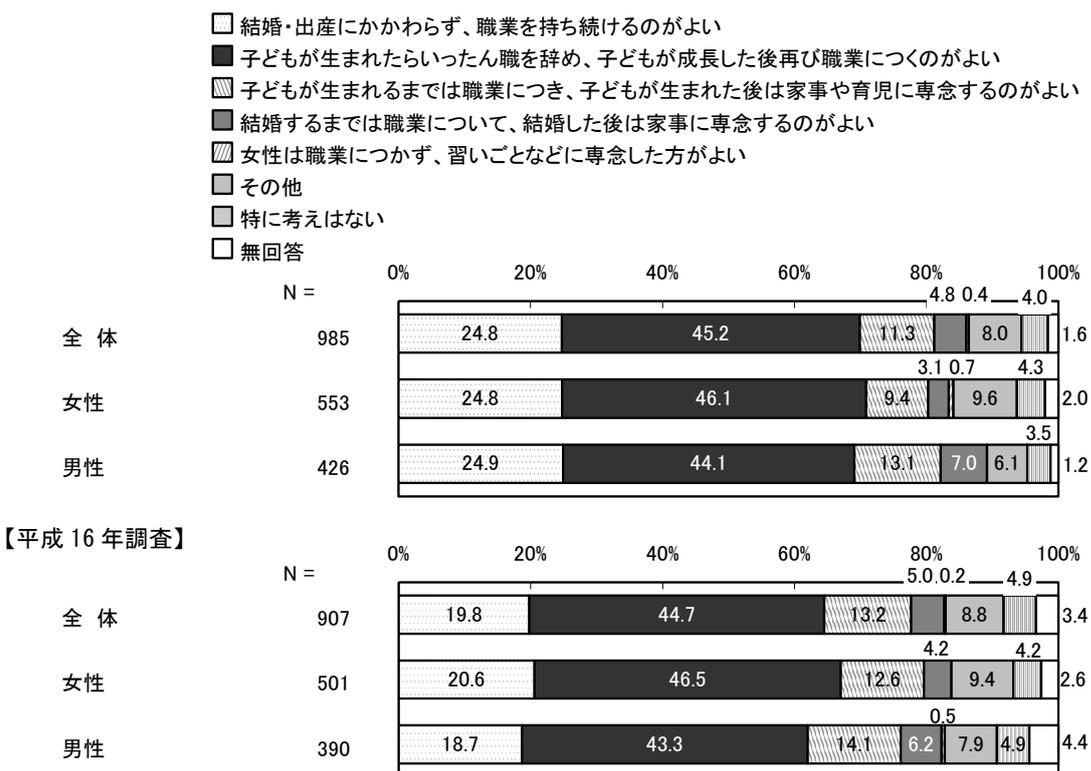
年代別でみると、他の年代に比べ20歳未満で「結婚・出産にかかわらず、職業を持ち続けるのがよい」の割合が低く、1割未満となっている一方、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長した後再び職業につくのがよい」の割合が高く、約7割となっています。また、80歳以上で「結婚するまでは職業について、結婚した後は家事に専念するのがよい」の割合が高くなっています。

性別婚姻別でみると、他に比べ女性の事実婚、未婚で「結婚・出産にかかわらず、職業を持ち続けるのがよい」の割合が高くなっています。

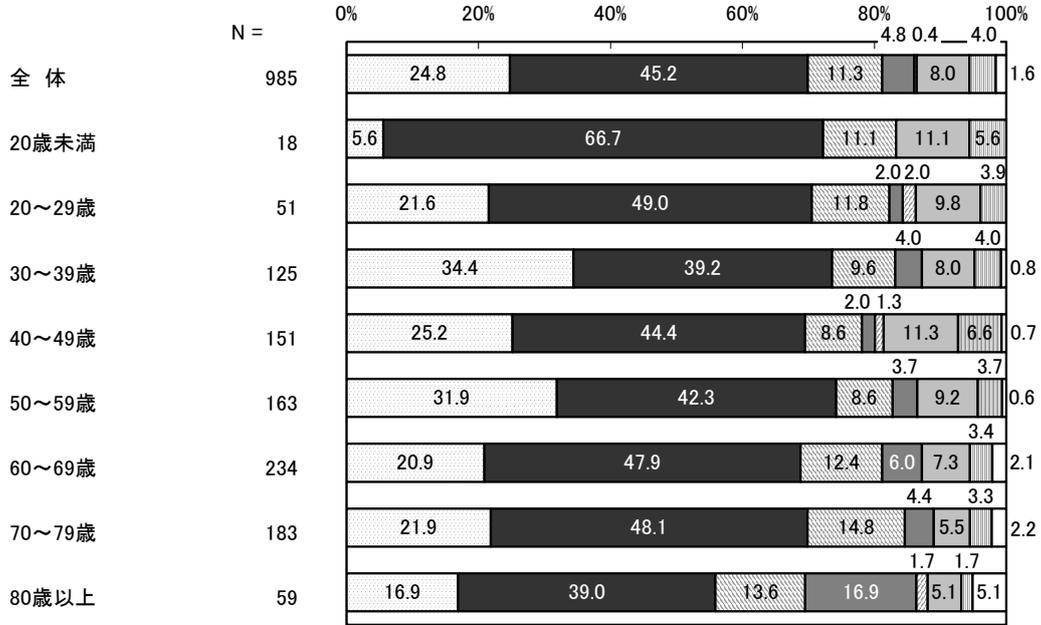
性別職業別でみると、他に比べ女性の常勤の務め（公務員・教員）で「結婚・出産にかかわらず、職業を持ち続けるのがよい」の割合が高く、7割を超えています。また、男性の学生で「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長した後再び職業につくのがよい」の割合が高く、約7割となっています。

夫婦の働き方別でみると、他に比べ共働き（ともにフルタイム）で「結婚・出産にかかわらず、職業を持ち続けるのがよい」の割合が高く、4割を超えています。

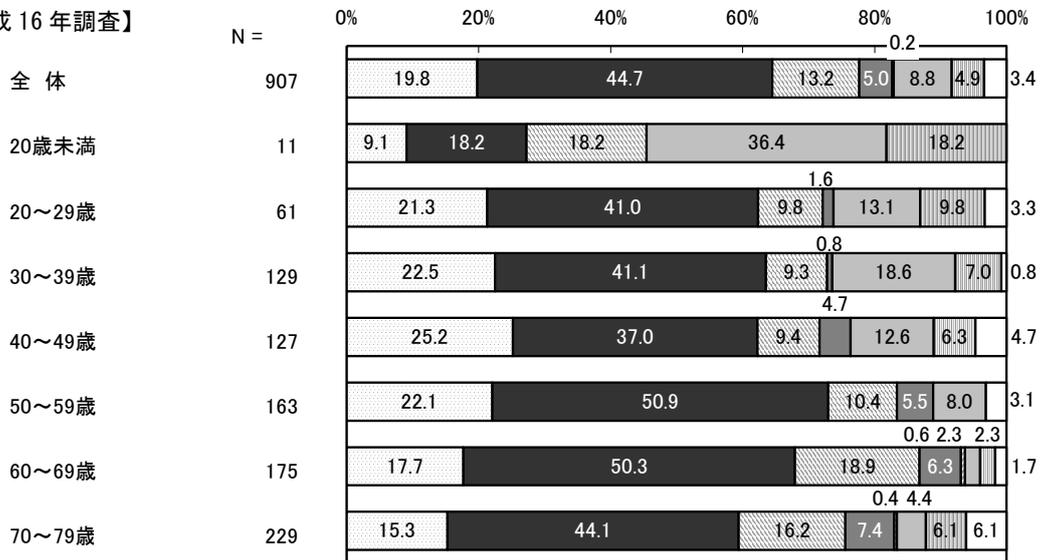
前回と比較し、年代別では、30～39歳で「結婚・出産にかかわらず、職業を持ち続けるのがよい」の割合が11.9ポイント、50～59歳で9.8ポイント増加しています。また、20歳未満「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長した後再び職業につくのがよい」の割合が47.5ポイント、20～29歳で8.0ポイント増加しています。



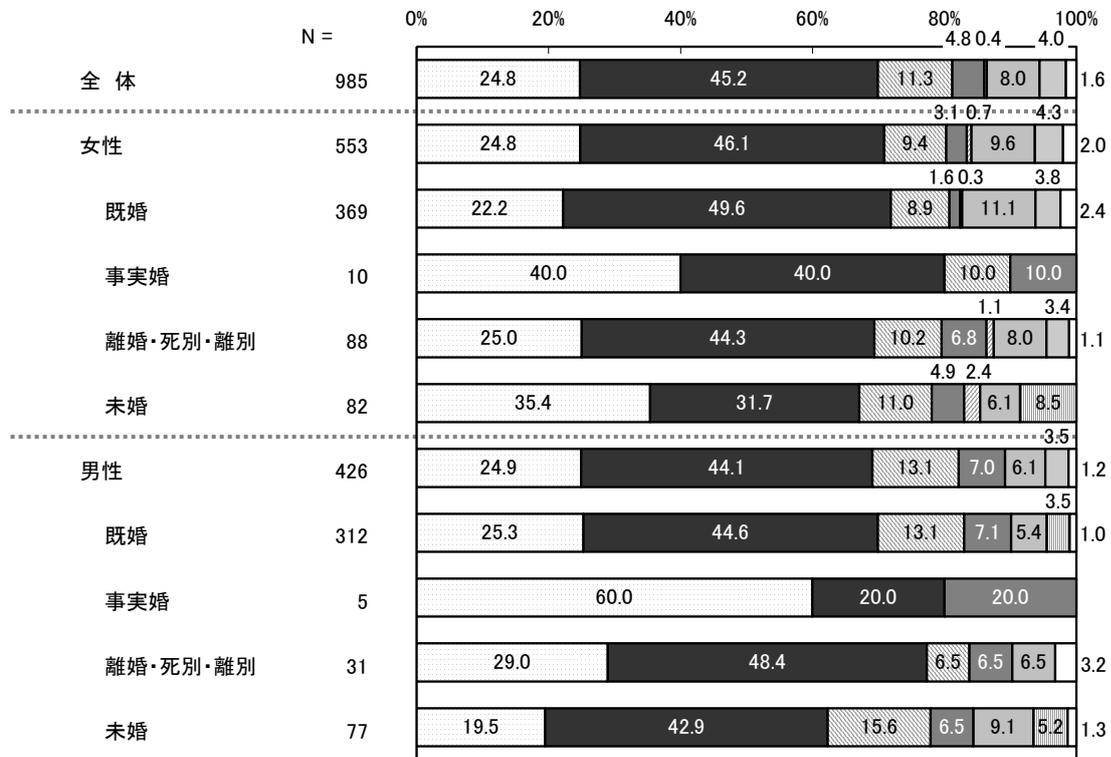
- 結婚・出産にかかわらず、職業を持ち続けるのがよい
- 子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長した後再び職業につくのがよい
- ▨ 子どもが生まれるまでは職業につき、子どもが生まれた後は家事や育児に専念するのがよい
- 結婚するまでは職業について、結婚した後は家事に専念するのがよい
- ▨ 女性は職業につかず、習いごとなどに専念した方がよい
- その他
- 特に考えはない
- 無回答



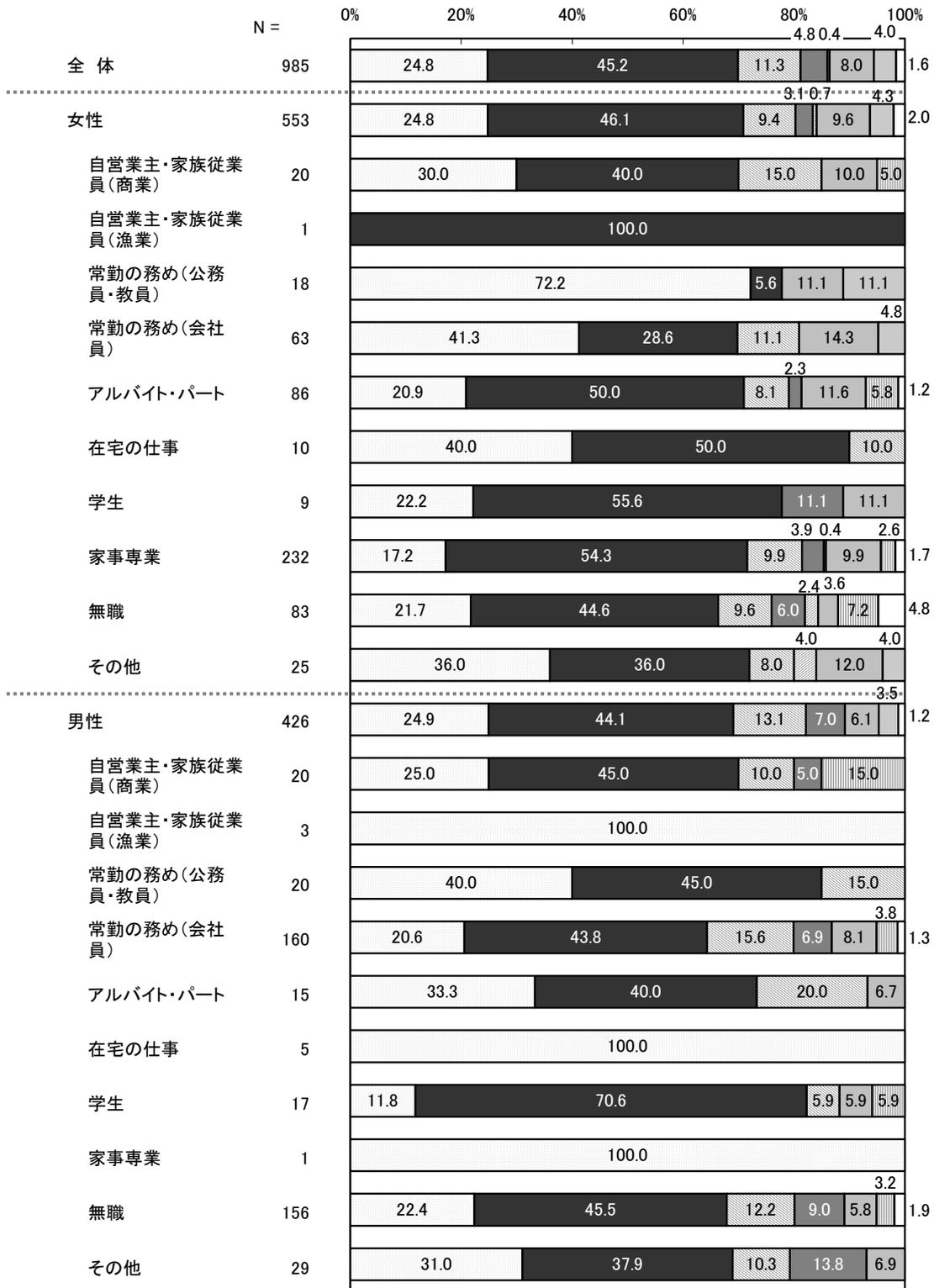
【平成16年調査】



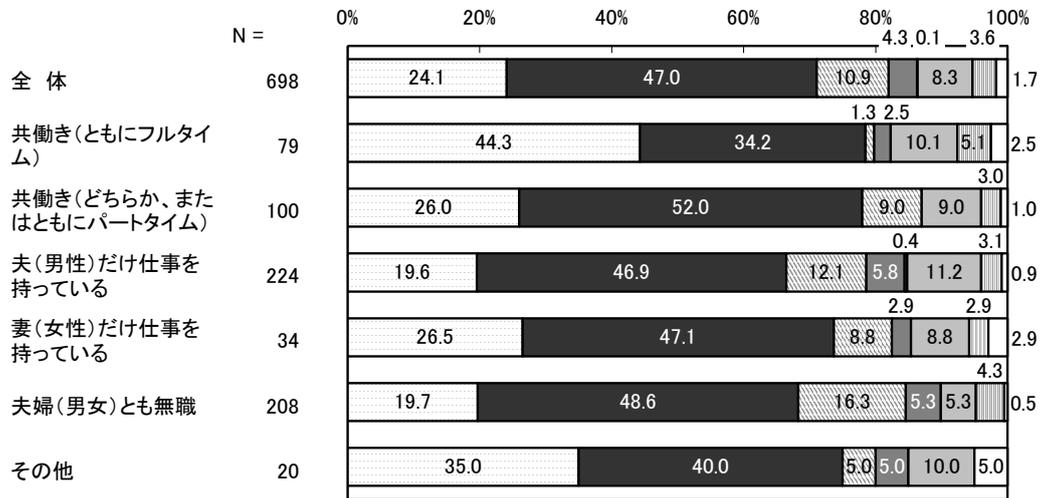
- 結婚・出産にかかわらず、職業を持ち続けるのがよい
- 子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長した後再び職業につくのがよい
- ▨ 子どもが生まれるまでは職業につき、子どもが生まれた後は家事や育児に専念するのがよい
- 結婚するまでは職業について、結婚した後は家事に専念するのがよい
- ▨ 女性は職業につかず、習いごとなどに専念した方がよい
- その他
- 特に考えはない
- 無回答



- 結婚・出産にかかわらず、職業を持ち続けるのがよい
- 子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長した後再び職業につくのがよい
- ▨ 子どもが生まれるまでは職業につき、子どもが生まれた後は家事や育児に専念するのがよい
- 結婚するまでは職業について、結婚した後は家事に専念するのがよい
- ▨ 女性は職業につかず、習いごとなどに専念した方がよい
- その他
- 特に考えはない
- 無回答



- 結婚・出産にかかわらず、職業を持ち続けるのがよい
- 子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長した後再び職業につくのがよい
- ▨ 子どもが生まれるまでは職業につき、子どもが生まれた後は家事や育児に専念するのがよい
- 結婚するまでは職業について、結婚した後は家事に専念するのがよい
- ▨ 女性は職業につかず、習いごとなどに専念した方がよい
- その他
- 特に考えはない
- 無回答



問 14 あなたが、問 12 や問 13 で答えたようになったのは、どのようなきっかけや理由があったからですか。下の 1～10 の中からおもなものを 2 つ以内で選び、数字を○で囲んでください。

男女の役割分担や女性が職業を持つことについての考え方のきっかけについては、「その他」を除くと、「仕事（職業）についてみて」の割合が 30.4%と最も高く、次いで「親の影響」の割合が 24.6%、「よくわからないが、気が付いたらそういうものだと思っていた」の割合が 13.9%となっています。

性別で見ると、女性に比べ男性で「地域活動などの社会参加を通じて」の割合が高くなっています。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方でみると、賛成と考えている人は「親の影響」の割合が高く、反対と考えている人、どちらともいえない・わからない人は「仕事（職業）についてみて」の割合が高くなっています。

女性が職業をもつことについての考え方でみると、結婚・出産にかかわらず、職業を持ち続けるのがよい、子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長した後再び職業につくのがよいと考える人において、「仕事（職業）についてみて」の割合が高く、子どもが生まれるまでは職業につき、子どもが生まれた後は家事や育児に専念するのがよい、結婚するまでは職業について、結婚した後は家事に専念するのがよいと考える人において「親の影響」の割合が高くなっています。

前回と比較し、全体では「仕事（職業）についてみて」の割合が 10.0 ポイント、「よくわからないが、気が付いたらそういうものだと思っていた」の割合が 6.2 ポイント減少しています。

性別では、女性で「仕事（職業）についてみて」の割合が 10.9 ポイント減少しています。また、男性で「よくわからないが、気が付いたらそういうものだと思っていた」の割合が 6.8 ポイント減少しています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	親の影響	先生の影響	地域活動などの社会参加を通じて	学習活動を通じて	友人・知人に影響を受けて	仕事（職業）についてみて	配偶者の影響で	テレビ・雑誌などのマスメディアの影響で	その他	よくわからないが、気が付いたらそういうものだと思っていた	無回答
全 体	985	24.6	0.8	11.2	5.3	6.8	30.4	13.3	7.3	15.1	13.9	4.1
女 性	553	26.0	0.9	8.3	3.6	8.0	30.4	14.3	7.2	15.7	12.7	5.4
男 性	426	23.0	0.5	14.8	7.5	5.4	30.5	11.7	7.5	14.3	15.7	2.3
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について	賛成	67	41.8	1.5	7.5	1.5	4.5	19.4	17.9	1.5	13.4	7.5
	どちらかといえば賛成	355	31.3	1.1	9.6	5.1	5.1	28.2	14.9	5.6	18.3	3.1
	どちらかといえば反対	166	14.5	0.6	14.5	7.8	9.6	31.9	14.5	12.7	12.7	1.8
	反対	137	23.4	1.5	10.9	8.0	4.4	39.4	13.9	5.8	13.9	1.5
	どちらともいえない・わからない	248	17.3	—	12.9	3.2	9.3	31.5	8.5	8.9	14.1	5.6

区分	有効回答数(件)	親の影響	先生の影響	地域活動などの社会参加を通じて	学習活動を通じて	友人・知人に影響を受けて	仕事(職業)についてみて	配偶者の影響で	テレビ・雑誌などのマスメディアの影響で	その他	よくわからないが、気が付いたらそういうものだと思っていた	無回答	
女性が職業をもつことについて	結婚・出産にかかわらず、職業を持ち続けるのがよい	244	23.8	0.8	14.3	5.3	7.4	36.1	13.9	9.4	13.1	13.1	0.8
	子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長した後再び職業につくのがよい	445	22.2	0.7	11.5	5.4	7.0	31.2	13.5	8.3	14.8	13.9	3.6
	子どもが生まれるまでは職業につき、子どもが生まれた後は家事や育児に専念するのがよい	111	36.0	0.9	9.0	4.5	7.2	22.5	16.2	2.7	17.1	14.4	2.7
	結婚するまでは職業について、結婚した後は家事に専念するのがよい	47	48.9	2.1	10.6	2.1	6.4	29.8	10.6	4.3	10.6	4.3	-
	女性は職業につかず、習いごとなどに専念の方がよい	4	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	25.0
	その他	79	13.9	1.3	5.1	10.1	7.6	29.1	11.4	8.9	29.1	12.7	3.8
	特に考えはない	39	15.4	-	10.3	-	2.6	23.1	7.7	-	7.7	33.3	15.4

【平成16年調査】

単位：%

区分	有効回答数(件)	親の影響	先生の影響	地域活動などの社会参加を通じて	学習活動を通じて	友人・知人に影響を受けて	仕事(職業)についてみて	配偶者の影響で	テレビ・雑誌などのマスメディアの影響で	その他	よくわからないが、気が付いたらそういうものだと思っていた	無回答
全体	884	24.3	0.9	10.4	7.5	8.5	40.4	11.4	9.2	14.4	20.1	1.9
女性	491	24.2	1.0	1.8	7.3	8.8	41.3	12.0	8.1	15.5	18.7	2.0
男性	378	24.3	0.8	10.3	7.7	8.5	38.4	10.8	10.1	13.0	22.5	1.9

問 15 女性が職業を持ち、またそれを続けていく上で、特に大きな障害となっていると思うものを、下の1～13の中から3つ以内で選び、数字を○で囲んでください。

女性が職業を持つことの障害については、女性が「育児との両立」の割合が63.4%と最も高く、次いで「家事との両立」の割合が39.6%、「保育施設の数や保育内容が十分でないこと」の割合が37.5%となっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「夫など家族の協力や理解が得にくいこと」、「高齢者や病人など家族の介護との両立」の割合が高く、約2割となっています。また、女性に比べ男性で「育児との両立」、「女性自身の、職業に対する自覚が不足していること」の割合が高くなっています。

性別婚姻別で見ると、他に比べ女性の既婚、事実婚で「育児との両立」の割合が高くなっています。

前回と比較し、全体では「夫など家族の協力や理解が得にくいこと」の割合が7.2ポイント減少しており、また、「保育施設の数や保育内容が十分でないこと」の割合が10.0ポイント増加しています。

性別では、女性で「夫など家族の協力や理解が得にくいこと」の割合が9.3ポイント減少しています。また、「育児休業制度など職場の労働条件が整っていないこと」の割合が8.0ポイント、「保育施設の数や保育内容が十分でないこと」の割合が10.6ポイント増加しています。男性で「保育施設の数や保育内容が十分でないこと」の割合が9.5ポイント増加しています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	家事との両立	育児との両立	夫など家族の協力や理解が得にくいこと	育児休業制度など職場の労働条件が整っていないこと	職場が結婚・出産した女性(女性が長く勤めること)を嫌う傾向があること	職場が女性に責任ある仕事をまかせないこと	男性に比べ賃金が低いこと
全体	985	39.6	63.4	14.5	30.2	15.8	6.2	9.3
女性	553	39.2	57.3	18.6	30.0	15.0	4.9	11.0
既婚	369	38.8	61.8	20.9	30.1	13.6	3.8	8.9
事実婚	10	60.0	80.0	—	60.0	30.0	10.0	—
離婚・死別・離別	88	40.9	47.7	15.9	21.6	13.6	1.1	15.9
未婚	82	36.6	47.6	14.6	35.4	20.7	13.4	15.9
男性	426	40.4	71.4	9.4	30.3	16.9	8.0	7.0
既婚	312	44.2	71.8	9.0	28.5	15.7	6.1	7.7
事実婚	5	20.0	40.0	20.0	60.0	20.0	—	20.0
離婚・死別・離別	31	19.4	64.5	6.5	32.3	25.8	19.4	6.5
未婚	77	35.1	74.0	11.7	35.1	18.2	11.7	3.9

区分	配偶者控除制度があること	保育施設の数や保育内容が十分でないこと	高齢者や病人など家族の介護との両立	女性自身の、職業に対する自覚が不足していること	自分や、夫など家族の転勤	障害は特にならない	無回答
全体	3.5	37.5	20.4	10.2	4.1	1.6	3.4
女性	3.8	37.3	23.1	7.6	3.6	1.8	4.2
既婚	4.1	37.7	23.0	6.5	4.6	4.3	1.4
事実婚	10.0	30.0	—	20.0	—	—	—
離婚・死別・離別	2.3	34.1	25.0	11.4	3.4	4.5	5.7
未婚	3.7	39.0	24.4	7.3	—	2.4	—
男性	2.8	38.0	17.1	13.1	4.7	1.4	2.1
既婚	3.5	39.7	16.7	14.1	3.8	1.9	1.6
事実婚	—	—	40.0	40.0	—	—	—
離婚・死別・離別	3.2	58.1	16.1	9.7	3.2	3.2	—
未婚	—	24.7	16.9	9.1	9.1	2.6	1.3

区分	有効回答数(件)	家事との両立	育児との両立	夫など家族の協力や理解が得にくいこと	育児休業制度など職場の労働条件が整っていないこと	職場が結婚・出産した女性(女性が長く勤めること)を嫌う傾向があること	職場が女性に責任ある仕事をまかせないこと	男性に比べ賃金が低いこと
全体	907	41.8	62.7	21.7	25.8	14.3	5.8	9.4
女性	501	42.3	56.9	27.9	22.0	14.8	5.6	11.6
男性	390	40.8	70.0	13.6	31.0	14.1	6.4	6.7

区分	配偶者控除制度があること	保育施設の数や保育内容が十分でないこと	高齢者や病人など家族の介護との両立	女性自身の、職業に対する自覚が不足していること	自分や、夫など家族の転勤	障害は特にならない	無回答
全体	4.4	27.5	15.3	14.4	5.0	2.1	4.0
女性	4.2	26.7	18.0	14.2	4.8	3.2	4.0
男性	4.9	28.5	11.3	14.4	5.4	0.8	3.8

問16～21は、現在何らかの形で仕事に就いている方「パートやアルバイト、契約社員などを含む」に対する質問です。該当しない方は、問22へお進みください。

問16 あなたが現在働いているのは、どのような理由からでしょうか。下の1～13の中から最も近いものを3つ以内で選び、数字を○で囲んでください。

現在働いている理由については、「生計を維持するため(家族を養うため)」の割合が49.3%と最も高く、次いで「自分で自由に使えるお金を得るため」の割合が25.4%、「自分の能力・技能・資格をいかすため」の割合が23.5%、「働くのが当然だから」の割合が22.4%となっています。

性別で見ると、女性に比べ男性で「生計を維持するため(家族を養うため)」の割合が高く、6割を超えています。また、男性に比べ女性で「自分で自由に使えるお金を得るため」の割合が高く、3割を超えています。

前回と比較し、性別では、女性で「老後に備えて貯蓄するため」の割合が7.7ポイント増加しています。また、男性で「生計を維持するため(家族を養うため)」の割合が6.6ポイント増加しています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	生計を維持するため (家族を養うため)	家計の足しにする ため	自分で自由に使える お金を得るため	生きがいを得るため	自分の能力・技能・ 資格をいかすため	視野を広げるため	友人を得るため
全 体	477	49.3	17.4	25.4	13.4	23.5	6.1	0.8
女 性	223	32.3	29.1	35.9	15.2	27.8	9.4	0.9
男 性	252	63.9	6.7	16.3	11.5	19.8	3.2	0.8

区分	子どもの教育費の ため	老後に備えて貯蓄 するため	社会とのつながりを 得るため・社会に貢献 するため	働くのが当然だから	時間的に余裕が あるから	家業であるから	無回答
全 体	9.2	16.4	21.4	22.4	7.3	1.9	16.4
女 性	9.4	19.3	20.2	18.8	12.1	1.8	10.8
男 性	9.1	13.5	22.2	25.8	3.2	2.0	21.4

【平成16年調査】

単位：％

区分	有効回答数(件)	生計を維持するため (家族を養うため)	家計の足しにするた め	自分で自由に使える お金を得るため	生きがいを得るため	自分の能力・技能・資 格をいかすため	視野を広げるため	友人を得るため
全 体	459	43.4	15.3	24.0	18.7	22.7	8.5	2.2
女 性	215	27.9	27.0	32.6	20.9	28.8	14.0	3.3
男 性	239	57.3	4.6	16.3	16.3	16.3	3.8	1.3

区分	子どもの教育費のた め	老後に備えて貯蓄す るため	社会とのつながりを 得るため・社会に貢献 するため	働くのが当然だから	時間的に余裕がある から	家業であるから	無回答
全 体	6.1	11.8	21.1	22.7	5.4	3.7	16.3
女 性	7.0	11.6	22.3	20.5	7.0	6.0	9.8
男 性	5.4	12.1	19.2	25.1	4.2	1.3	22.6

問 17 あなたの職場では、下に掲げるようなことがありますか。該当するものをすべて
 選び、数字を○で囲んでください。(いくつ選んでもかまいません。)

職場でみられる男女の差別的取扱いについては、「1～12で挙げられたようなことはない」の割合が34.6%と最も高く、次いで「配置や仕事の与え方に性別による格差がある」の割合が20.1%、「正社員と同じような仕事をしているのにパートの待遇が劣っている」の割合が19.3%となっています。

性別でみると、女性に比べ男性で「配置や仕事の与え方に性別による格差がある」、「職場が積極的に女性の登用を図っている(ポジティブ・アクションの実施)」の割合が高くなっています。

前回と比較し、性別では、男性で「配置や仕事の与え方に性別による格差がある」の割合が6.2ポイント増加しています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	募集や採用で性別による格差がある	賃金・昇給で性別による格差がある	昇進・昇格で性別による格差がある	配置や仕事の与え方に性別による格差がある	教育訓練や研修などに性別による格差がある	住宅資金の貸付に性別による格差がある	結婚退職や出産退職の慣例・慣行がある、または居づらい雰囲気がある
全体	477	10.9	9.6	12.4	20.1	3.1	1.5	4.8
女性	223	9.9	9.0	13.0	14.8	4.5	2.2	5.4
男性	252	11.9	10.3	11.9	25.0	2.0	0.8	4.4

区分	定年に性別による格差がある	正社員と同じような仕事をしているのにパートの待遇が劣っている	職場が積極的に女性の登用を図っている(ポジティブ・アクションの実施)	深夜業に性別による格差がある	時間外労働に性別による格差がある	1～12で挙げられたようなことはない	無回答
全体	1.7	19.3	11.9	5.7	3.4	34.6	19.5
女性	1.3	21.5	8.1	3.1	1.8	39.9	17.0
男性	1.6	16.7	15.1	7.9	4.8	30.2	21.8

区分	有効回答数(件)	募集や採用で性別による格差がある	賃金・昇給で性別による格差がある	昇進・昇格で性別による格差がある	配置や仕事の与え方に性別による格差がある	教育訓練や研修などに性別による格差がある	住宅資金の貸付に性別による格差がある	結婚退職や出産退職の慣例・慣行がある、または居づらい雰囲気がある
全体	459	9.4	11.1	13.3	15.9	3.1	1.7	3.7
女性	215	6.5	10.7	12.6	13.0	2.3	2.8	4.7
男性	239	12.1	11.7	14.2	18.8	3.8	0.8	2.9

区分	定年に性別による格差がある	正社員と同じような仕事をしているのにパートの待遇が劣っている	職場が積極的に女性の登用を図っている(ポジティブ・アクションの実施)	深夜業に性別による格差がある	時間外労働に性別による格差がある	1〜12で挙げられたようなことはない	無回答
全体	0.4	17.4	8.7	3.1	4.1	35.7	23.1
女性	0.9	21.9	7.4	1.4	2.3	42.8	17.7
男性	—	13.8	9.6	4.6	5.9	29.3	27.6

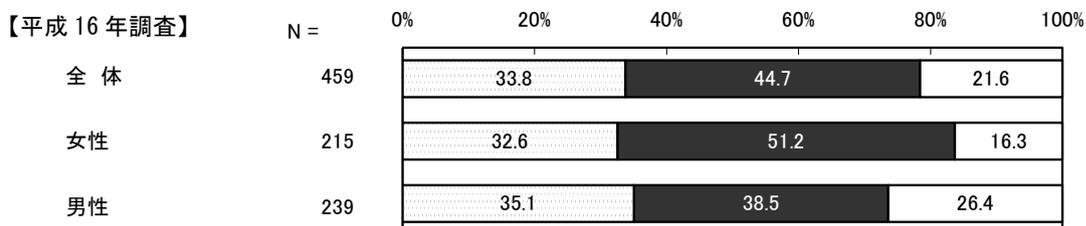
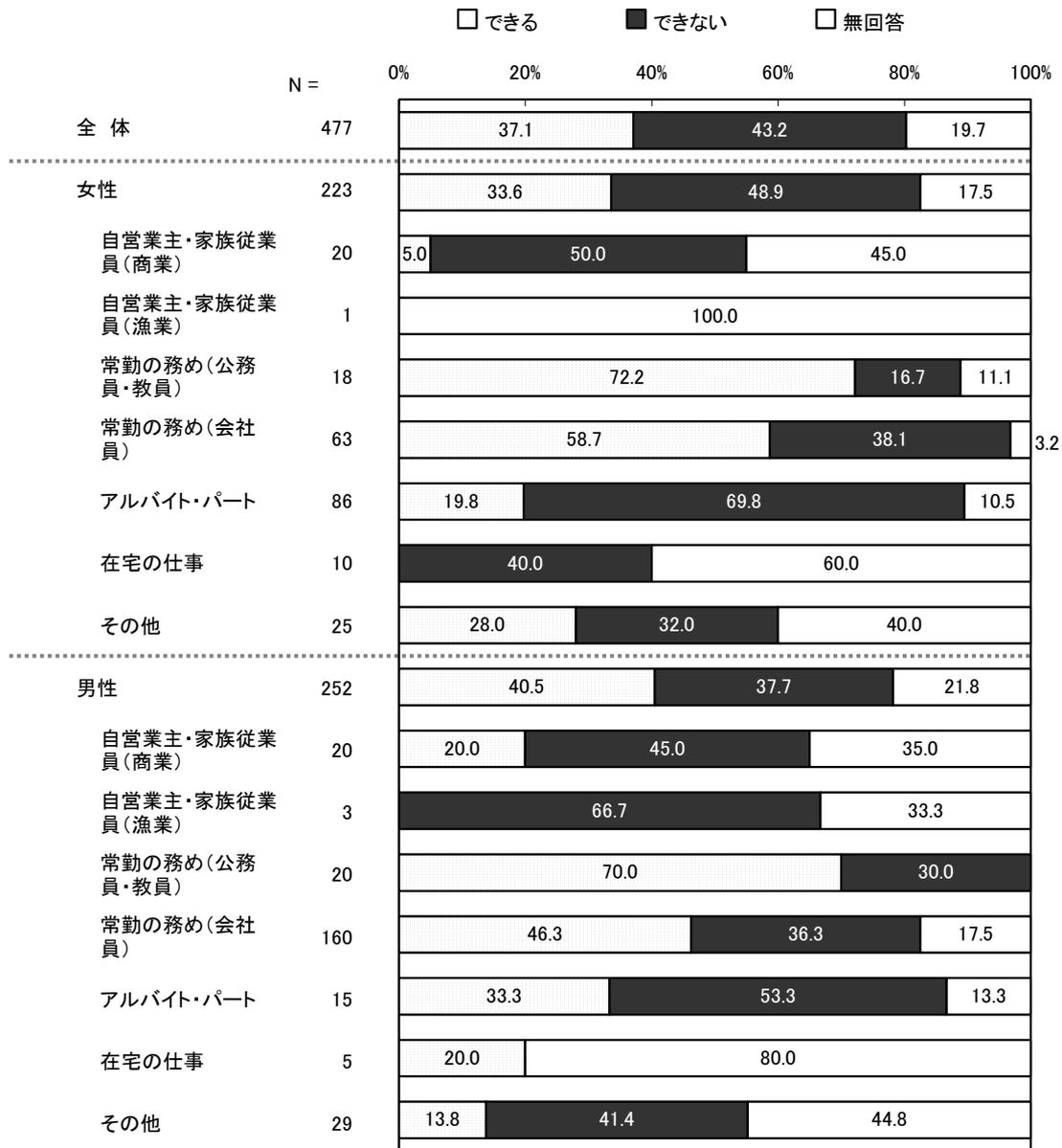
問 18 あなたに現在、育児や介護が必要な家族がいた場合、育児や介護のための、法律で定められた休業制度を利用することができますか。下の1か2のどちらか1つだけを選び、数字を○で囲んでください。

育児休業制度、介護休業制度の利用の可否については、「できる」の割合が37.1%、「できない」の割合が43.2%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「できない」の割合が高く、約5割となっています。

性別職業別でみると、女性、男性とも「常勤の務め（公務員・教員）」で「できる」の割合が高く、約7割となっています。一方、女性のアルバイト・パートで「できない」の割合が高く、約7割となっています。

前回と比較し、性別では、男性で「できる」の割合が5.4ポイント増加しています。



問 19 は問 18 で「2 できない」と答えた方に対する質問です。該当しない方は、問 20 へお進みください。

問 19 長期の休業制度を利用することができないのは、どのような理由からでしょうか。下の 1～9 の中から 1 つだけ選び、数字を○で囲んでください。

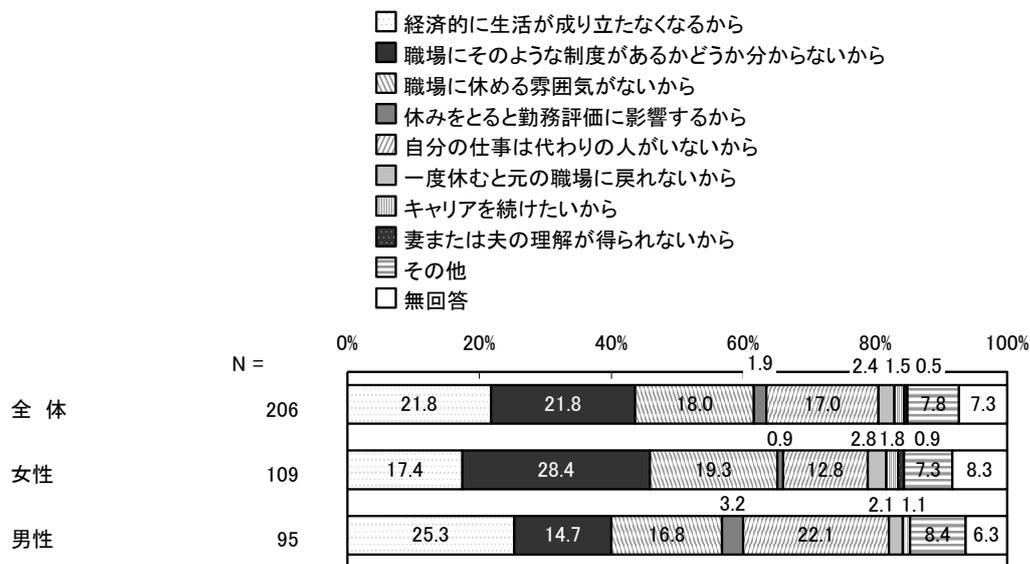
長期休業制度を利用できない理由については、「経済的に生活が成り立たなくなるから」、「職場にそのような制度があるかどうか分からないから」の割合が 21.8%と最も高く、次いで「職場に休める雰囲気がないから」の割合が 18.0%、「自分の仕事は代わりの人がいないから」の割合が 17.0%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「職場にそのような制度があるかどうか分からないから」の割合が高く、約 3 割となっています。また、女性に比べ男性で「経済的に生活が成り立たなくなるから」、「自分の仕事は代わりの人がいないから」の割合が高く、約 2 割となっています。

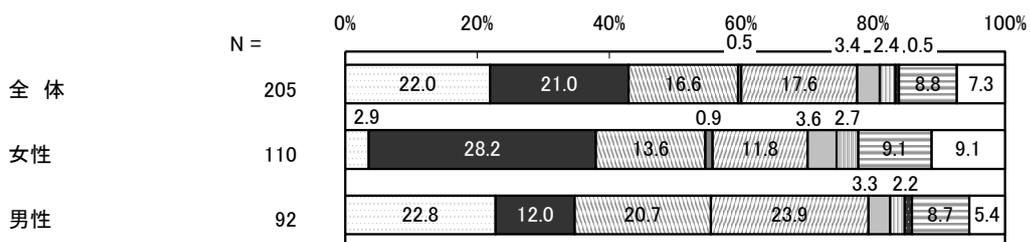
職業別でみると、自営業主・家族従業員（商業）で「自分の仕事は代わりの人がいないから」の割合が高く、5 割を超えています。また、アルバイト・パート（学生を除く）で「職場にそのような制度があるかどうか分からないから」の割合が高く、約 4 割となっています。

性別職業別でみると、女性の常勤の務め（会社員）で「職場に休める雰囲気がないから」の割合が高く、約 4 割となっています。

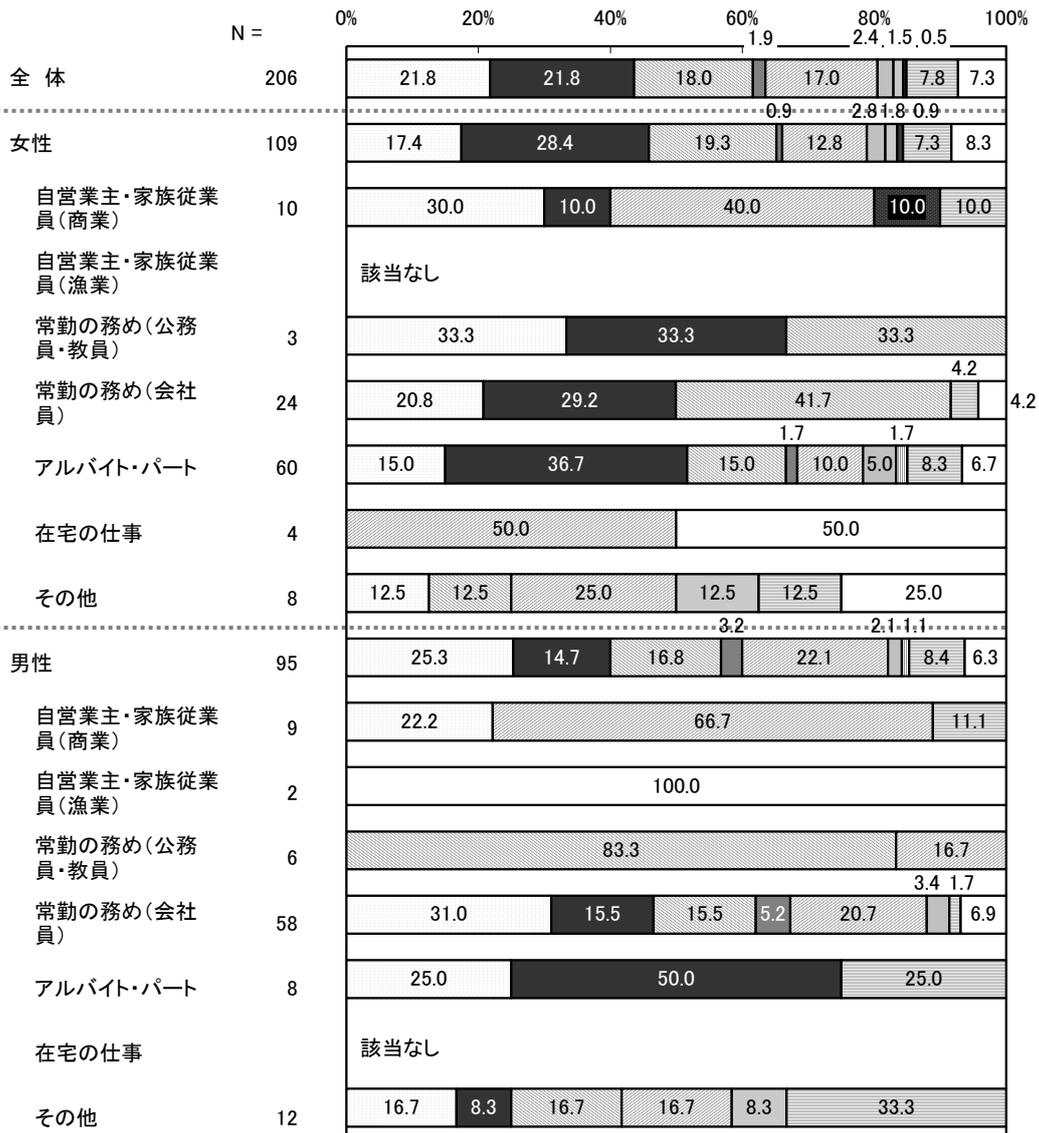
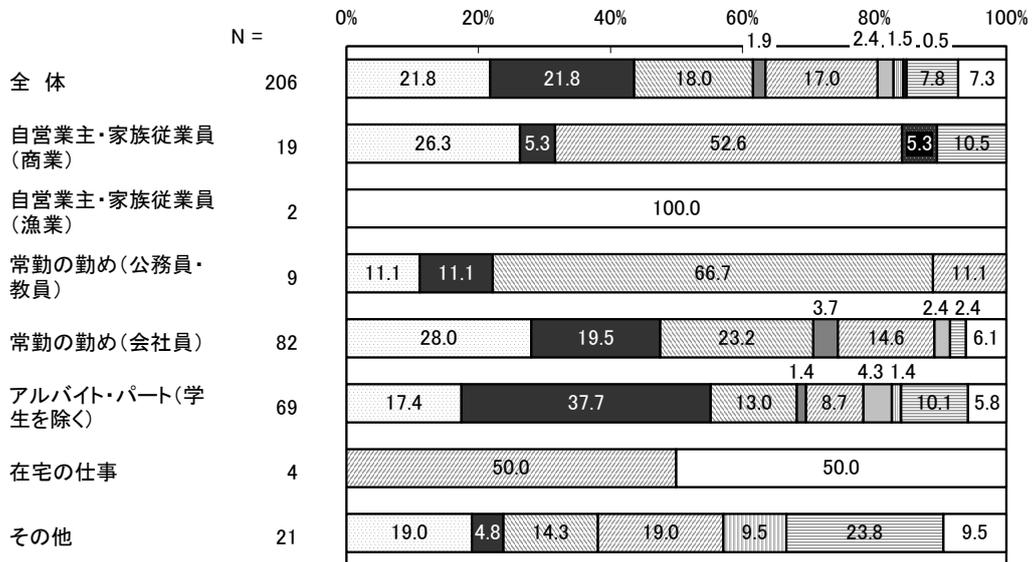
前回と比較し、性別では、女性で「経済的に生活が成り立たなくなるから」の割合が 14.5 ポイント、「職場に休める雰囲気がないから」の割合が 5.7 ポイント増加しています。



【平成 16 年調査】



- 経済的に生活が成り立たなくなるから
- 職場にそのような制度があるかどうか分からないから
- ▨ 職場に休める雰囲気がないから
- 休みをとると勤務評価に影響するから
- ▨ 自分の仕事は代わりの人がいないから
- ▨ 一度休むと元の職場に戻れないから
- ▨ キャリアを続けたいから
- 妻または夫の理解が得られないから
- ▨ その他
- 無回答



問 20 性的な言動により相手を不快にさせたり、相手の意に反して性的な行為を強要したりすることは、「セクシュアル・ハラスメント」といわれています。あなたの職場では下に掲げるような行為が、過去1年以内にありましたか。該当するものをすべて選び、数字を○で囲んでください。(いくつ選んでもかまいません。)

セクシュアル・ハラスメントの経験については、「上記のような行為はなかった」の割合が58.5%と最も高く、次いで「容姿や年齢、身体的特徴について話題にする」の割合が13.8%、「男の子、女の子」「おじさん、おばさん」といった呼び方をする」の割合が8.8%、「性的な話をする、質問をする」の割合が8.0%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

前回と比較し、全体では「上記のような行為はなかった」の割合が8.8ポイント増加しています。

性別では、男女ともに「上記のような行為はなかった」の割合が約10.0ポイント増加しています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	性的な話をする、質問をする	容姿や年齢、身体的特徴について話題にする	結婚、子どもの有無など私生活に関わることに必要以上に質問する、話題にする	「男のくせに」「女には仕事を任せられない」などと発言する	「男の子、女の子」「おじさん、おばさん」といった呼び方をする	ヌード写真・雑誌等を職場で見ると、パソコンの壁紙(画面)が水着写真等になっている
全体	477	8.0	13.8	5.2	3.6	8.8	1.7
女性	223	6.7	15.2	6.7	1.8	9.0	1.3
男性	252	8.7	12.3	3.6	4.8	8.3	2.0

区分	不必要に身体をさわる	酒席等でお酌やデユエットを強要する、席を指定する	執拗に交際を求める	性的関係を求める、迫る	戦略的に異性を取引先の担当者や接遇・接待要員にする	上記のような行為はなかった	無回答
全体	1.5	1.5	0.6	0.4	1.0	58.5	19.7
女性	1.8	1.3	—	—	0.9	60.5	17.0
男性	1.2	1.6	1.2	0.8	1.2	57.1	21.8

区分	有効回答数(件)	性的な話をする、質問をする	容姿や年齢、身体的特徴について話題にする	結婚、子どもの有無など私生活に関わることに必要以上に質問する、話題にする	「男のくせに」「女には仕事を任せられない」などと発言する	「男の子、女の子」「おじさん、おばさん」といった呼び方をする	又道写真・雑誌等を職場で見る、パソコンの壁紙(画面)が水着写真等になっている
全体	459	5.4	13.9	4.6	3.5	8.3	2.2
女性	215	6.5	15.3	6.5	3.3	10.2	0.9
男性	239	4.6	13.0	2.9	3.8	6.7	3.3

区分	不必要に身体をさわる	酒席等でお酌やデユエットを強要する、席を指定する	執拗に交際を求める	性的関係を求める、迫る	戦略的に異性を取引先の担当者や接遇・接待要員にする	上記のような行為はなかった	無回答
全体	1.5	2.2	0.9	0.7	0.9	49.7	26.6
女性	2.8	2.3	1.4	1.4	0.5	53.0	21.9
男性	0.4	2.1	0.4	—	1.3	46.4	30.5

問21は現在パート・アルバイトで働いている方に対する質問です。
該当しない方は問22へお進みください。

問21 あなたがパートタイムという働き方を選んだのは、どのような理由からでしょうか。下の1～12の中から2つ以内で選び、数字を○で囲んでください。

パートタイムという働き方を選択した理由については、「自分の都合の良い日や時間に働きたいから」の割合が40.2%と最も高く、次いで「自宅の近くで働けるから」の割合が36.3%、「勤務時間が短い・勤務日数が少ないから」の割合が20.6%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「自分の都合の良い日や時間に働きたいから」の割合が高く、4割を超えています。また、女性に比べ男性で「自宅の近くで働けるから」、「正社員としては雇用してもらえなかったから」、「正社員としては適当な仕事が見つからなかったから」の割合が高くなっています。

前回と比較し、全体では「自宅の近くで働けるから」の割合が9.7ポイント増加しています。

性別では、女性で「自宅の近くで働けるから」の割合が9.3ポイント増加しています。また、男性で「自宅の近くで働けるから」の割合が12.9ポイント、「正社員としては雇用してもらえなかった」の割合が6.7ポイント、「正社員としては適当な仕事が見つからなかった」の割合が20.0ポイント増加しています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	自分の都合の良い日や時間に働きたいから	自宅の近くで働けるから	勤務時間が短い・勤務日数が少ないから	仕事が比較的簡単だから	非課税限度額(年間103万円以下)で働きたかったから	正社員に比べ、辞めたい時に辞めやすいから
全体	102	40.2	36.3	20.6	3.9	10.8	3.9
女性	86	44.2	34.9	20.9	2.3	12.8	3.5
男性	15	20.0	46.7	13.3	13.3	—	6.7

区分	残業がないから	正社員としては雇用してもらえなかったから	正社員としては適当な仕事が見つからなかったから	子育て中なので正社員としての勤務は無理だから	介護中なので正社員としての勤務は無理だから	その他	無回答
全体	2.0	7.8	10.8	12.7	1.0	6.9	6.9
女性	2.3	5.8	7.0	15.1	1.2	4.7	7.0
男性	—	20.0	33.3	—	—	13.3	6.7

【平成16年調査】

単位：％

区分	有効回答数(件)	自分の都合の良い日や時間に働きたいから	自宅の近くで働けるから	勤務時間が短い・勤務日数が少ないから	仕事が比較的簡単だから	非課税限度額(年間103万円以下)で働きたかったから	正社員に比べ、辞めたい時に辞めやすいから
全体	94	40.4	26.6	23.4	3.2	17.0	6.4
女性	78	43.6	25.6	24.4	2.6	19.2	7.7
男性	15	26.7	33.8	13.3	6.7	6.7	—

区分	残業がないから	正社員としては雇用してもらえなかったから	正社員としては適当な仕事が見つからなかったから	子育て中なので正社員としての勤務は無理だから	介護中なので正社員としての勤務は無理だから	その他	無回答
全体	1.1	12.8	9.6	13.8	1.1	5.3	5.3
女性	1.3	12.8	9.0	15.4	1.3	2.6	3.8
男性	—	13.3	13.3	—	—	20.0	13.3

ここからはすべての方がお答えください。

問 22 あなたは、子どものしつけや教育についてどう思いますか。下の1～4の中から1つだけ選び、数字を○で囲んでください。

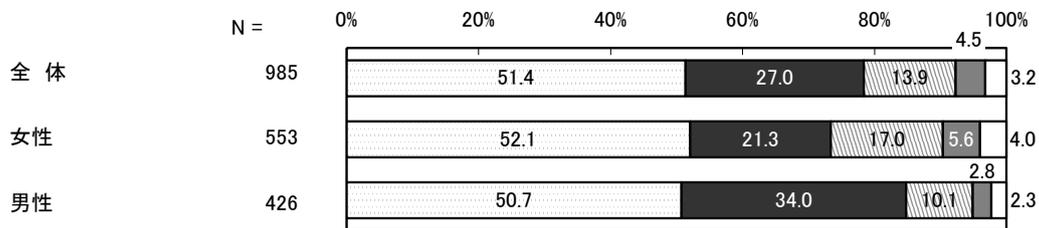
子どものしつけや教育については、「女の子も男の子も性別による区別はせずに、同じようにしつけや教育をするのがよい」の割合が51.4%と最も高く、次いで「女の子と男の子とは区別して、それぞれの性別に応じたしつけや教育をするのがよい」の割合が27.0%、「どちらともいえない」の割合が13.9%となっています。

性別で見ると、女性に比べ男性で「女の子と男の子とは区別して、それぞれの性別に応じたしつけや教育をするのがよい」の割合が高く、3割を超えています。

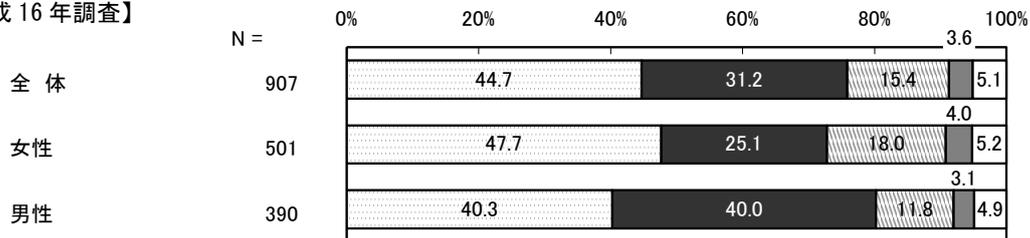
前回と比較し、全体では「女の子も男の子も性別による区別はせずに、同じようにしつけや教育をするのがよい」の割合が6.7ポイント増加しています。

性別では、男性で「女の子も男の子も性別による区別はせずに、同じようにしつけや教育をするのがよい」の割合が10.4ポイント増加しています。

- 女の子も男の子も性別による区別はせずに、同じようにしつけや教育をするのがよい
- 女の子と男の子とは区別して、それぞれの性別に応じたしつけや教育をするのがよい
- どちらともいえない
- その他
- 無回答



【平成16年調査】



問 23 あなたが、学校における「男女平等教育」を推進する上で今後特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。下の1～9の中から3つ以内で選び、数字を○で囲んでください。

男女平等教育を推進する上で特に力を入れるべきことについては、「男女平等」の意識を育てる授業をする」の割合が47.6%と最も高く、次いで「生活指導や進路指導において男女差別を無くす配慮をする」の割合が42.9%、「教員自身の固定観念を取り除く研修を行う」の割合が37.3%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

前回と比較し、性別では、女性で「教員自身の固定観念を取り除く研修を行う」の割合が10.1ポイント減少しています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	「男女平等」の意識を育てる授業をする	生活指導や進路指導において男女差別を無くす配慮をする	出席簿・座席・名簿など、男女を分ける習慣をなくす	教員自身の固定観念を取り除く研修を行う	学校におけるセクシュアル・ハラスメントへの予防・対策強化を行う	校長や教頭に女性を増やしていく	小学校に男性教員を増やしていく	その他	学校教育の中で行う必要はないと思う	無回答
全体	985	47.6	42.9	11.3	37.3	23.2	14.6	9.0	4.0	6.5	6.6
女性	553	44.7	42.5	11.0	35.6	21.9	15.9	8.9	2.4	5.8	9.0
男性	426	51.6	43.7	11.7	39.0	24.9	13.1	8.7	6.1	7.3	3.5

【平成16年調査】

単位：%

区分	有効回答数(件)	「男女平等」の意識を育てる授業をする	生活指導や進路指導において男女差別を無くす配慮をする	出席簿・座席・名簿など、男女を分ける習慣をなくす	教員自身の固定観念を取り除く研修を行う	学校におけるセクシュアル・ハラスメントへの予防・対策強化を行う	校長や教頭に女性を増やしていく	小学校に男性教員を増やしていく	その他	学校教育の中で行う必要はないと思う	無回答
全体	907	45.0	42.2	12.3	41.3	20.5	16.4	9.6	4.9	5.4	7.2
女性	501	42.5	43.5	11.6	45.7	19.8	17.6	8.6	4.4	6.0	8.6
男性	390	48.2	39.7	13.3	35.9	22.1	15.1	11.0	5.1	4.9	5.4

問 24 あなたが、「女性の人権が侵害されている」と感じることは何ですか。下の1～10の中から該当するものをすべて選び、数字を○で囲んでください。(いくつ選んでもかまいません。女性も男性もお答えください。)

女性の人権が侵害されていると感じることについては、「痴漢やレイプなどの性的暴力」の割合が73.2%と最も高く、次いで「職場におけるセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇」の割合が56.4%、「夫や恋人からの暴力」の割合が51.2%となっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「買春・売春・援助交際」、「風俗店」、「夫や恋人からの暴力」、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇」、「雑誌や広告に掲載されたヌード写真等」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「ストーカー行為」の割合が高くなっています。

前回と比較し、全体では「夫や恋人からの暴力」の割合が5.6ポイント増加しています。

性別では、女性で「買春・売春・援助交際」の割合が9.8ポイント、「夫や恋人からの暴力」の割合が5.6ポイント増加しています。また、男性で「ストーカー行為」の割合が7.0ポイント増加しています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	買春・売春・援助交際	風俗店	ストーカー行為	夫や恋人からの暴力	痴漢やレイプなどの性的暴力	職場におけるセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇	雑誌や広告に掲載されたヌード写真等	容姿を競うミス・コンテストなど	「婦人」「未亡人」などのように女性だけに用いられる言葉	その他	無回答
全体	985	48.3	35.5	45.1	51.2	73.2	56.4	19.8	9.9	13.5	2.4	6.2
女性	553	51.5	39.2	42.0	53.7	75.4	60.0	22.6	8.9	13.7	1.4	7.2
男性	426	43.9	30.8	49.3	47.4	70.4	51.6	16.2	11.5	12.9	3.8	4.9

【平成16年調査】

単位：％

区分	有効回答数(件)	買春・売春・援助交際	風俗店	ストーカー行為	夫や恋人からの暴力	痴漢やレイプなどの性的暴力	職場におけるセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇	雑誌や広告に掲載されたヌード写真等	容姿を競うミス・コンテストなど	「婦人」「未亡人」などのように女性だけに用いられる言葉	その他	無回答
全体	907	46.7	33.5	40.7	45.6	69.6	52.1	23.8	8.3	13.9	3.5	8.5
女性	501	41.7	36.3	40.1	48.1	70.5	55.1	27.1	9.4	16.4	3.2	9.0
男性	390	40.8	30.0	42.3	43.3	69.0	49.2	20.0	6.7	10.5	3.6	7.7

問 25 テレビ・映画・新聞・雑誌・インターネットなどのマスメディアにおける、性別による固定的な役割分担の表現や、女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのように考えますか。下の1～7の中から2つ以内で選び、数字を○で囲んでください。

マスメディアの性別による役割分担、女性に対する暴力、性の表現については、「そのような表現を望まない人や、子どもに対する配慮が足りない」の割合が47.7%と最も高く、次いで「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれた表現が目立つ」の割合が36.1%、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」の割合が26.8%、「性犯罪につながる可能性がある表現が含まれている」の割合が26.2%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「そのような表現を望まない人や、子どもに対する配慮が足りない」の割合が高く、5割を超えています。

前回と比較し、性別では、女性で「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれた表現が目立つ」の割合が7.0ポイント減少しています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	性別による固定的な役割分担を助長する表現が目立つ	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれた表現が目立つ	性犯罪につながる可能性がある表現が含まれている	そのような表現を望まない人や、子どもに対する配慮が足りない	特に問題はない	その他	無回答
全体	985	6.4	26.8	36.1	26.2	47.7	7.1	1.3	7.1
女性	553	4.9	25.7	34.5	26.6	52.6	5.4	1.4	7.8
男性	426	8.5	28.4	37.8	25.6	41.3	9.4	1.2	6.3

【平成16年調査】

単位：％

区分	有効回答数(件)	性別による固定的な役割分担を助長する表現が目立つ	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれた表現が目立つ	性犯罪につながる可能性がある表現が含まれている	そのような表現を望まない人や、子どもに対する配慮が足りない	特に問題はない	その他	無回答
全体	907	8.4	24.9	39.1	25.0	46.4	6.9	2.1	7.5
女性	501	7.6	25.1	41.5	23.6	50.9	5.2	1.6	8.8
男性	390	9.2	25.1	36.4	27.2	40.5	8.7	2.6	5.6

結婚や家族、生活などのことについて

問 26 あなたは、性・妊娠などについての知識を、おもにどのようにして身につけましたか。下の 1～11 の中から 2 つ以内で選び、数字を○で囲んでください。

性・妊娠などについての知識をどのようにして身につけたかについては、「医学書、出産・育児書で」の割合が 35.4%と最も高く、次いで「学校の授業で」の割合が 32.3%、「週刊誌・月刊誌で」の割合が 26.0%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「医学書、出産・育児書で」、「学校の授業で」の割合が高く、約 4 割となっています。また、女性に比べ男性で「週刊誌・月刊誌で」、「テレビ・ラジオで」の割合が高くなっています。

年代別でみると、年代が低くなるにつれ「学校の授業で」の割合が高くなっています。また、20～29 歳で「インターネットで」の割合が高くなっています。

前回と比較し、全体では「医学書、出産・育児書で」の割合が 5.5 ポイント、「友人にきいて」の割合が 6.1 ポイント減少しています。また、「学校の授業で」の割合が 5.0 ポイント増加しています。

性別では、女性で「父母など家族において」の割合が 6.7 ポイント、「友人にきいて」の割合が 5.7 ポイント減少しています。また、「学校の授業で」の割合が 6.8 ポイント増加しています。男性で「医学書、出産・育児書で」の割合が 6.5 ポイント、「友人にきいて」の割合が 6.7 ポイント減少しています。また、「週刊誌・月刊誌で」の割合が 5.3 ポイント増加しています。

年代別では、20 歳未満で「週刊誌・月刊誌で」、「父母など家族において」の割合が減少しており、「友人にきいて」、「学校の授業で」の割合が高くなっています。また 30～39 歳、40～49 歳、50～59 歳で「友人にきいて」の割合が減少しています。

単位：％

区分		有効回答数(件)	週刊誌・月刊誌で	テレビ・ラジオで	医学書、出産・育児書で	父母など家族において	友人にきいて	学校の授業で	市や保健所などの講習で	市や保健所などのパンフレットで	医師や保健師に話を聴いて	インターネットで	その他	無回答
全体		985	26.0	11.4	35.4	11.7	24.1	32.3	3.8	1.2	5.1	2.2	4.2	6.8
性別	女性	553	17.2	7.2	40.5	13.9	20.4	38.7	6.1	1.4	7.1	2.0	4.0	6.1
	男性	426	37.6	16.4	28.6	8.9	28.9	24.4	0.7	0.9	2.1	2.6	4.5	7.5
年代別	20歳未満	18	5.6	22.2	—	5.6	44.4	77.8	—	—	—	5.6	5.6	5.6
	20～29歳	51	35.3	23.5	3.9	11.8	23.5	60.8	—	—	2.0	15.7	—	2.0
	30～39歳	125	28.8	14.4	19.2	12.0	34.4	44.8	0.8	0.8	1.6	5.6	2.4	3.2
	40～49歳	151	43.0	12.6	26.5	2.0	35.1	45.0	2.0	0.7	0.7	2.0	2.0	2.0
	50～59歳	163	32.5	16.6	31.3	6.7	23.9	36.8	3.1	1.2	4.9	0.6	4.3	5.5
	60～69歳	234	21.4	6.8	47.4	15.0	17.5	25.2	5.1	0.9	5.6	—	6.4	8.5
	70～79歳	183	14.2	5.5	51.9	18.0	15.3	15.3	7.1	2.7	10.4	0.5	5.5	9.8
	80歳以上	59	11.9	10.2	44.1	18.6	22.0	3.4	5.1	1.7	10.2	1.7	3.4	16.9

【平成16年調査】

単位：％

区分		有効回答数(件)	週刊誌・月刊誌で	テレビ・ラジオで	医学書、出産・育児書で	父母など家族において	友人にきいて	学校の授業で	市や保健所などの講習で	市や保健所などのパンフレットで	医師や保健師に話を聴いて	インターネットで	その他	無回答
全体		907	24.0	8.9	40.9	14.7	30.2	27.3	2.0	1.0	4.5	0.6	3.4	7.3
性別	女性	501	18.0	6.4	45.3	20.6	26.1	31.9	3.6	0.8	6.0	0.4	2.4	6.6
	男性	390	32.3	12.3	35.1	7.2	35.6	20.5	—	1.3	2.6	0.8	4.6	7.9
年代別	20歳未満	11	27.3	18.0	45.3	20.6	26.1	31.9	3.6	0.8	6.0	0.4	2.4	—
	20～29歳	61	31.1	14.8	9.8	11.5	29.5	65.5	—	—	—	4.9	3.3	4.9
	30～39歳	129	28.7	16.3	24.0	9.3	45.0	42.6	—	—	0.8	0.8	3.1	3.1
	40～49歳	127	39.4	12.6	37.0	4.7	45.7	26.8	3.9	—	3.1	—	1.6	1.6
	50～59歳	163	34.4	11.0	45.4	6.7	34.4	27.0	2.5	—	2.5	—	2.5	4.3
	60～69歳	175	17.7	2.3	56.0	17.1	22.3	24.6	4.6	2.9	5.7	—	4.0	7.4
	70歳以上	229	9.6	4.8	48.9	27.5	17.0	8.3	0.4	1.3	9.2	—	4.8	14.8

問 27 あなたは、女性の健康を支援するために、どのようなことが必要だと思いますか。
 下の 1～8 の中から 2 つ以内で選び、数字を○で囲んでください。

女性の健康を支援するために必要なことについては、「健康診断やがん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策」の割合が 57.2%と最も高く、次いで「女性のための健康教育・健康相談」の割合が 34.9%、「病院・医院等の、女性スタッフによる女性外来の充実」の割合が 32.6%となっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「病院・医院等の、女性スタッフによる女性外来の充実」の割合が高く、約 4 割となっています。また、女性に比べ男性で「妊娠・出産期における母子保健サービスの充実」の割合が高く、約 3 割となっています。

前回と比較し、全体では「健康診断やがん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策」の割合が 12.4 ポイント増加しています。

性別では、男女ともに「健康診断やがん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策」の割合が 10 ポイント以上増加しています。また、女性で「AIDS（エイズ）、性感染症に関する総合的な対策」の割合が 6.1 ポイント減少しています。男性で「妊娠・出産期における母子保健サービスの充実」の割合が 7.1 ポイント増加しています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	女性のための健康教育・健康相談	女性の性に関する相談	AIDS（エイズ）、性感染症に関する総合的な対策	健康診断やがん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策	病院・医院等の、女性スタッフによる女性外来の充実	妊娠・出産期における母子保健サービスの充実	薬物乱用に関する対策	その他	無回答
全体	985	34.9	4.7	10.6	57.2	32.6	21.7	6.4	1.5	5.7
女性	553	32.9	4.3	9.9	58.2	38.2	16.5	5.8	1.6	5.4
男性	426	37.6	5.2	11.3	56.3	25.6	28.4	7.0	1.2	5.9

【平成 16 年調査】

単位：％

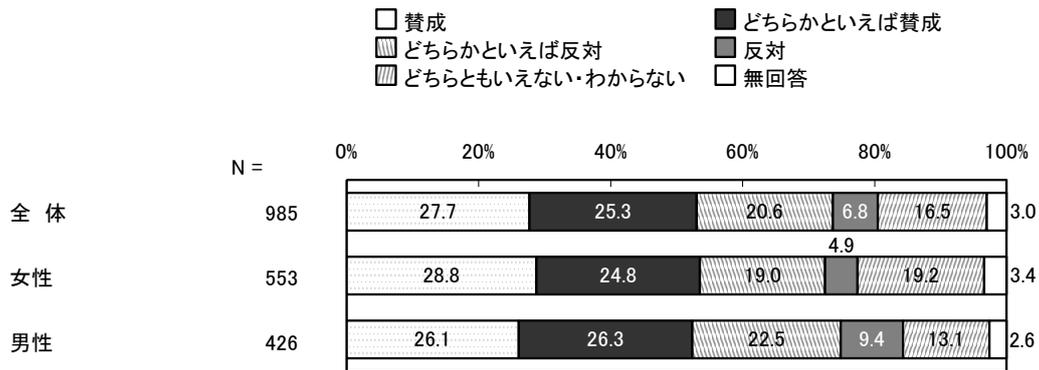
区分	有効回答数（件）	女性のための健康教育・健康相談	女性の性に関する相談	AIDS（エイズ）、性感染症に関する総合的な対策	健康診断やがん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策	病院・医院等の、女性スタッフによる女性外来の充実	妊娠・出産期における母子保健サービスの充実	薬物乱用に関する対策	その他	無回答
全体	907	36.1	5.6	14.9	44.8	36.5	17.3	8.3	2.9	6.6
女性	501	36.5	5.2	16.0	46.1	42.5	14.6	6.8	2.0	5.6
男性	390	35.1	6.4	13.6	43.1	29.0	21.3	9.5	4.1	7.7

問 28 「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考え方について、あなたのご意見をうかがいます。下の1～5の中から1つだけ選び、数字を○で囲んでください。

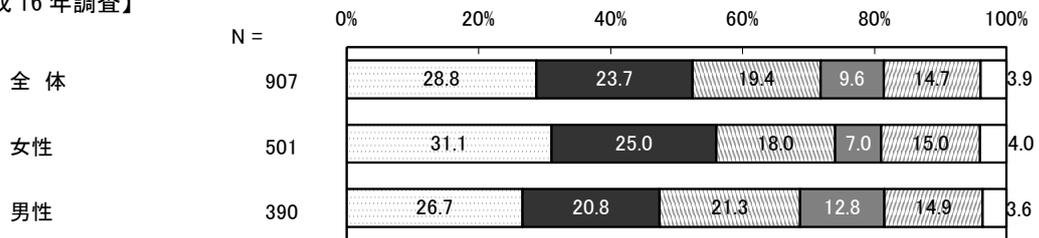
「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考え方については、「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた賛成の人の割合が53.0%、「どちらかといえば反対」と「反対」をあわせた反対の人の割合が27.4%となっています。

性別でみると、女性に比べ男性で反対の人の割合が高く、3割を超えています。

前回と比較し、大きな差異はみられません。



【平成16年調査】



問 29 最近離婚が増えていますが、あなたは、離婚することについてどう思いますか。
下の 1～9 の中から 2 つ以内で選び、数字を○で囲んでください。

離婚することについてどう思うかについては、「離婚を安易に考えるべきではない」の割合が 52.2%と最も高く、次いで「お互いに妥協し、できるだけ離婚しない」の割合が 33.6%、「パートナーの性の強要や暴力があれば離婚する」の割合が 30.4%となっています。

性別で見ると、女性に比べ男性で「離婚を安易に考えるべきではない」の割合が高く、約 6 割となっています。また、男性に比べ女性で「パートナーの性の強要や暴力があれば離婚する」の割合が高く、約 4 割となっています。

性別年代別で見ると、女性の 20～29 歳、30～39 歳、40～49 歳、50～59 歳で「離婚を安易に考えるべきではない」の割合が低くなっている一方、「パートナーの性の強要や暴力があれば離婚する」の割合が高くなっています。

前回と比較し、全体では「離婚を安易に考えるべきではない」の割合が 40.6 ポイント、「お互いに妥協し、できるだけ離婚しない」の割合が 18.7 ポイント増加しています。また、「愛情がなくなったら離婚する」の割合が 43.6 ポイント、「お互いの価値観が違ったら離婚する」の割合が 18.9 ポイント減少しています。

性別では、男女ともに「離婚を安易に考えるべきではない」、「お互いに妥協し、できるだけ離婚しない」で増加しています。また、「愛情がなくなったら離婚する」、「お互いの価値観が違ったら離婚する」で減少しています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	離婚を安易に考えるべきではない	お互いに妥協し、できるだけ離婚しない	子どもがいたら18歳くらいまでは離婚しない	子どもがいたらその子が自立するまでは離婚しない	愛情がなくなったら離婚する	お互いの価値観が違ったら離婚する	暴力があれば離婚する	パートナーの性の強要や暴行があれば離婚する	経済的に不利であれば離婚する	その他	無回答
全体	985	52.2	33.6	6.4	14.0	8.1	13.6	30.4	3.6	3.6	3.2	
女性	553	47.0	29.7	7.1	12.7	8.3	14.8	38.9	4.0	3.6	3.8	
20歳未満	5	60.0	—	—	20.0	—	—	60.0	20.0	20.0	—	
20～29歳	32	43.8	15.6	3.1	15.6	6.3	9.4	65.6	6.3	9.4	3.1	
30～39歳	81	32.1	28.4	3.7	17.3	8.6	17.3	50.6	4.9	3.7	2.5	
40～49歳	87	36.8	20.7	9.2	11.5	9.2	18.4	51.7	8.0	3.4	2.3	
50～59歳	94	34.0	18.1	6.4	10.6	11.7	19.1	50.0	3.2	3.2	4.3	
60～69歳	117	57.3	29.9	8.5	12.0	6.8	10.3	32.5	1.7	5.1	3.4	
70～79歳	106	61.3	46.2	8.5	12.3	8.5	17.0	12.3	2.8	0.9	4.7	
80歳以上	30	70.0	56.7	6.7	10.0	3.3	3.3	23.3	—	—	6.7	
男性	426	58.7	39.0	5.6	15.5	8.0	12.2	19.5	3.1	3.5	2.3	
20歳未満	13	76.9	15.4	23.1	23.1	—	—	46.2	7.7	—	—	
20～29歳	19	78.9	42.1	—	10.5	5.3	—	15.8	—	5.3	—	
30～39歳	44	54.5	22.7	6.8	18.2	6.8	9.1	34.1	6.8	6.8	—	
40～49歳	63	42.9	20.6	9.5	27.0	7.9	7.9	33.3	1.6	6.3	3.2	
50～59歳	68	57.4	32.4	2.9	11.8	16.2	20.6	19.1	2.9	1.5	1.5	
60～69歳	116	60.3	44.8	5.2	11.2	5.2	13.8	13.8	1.7	3.4	3.4	
70～79歳	75	61.3	54.7	4.0	13.3	10.7	13.3	10.7	5.3	1.3	1.3	
80歳以上	28	67.9	64.3	3.6	17.9	—	10.7	3.6	—	3.6	7.1	

【平成16年調査】

単位：％

区分	有効回答数（件）	離婚を安易に考えるべきではない	お互いに妥協し、できるだけ離婚しない	子どもがいたら18歳くらいまでは離婚しない	子どもがいたらその子が自立するまでは離婚しない	愛情がなくなったら離婚する	お互いの価値観が違ったら離婚する	パートナーの性の強要や暴力があれば離婚する	経済的に不利であれば離婚する	その他	無回答
全体	907	11.6	14.9	5.1	9.8	51.7	32.5	25.5	3.5	3.9	3.9
女性	501	10.0	15.0	5.8	11.4	48.3	29.7	35.3	5.2	3.0	3.4
男性	390	13.1	15.1	3.8	7.9	56.7	36.2	12.8	1.5	4.9	4.4

問 30～32 は「現在結婚しているまたはパートナーと暮らしている（事実婚）」の方（問 7 で「1」または「2」と答えた方）に対する質問です。該当しない方は問 33 へお進みください。

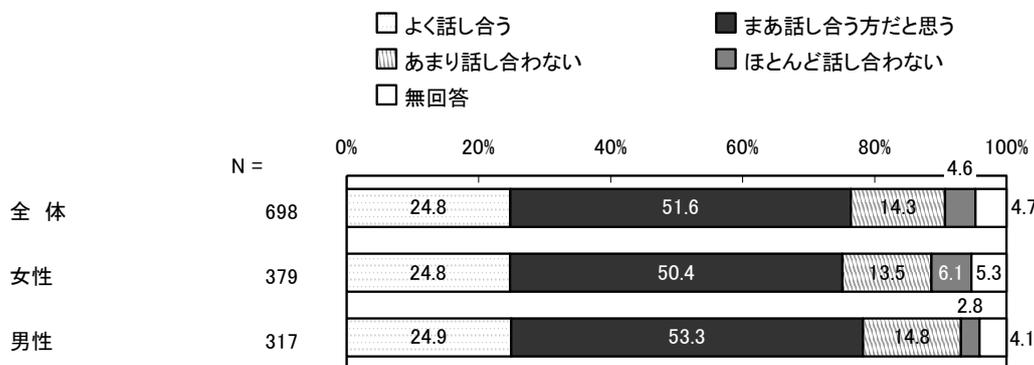
問 30 いろいろな問題について、ふだんから夫婦やパートナー間でよく話し合っていますか。下の 1～4 の中から最も近いものを 1 つだけを選び、数字を○で囲んでください。

夫婦やパートナー間でいろいろな問題を話し合うかについては、「よく話し合う」と「まあ話し合う方だと思う」をあわせた夫婦やパートナーで話し合う人の割合が 76.4%、「あまり話し合わない」と「ほとんど話し合わない」をあわせた夫婦やパートナーで話し合わない人の割合が 18.9%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

前回と比較し、全体では「よく話し合う」と「まあ話し合う方だと思う」をあわせた話し合う人の割合が 7.5 ポイント増加しています。

性別では、女性で話し合う人の割合が 6.1 ポイント、男性で 9.9 ポイント増加しています。



【平成 16 年調査】



問 31 家庭での実際の役割分担はどうなっていますか。下の 1～7の中から最も近いものを 1つだけ選び、数字を○で囲んでください。

家庭での役割分担については、「その他」を除くと、「夫（男性）はおもに仕事をし、妻（女性）はおもに家事をしている」の割合が 40.0%と最も高く、次いで「夫（男性）はおもに仕事をし、妻（女性）は家事にさしつかえない範囲で仕事をしている」の割合が 16.8%、「夫婦（男女）がともに仕事をし、夫婦ともに家事をしている」の割合が 12.0%となっています。

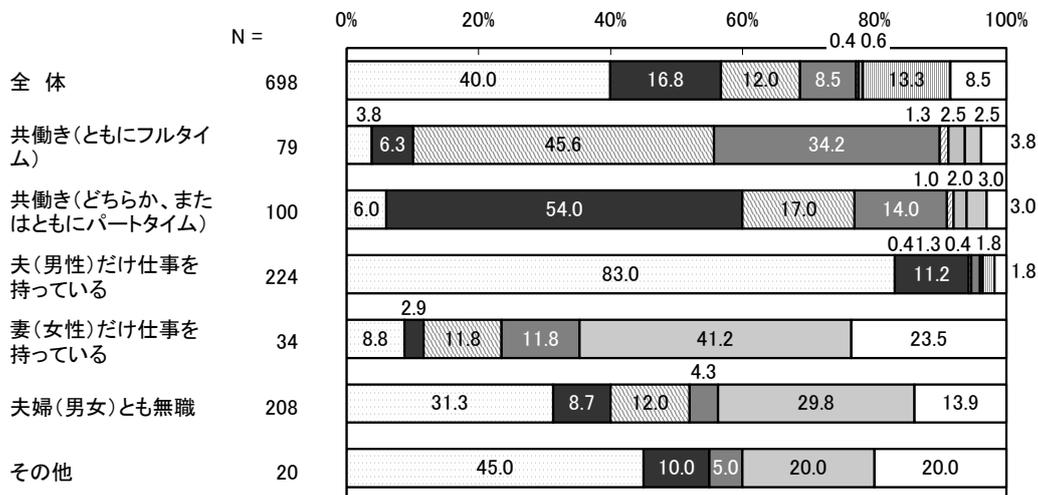
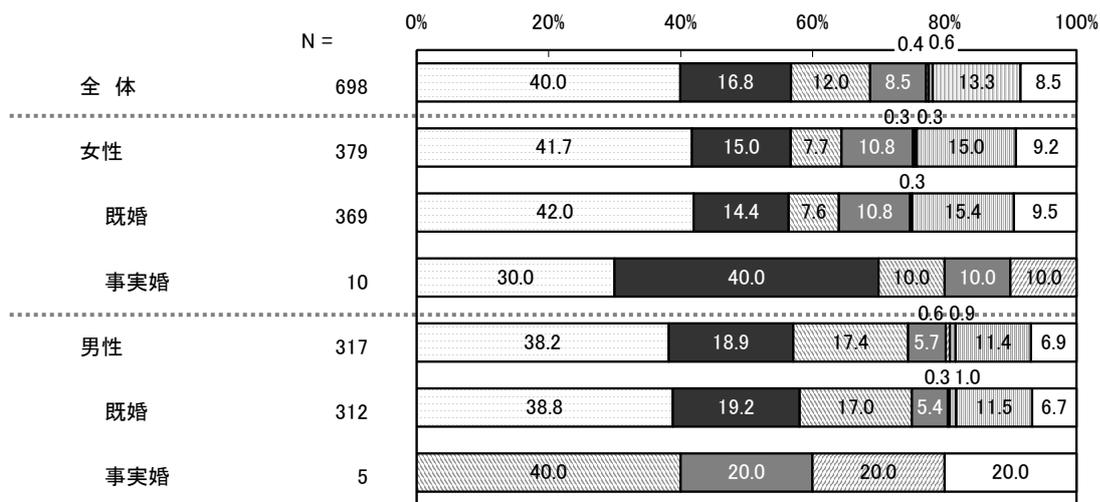
性別でみると、女性に比べ男性で「夫婦（男女）がともに仕事をし、夫婦ともに家事をしている」の割合が高く、約 2割となっています。

性別婚姻別でみると、男性の既婚で「夫婦（男女）がともに仕事をし、夫婦ともに家事をしている」の割合が高く、約 2割となっています。また、男性に比べ女性の既婚、事実婚で「夫婦（男女）がともに仕事をし、家事はおもに妻（女性）がしている」の割合が高くなっています。

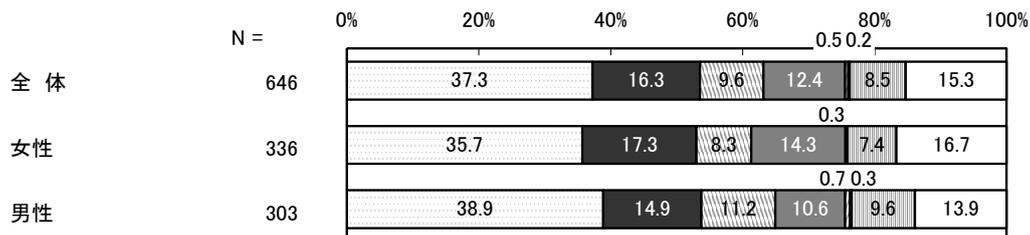
夫婦の働き方別でみると、共働き（ともにフルタイム）で「夫婦（男女）がともに仕事をし、夫婦ともに家事をしている」、「夫婦（男女）がともに仕事をし、家事はおもに妻（女性）がしている」の割合が、共働き（どちらか、またはともにパートタイム）で「夫（男性）はおもに仕事をし、妻（女性）は家事にさしつかえない範囲で仕事をしている」の割合がそれぞれ高くなっています。

前回と比較し、性別では、女性で「夫（男性）はおもに仕事をし、妻（女性）はおもに家事をしている」の割合が 6.0ポイント増加しています。また、男性で「夫婦（男女）がともに仕事をし、夫婦ともに家事をしている」の割合が 6.2ポイント増加しています。

- 夫(男性)はおもに仕事をし、妻(女性)はおもに家事をしている
- 夫(男性)はおもに仕事をし、妻(女性)は家事にさしつかえない範囲で仕事をしている
- ▨ 夫婦(男女)がともに仕事をし、夫婦ともに家事をしている
- 夫婦(男女)がともに仕事をし、家事はおもに妻(女性)がしている
- ▨ 夫婦(男女)がともに仕事をし、家事はおもに夫(男性)がしている
- ▨ 夫婦(男女)がともに仕事をし、家事は仕事を持たない家族にまかせている
- その他
- 無回答

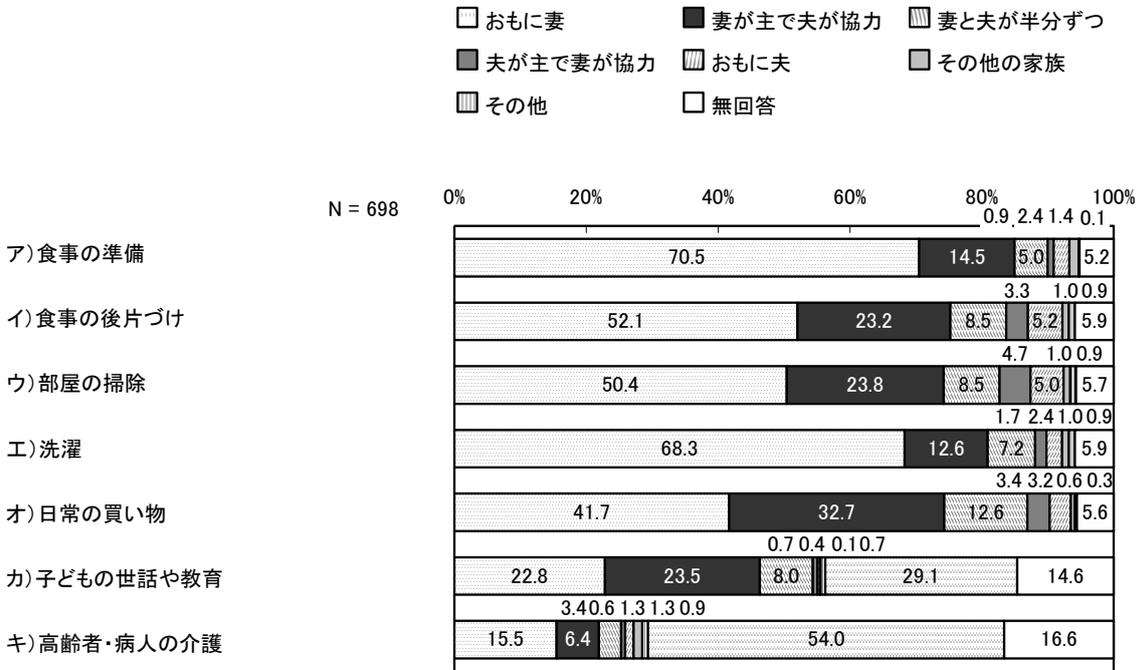


【平成16年調査】



問 32 あなたの家庭では、下に掲げる家事を、だれが担当していますか。ア)～キ)のそれぞれについて、1～8の中から1つだけ選び、表の該当欄の数字を○で囲んでください。

家事の担当については、食事の準備、洗濯で「おもに妻」の割合が高く、約7割となっています。



ア) 食事の準備

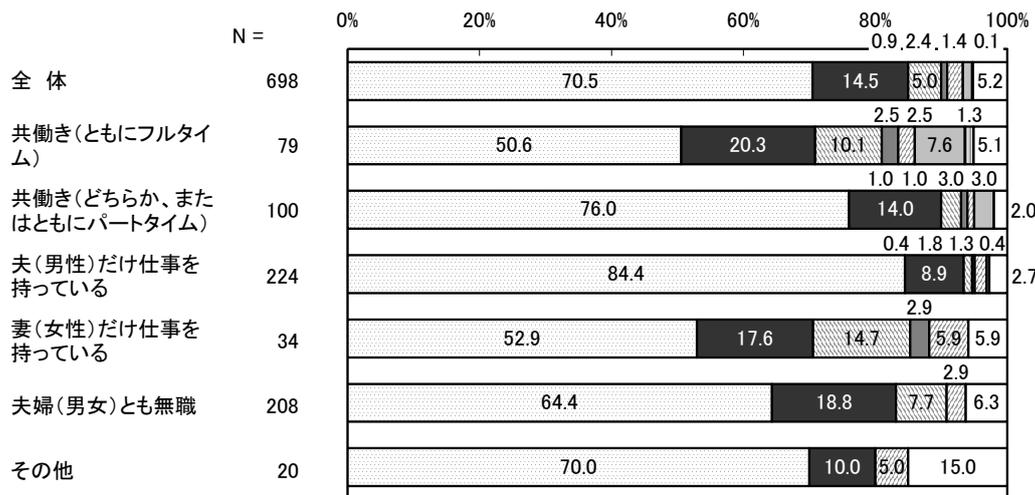
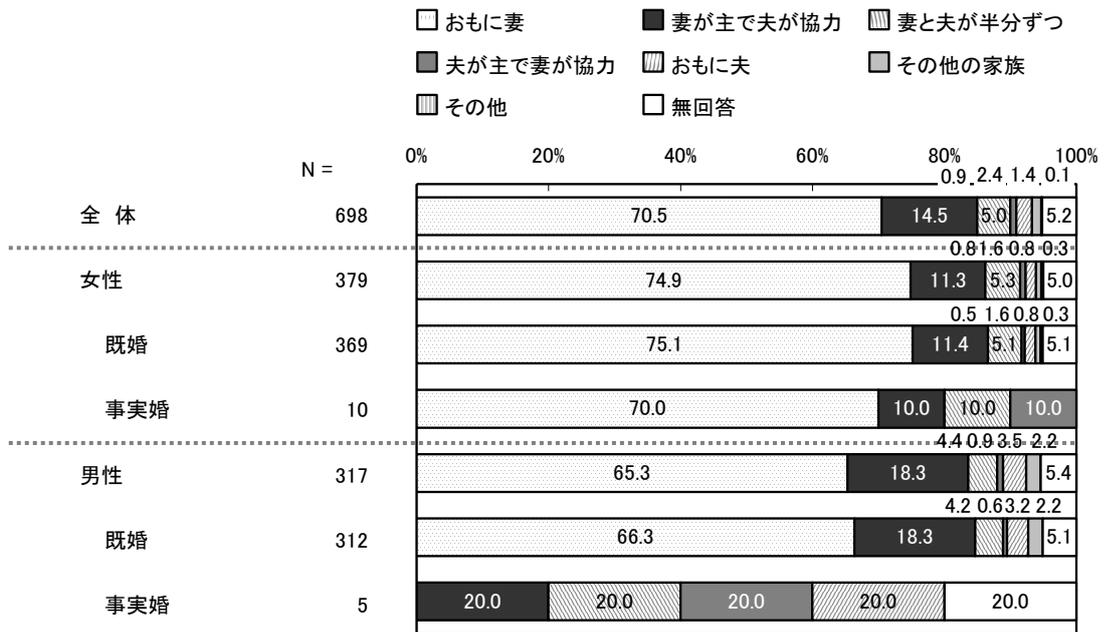
食事の準備については、「おもに妻」の割合が70.5%と最も高く、次いで「妻が主で夫が協力」の割合が14.5%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「おもに妻」の割合が、女性に比べ男性で「妻が主で夫が協力」の割合がそれぞれ高くなっています。

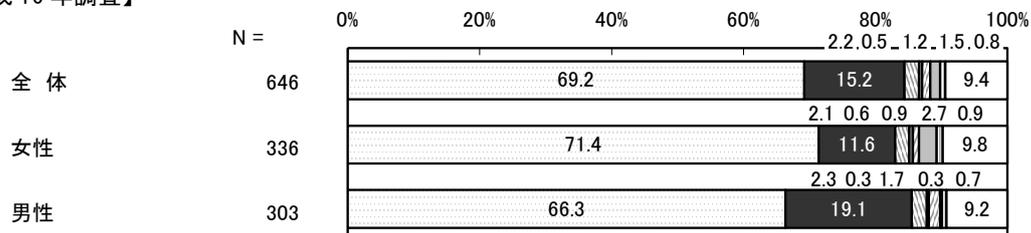
性別婚姻別でみると、男性の既婚で「妻が主で夫が協力」の割合が高くなっています。

夫婦の働き方別でみると、夫（男性）だけ仕事を持っているで「おもに妻」の割合が高く、8割を超えています。また、妻（女性）だけ仕事を持っているで「妻と夫が半分ずつ」の割合が高くなっています。

前回と比較し、大きな差異はみられません。



【平成16年調査】



イ) 食事の後片付け

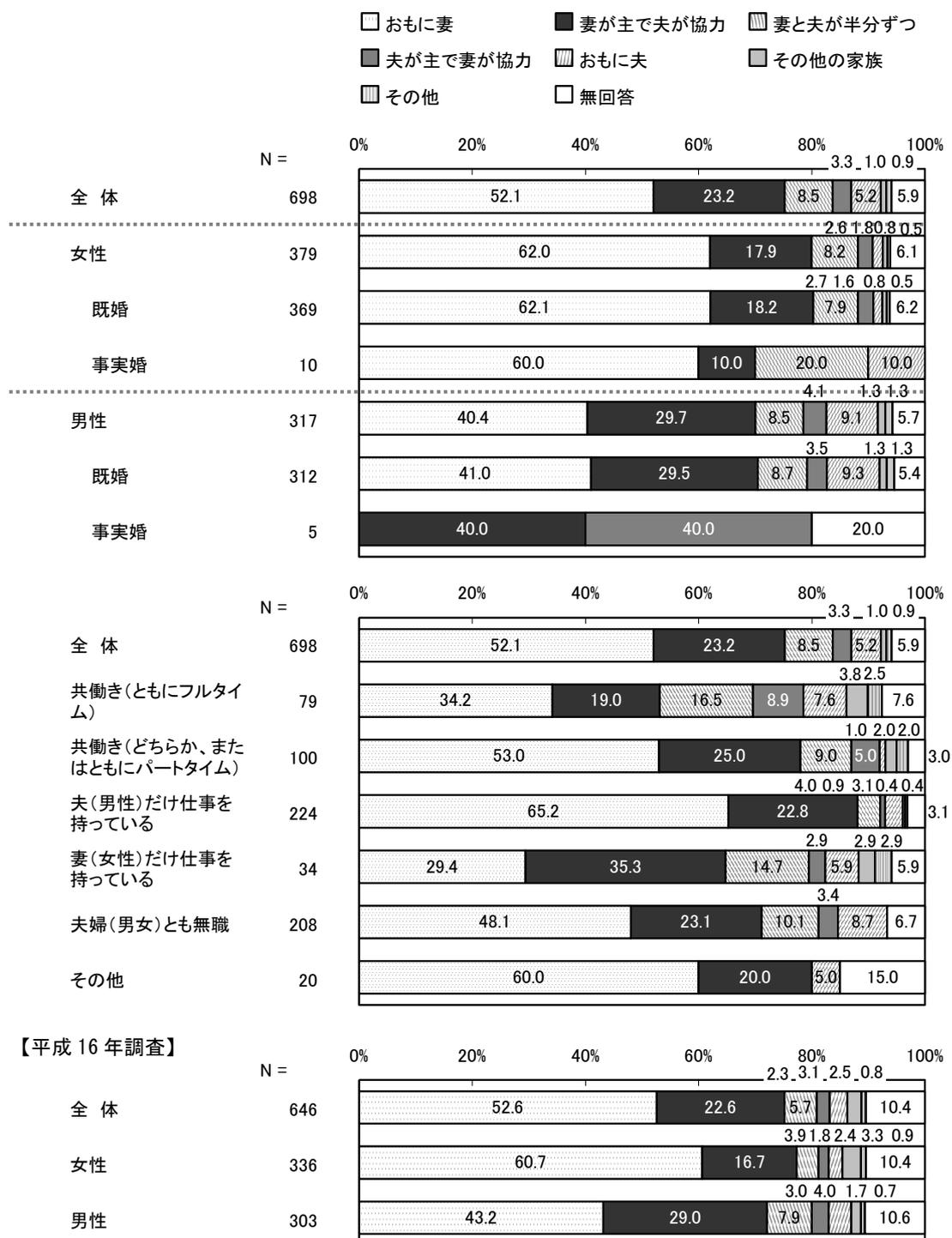
食事の後片付けについては、「おもに妻」の割合が 52.1%と最も高く、次いで「妻が主で夫が協力」の割合が 23.2%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「おもに妻」の割合が、女性に比べ男性で「妻が主で夫が協力」の割合がそれぞれ高くなっています。

性別婚姻別でみると、男性の既婚で「妻が主で夫が協力」の割合が高くなっています。また、女性の事実婚で「妻と夫が半分ずつ」の割合が高くなっています。

夫婦の働き方別でみると、共働き（ともにフルタイム）で「夫が主で妻が協力」の割合が高くなっています。

前回と比較し、大きな差異はみられません。



【平成 16 年調査】

ウ) 部屋の掃除

部屋の掃除については、「おもに妻」の割合が50.4%と最も高く、次いで「妻が主で夫が協力」の割合が23.8%となっています。

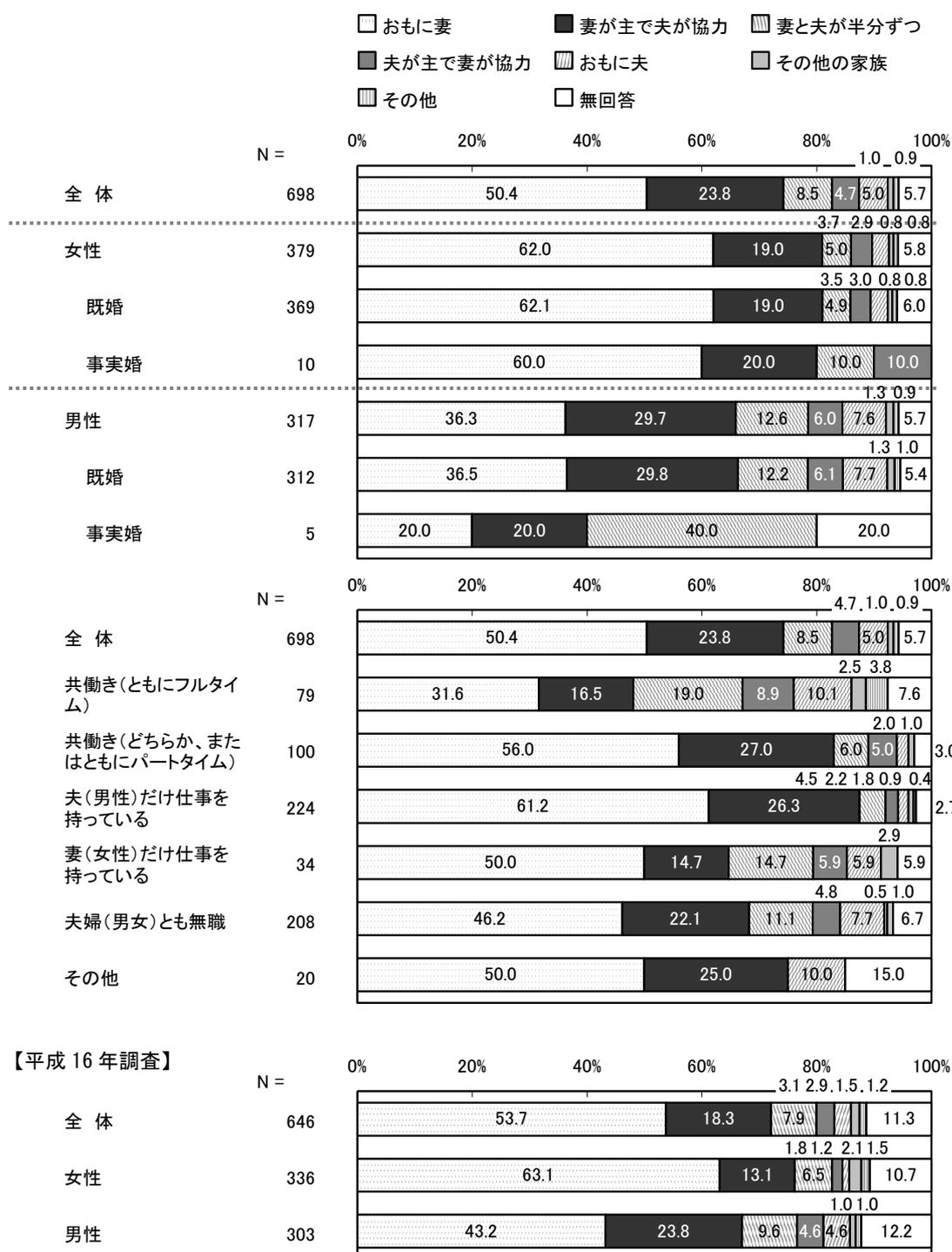
性別でみると、女性に比べ男性で「妻が主で夫が協力」、「妻と夫が半分ずつ」の割合が高くなっています。

性別婚姻別でみると、女性の事実婚で「夫が主で妻が協力」の割合が高くなっています。

夫婦の働き方別でみると、共働き（ともにフルタイム）で「妻と夫が半分ずつ」の割合が高く、約2割となっています。

前回と比較し、全体では「妻が主で夫が協力」の割合が5.5ポイント増加しています。

性別では、女性で「妻が主で夫が協力」の割合が5.9ポイント増加しています。また、男性で「おもに妻」の割合が6.9ポイント減少しています。



エ) 洗濯

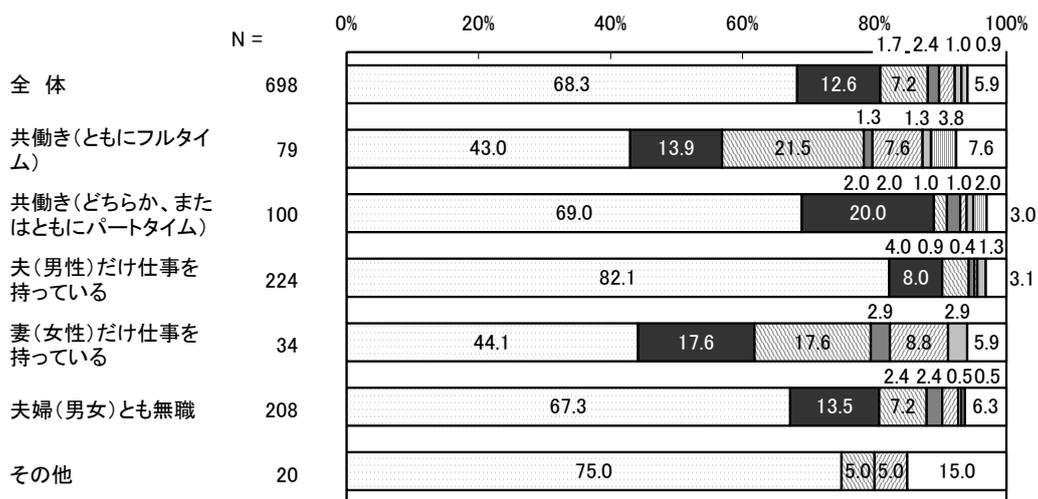
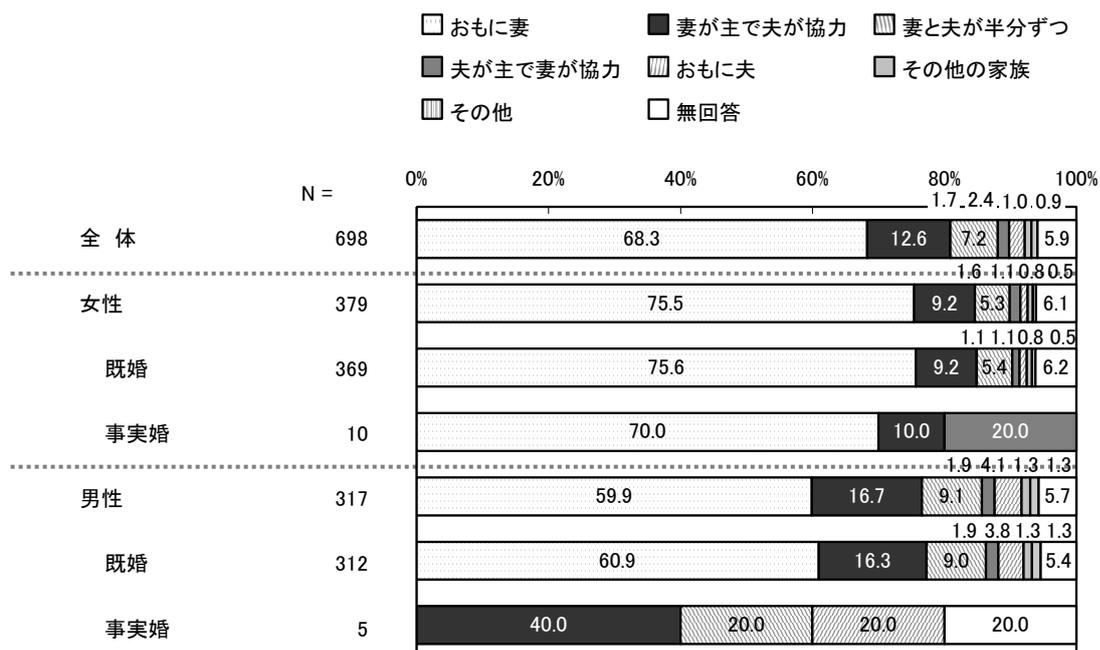
洗濯については、「おもに妻」の割合が 68.3%と最も高く、次いで「妻が主で夫が協力」の割合が 12.6%、「妻と夫が半分ずつ」の割合が 7.2%となっています。

性別でみると、女性に比べ男性で「妻が主で夫が協力」の割合が高くなっています。

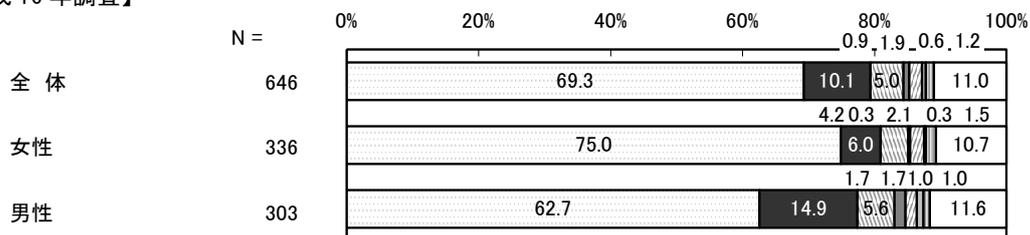
性別婚姻別でみると、女性の事実婚で「夫が主で妻が協力」の割合が高くなっています。

夫婦の働き方別でみると、共働き（ともにフルタイム）、妻（女性）だけ仕事を持っているで「妻と夫が半分ずつ」の割合が高くなっています。

前回と比較し、大きな差異はみられません。



【平成 16 年調査】



オ) 日常の買い物

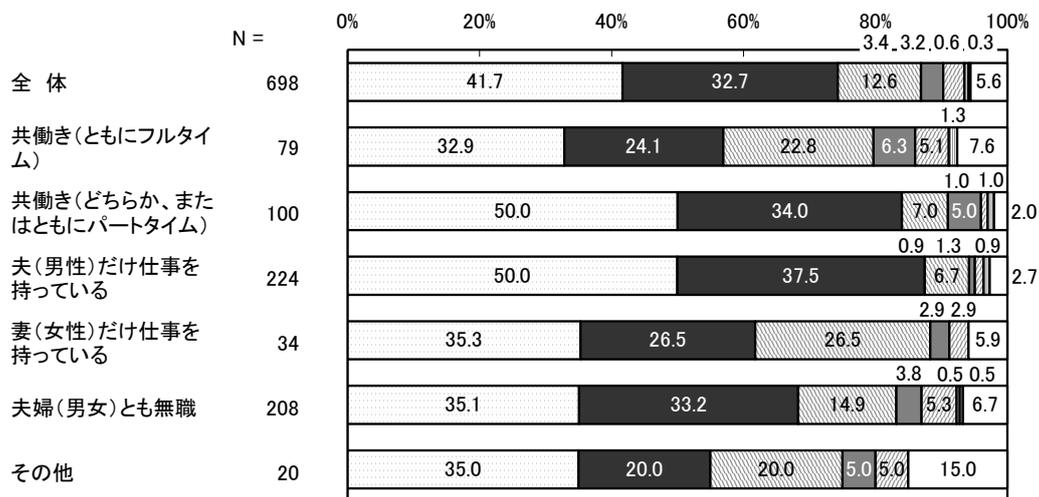
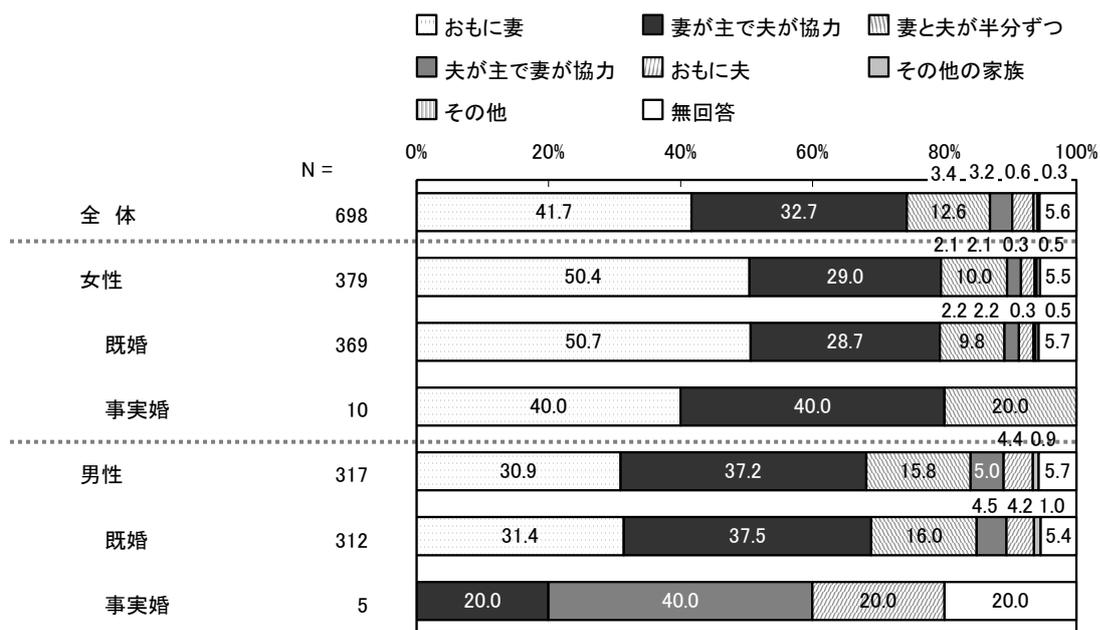
日常の買い物については、「おもに妻」の割合が 41.7%と最も高く、次いで「妻が主で夫が協力」の割合が 32.7%、「妻と夫が半分ずつ」の割合が 12.6%となっています。

性別でみると、女性に比べ男性で「妻が主で夫が協力」、「妻と夫が半分ずつ」の割合が高くなっています。

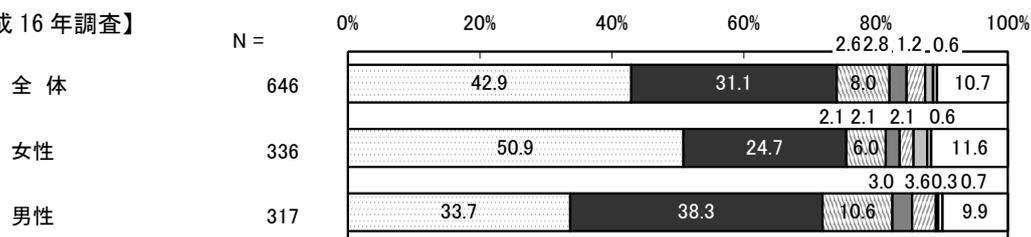
性別婚姻別でみると、女性の事実婚で「妻と夫が半分ずつ」の割合が高くなっています。

夫婦の働き方別でみると、共働き（どちらか、またはともにパートタイム）、夫（男性）だけ仕事を持っている、夫婦（男女）とも無職で「妻が主で夫が協力」の割合が高くなっています。

前回と比較し、性別では、男性で「妻と夫が半分ずつ」の割合が 5.2 ポイント増加しています。



【平成 16 年調査】



カ) 子どもの世話や教育

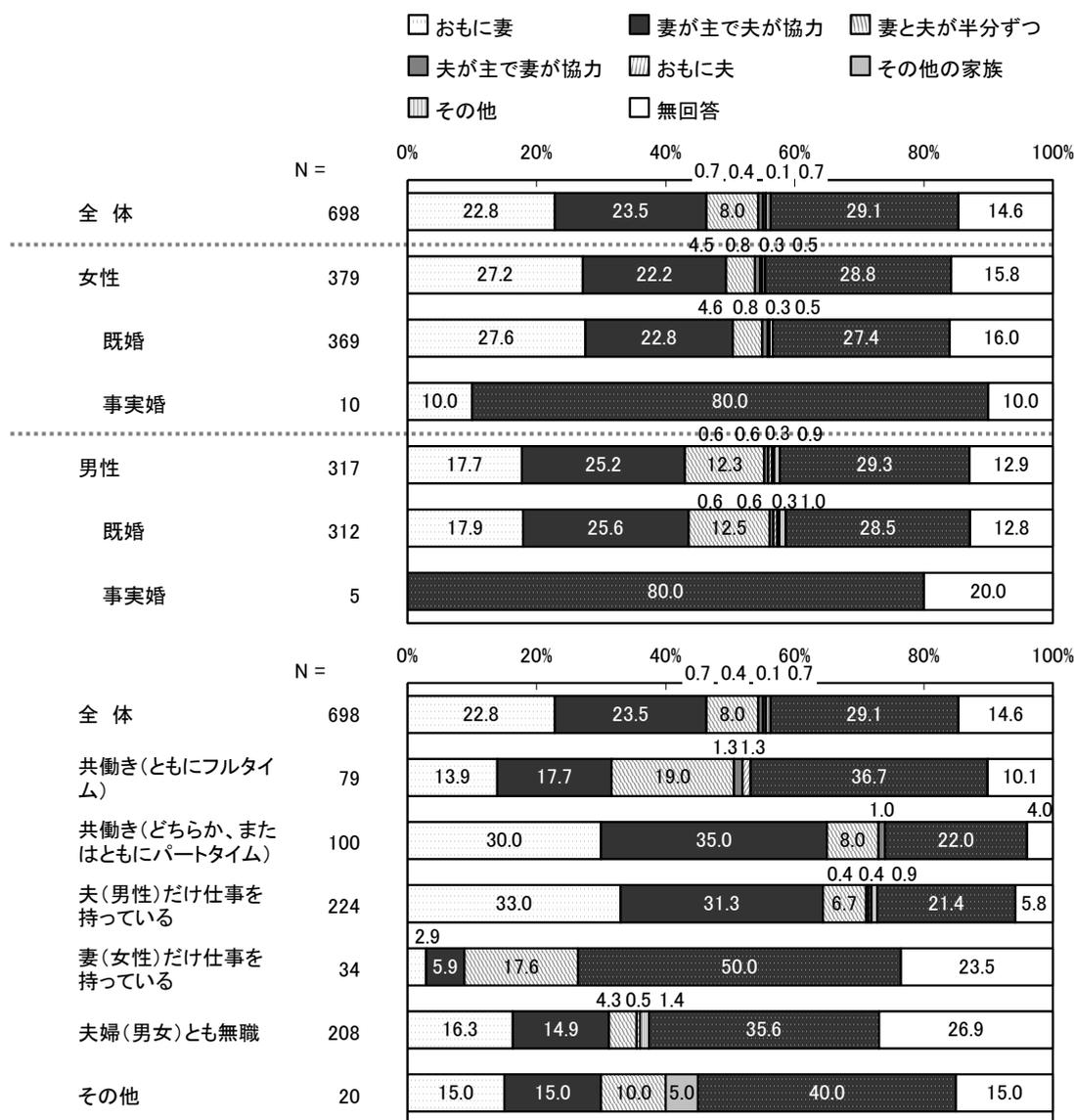
子どもの世話や教育については、「妻が主で夫が協力」の割合が 23.5%と最も高く、次いで「おもに妻」の割合が 22.8%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「おもに妻」の割合が、女性に比べ男性で「妻と夫が半分ずつ」の割合がそれぞれ高くなっています。

性別婚姻別でみると、大きな差異はみられません。

夫婦の働き方別でみると、共働き（どちらか、またはともにパートタイム）、夫（男性）だけ仕事を持っているで「おもに妻」、「妻が主で夫が協力」の割合が高くなっています。

前回と比較し、性別では、男性で「主に妻」の割合が 5.8 ポイント、「妻が主で夫が協力」の割合が 6.1 ポイント増加しています。



【平成 16 年調査】



キ) 高齢者・病人の介護

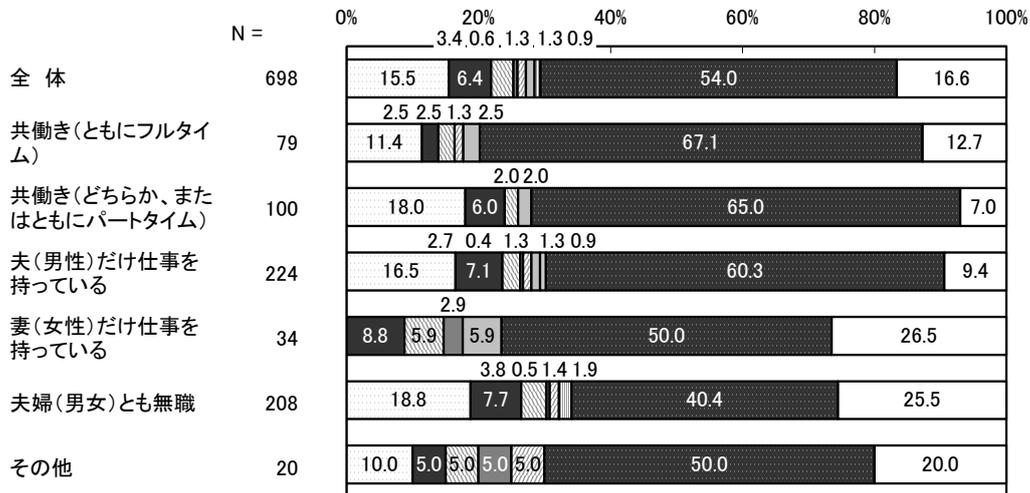
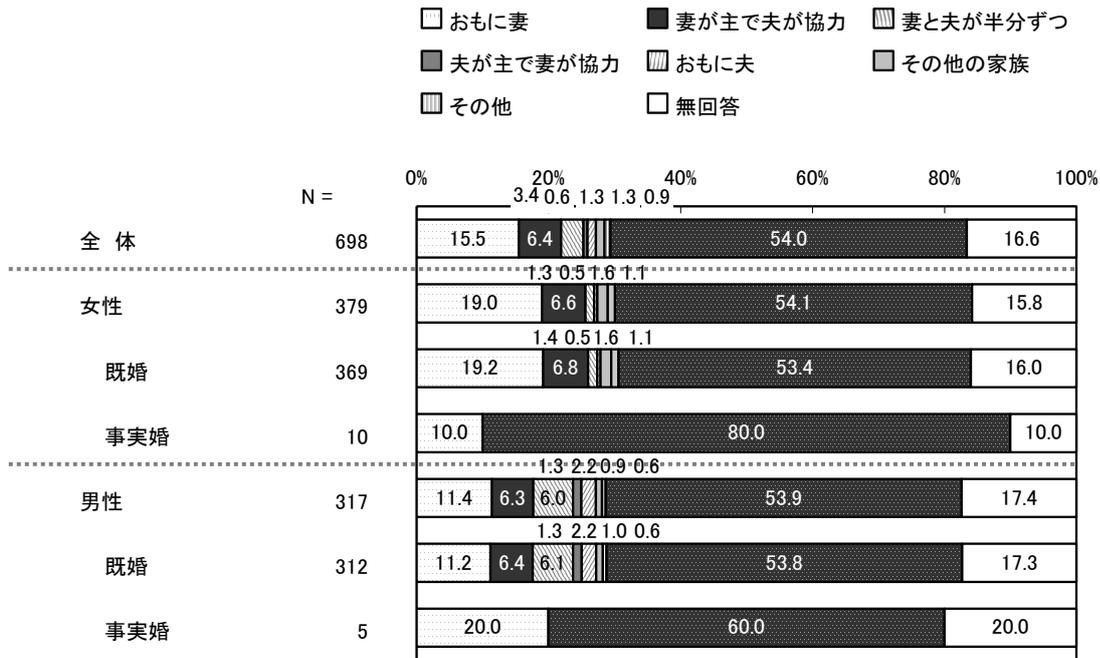
高齢者・病人の介護については、「おもに妻」の割合が15.5%と最も高くなっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「おもに妻」の割合が高くなっています。

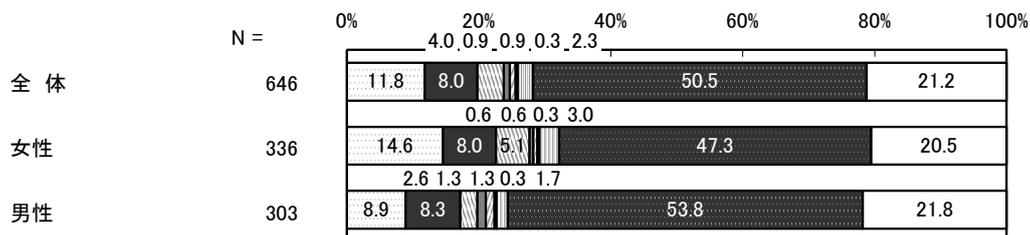
性別婚姻別でみると、大きな差異はみられません。

夫婦の働き方別でみると、妻（女性）だけ仕事を持っているで「おもに妻」と回答した人はいません。

前回と比較し、大きな差異はみられません。



【平成16年調査】



問 33 「平成 18 年社会生活基本調査（総務省統計局）」によると、「夫婦のみの共働き世帯の 1 日平均の家事時間は、女性が 3 時間 3 分に対し、男性は 25 分」となっています。男性があまり家事に参加していないのはなぜだと思いますか。下の 1～10 の中から 3 つ以内で選び、数字を○で囲んでください。

男性が家事に参加していない理由については、「勤務時間が長く、家にいる時間が少ない」の割合が 54.9%と最も高く、次いで「仕事が忙しくて疲れている」の割合が 39.0%、「子どものときから家事をするようにしつけられていない」の割合が 38.3%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「子どものときから家事をするようにしつけられていない」、「家事は女性の仕事である、と考えている」の割合が高くなっています。

前回と比較し、全体では「子どものときから家事をするようにしつけられていない」の割合が 5.2 ポイント増加しています。また、「家事の仕方がよくわからない」が 7.7 ポイント増加しています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	仕事が忙しくて疲れている	男性の家事参加を女性が望んでいない	勤務時間が長く、家にいる時間が少ない	家事をする手が足りている	子どものときから家事をするようにしつけられていない	家事は女性の仕事である、と考えている	男性が家事をするのは世間体が悪いと感じている	家事の仕方がよくわからない	その他	わからない	無回答
全 体	985	39.0	6.7	54.9	5.3	38.3	33.3	4.1	32.6	2.4	2.2	5.3
女 性	553	38.5	4.7	53.2	4.5	46.8	38.9	4.5	34.2	2.2	1.6	6.3
男 性	426	40.1	9.2	57.5	6.3	27.5	25.8	3.5	30.5	2.8	3.1	3.8

【平成 16 年調査】

単位：％

区分	有効回答数(件)	仕事が忙しくて疲れている	男性の家事参加を女性が望んでいない	勤務時間が長く、家にいる時間が少ない	家事をする手が足りている	子どものときから家事をするようにしつけられていない	家事は女性の仕事である、と考えている	男性が家事をするのは世間体が悪いと感じている	家事の仕方がよくわからない	その他	わからない	無回答
全 体	907	39.6	8.6	51.7	8.3	33.1	31.5	4.5	24.9	4.1	1.5	8.2
女 性	501	41.1	5.2	50.0	6.8	42.5	37.1	4.2	25.3	3.6	0.8	9.2
男 性	390	37.7	12.6	54.4	9.7	21.3	24.6	4.9	24.1	4.4	2.6	6.9

問 34 現在、夫婦は同じ名字（姓）を名乗るよう、法律で義務づけられています。あなたは、夫婦の名字についてどのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを下の 1～4 の中から 1 つだけ選び、数字を○で囲んでください。

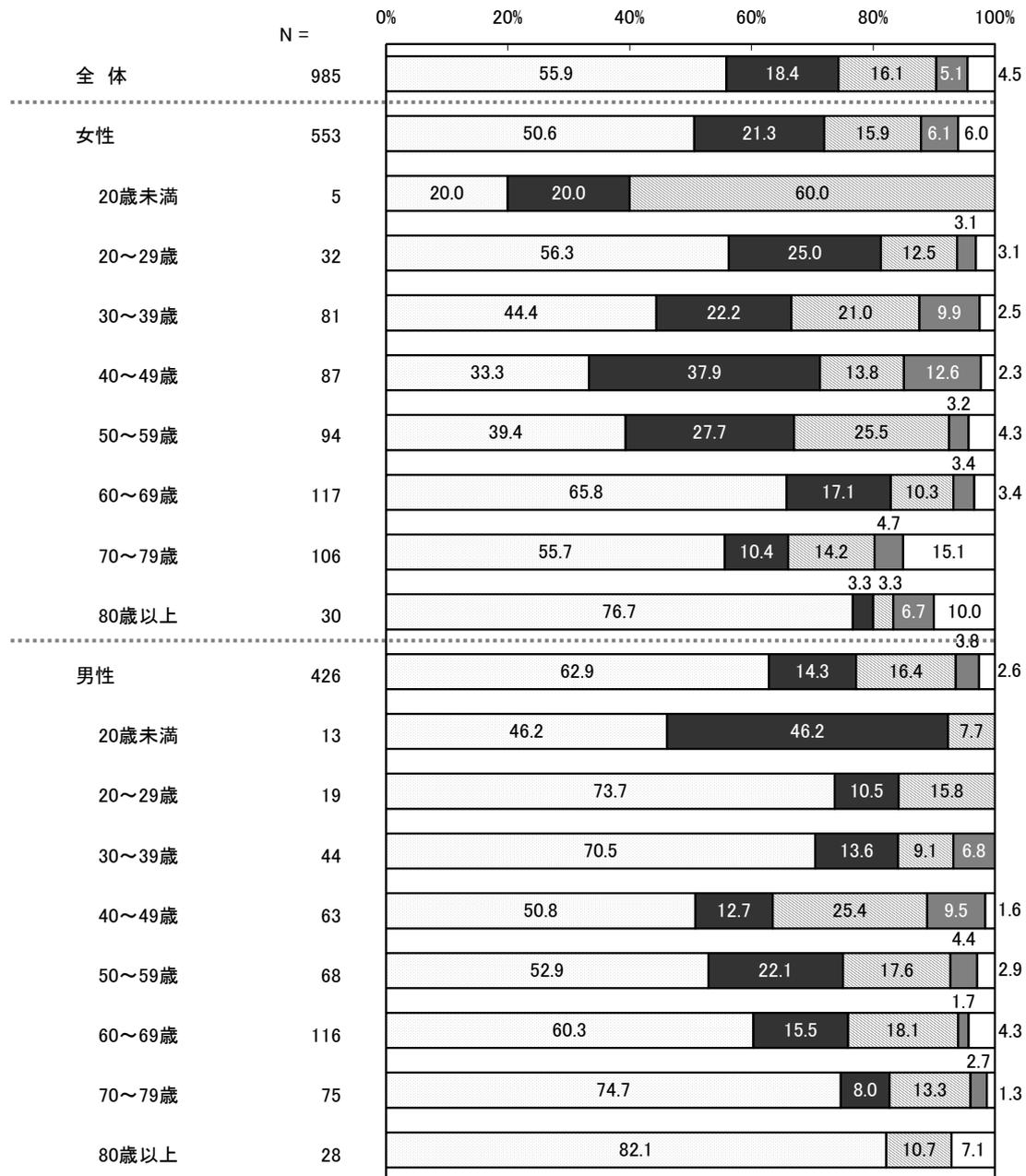
夫婦の名字についての考え方については、「夫婦は同じ名字（姓）を名乗るべきで、法律を改める必要はない」の割合が 55.9%と最も高く、次いで「結婚前の名字（姓）を「通称」として使えるように、法律を改めた方がよい」の割合が 18.4%、「結婚前の名字（姓）を名乗れるように法律を改めた方がよい」の割合が 16.1%となっています。

性別でみると、女性に比べ男性で「夫婦は同じ名字（姓）を名乗るべきで、法律を改める必要はない」の割合が高く、約 6 割となっています。また、男性に比べ女性で「結婚前の名字（姓）を「通称」として使えるように、法律を改めた方がよい」の割合が高く、約 2 割となっています。

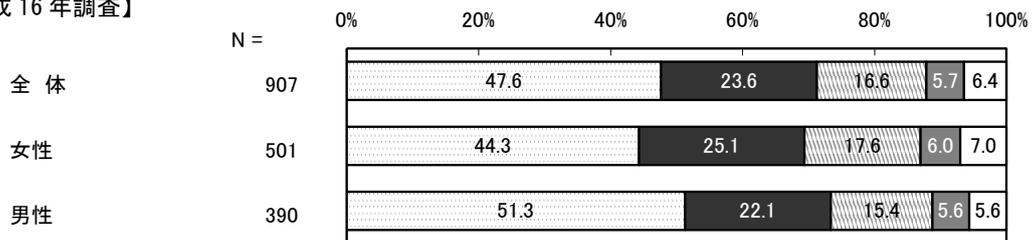
性別年代別でみると、女性の 80 歳以上、男性の 20～29 歳、30～39 歳、70～79 歳、80 歳以上で「夫婦は同じ名字（姓）を名乗るべきで、法律を改める必要はない」の割合が高く、7 割を超えています。

前回と比較し、全体では「夫婦は同じ名字（姓）を名乗るべきで、法律を改める必要はない」の割合が 8.3 ポイント増加しています。性別年代別では、男性の 20 歳未満～49 歳の年代で「夫婦は同じ名字（姓）を名乗るべきで、法律を改める必要はない」の割合が増加しています。

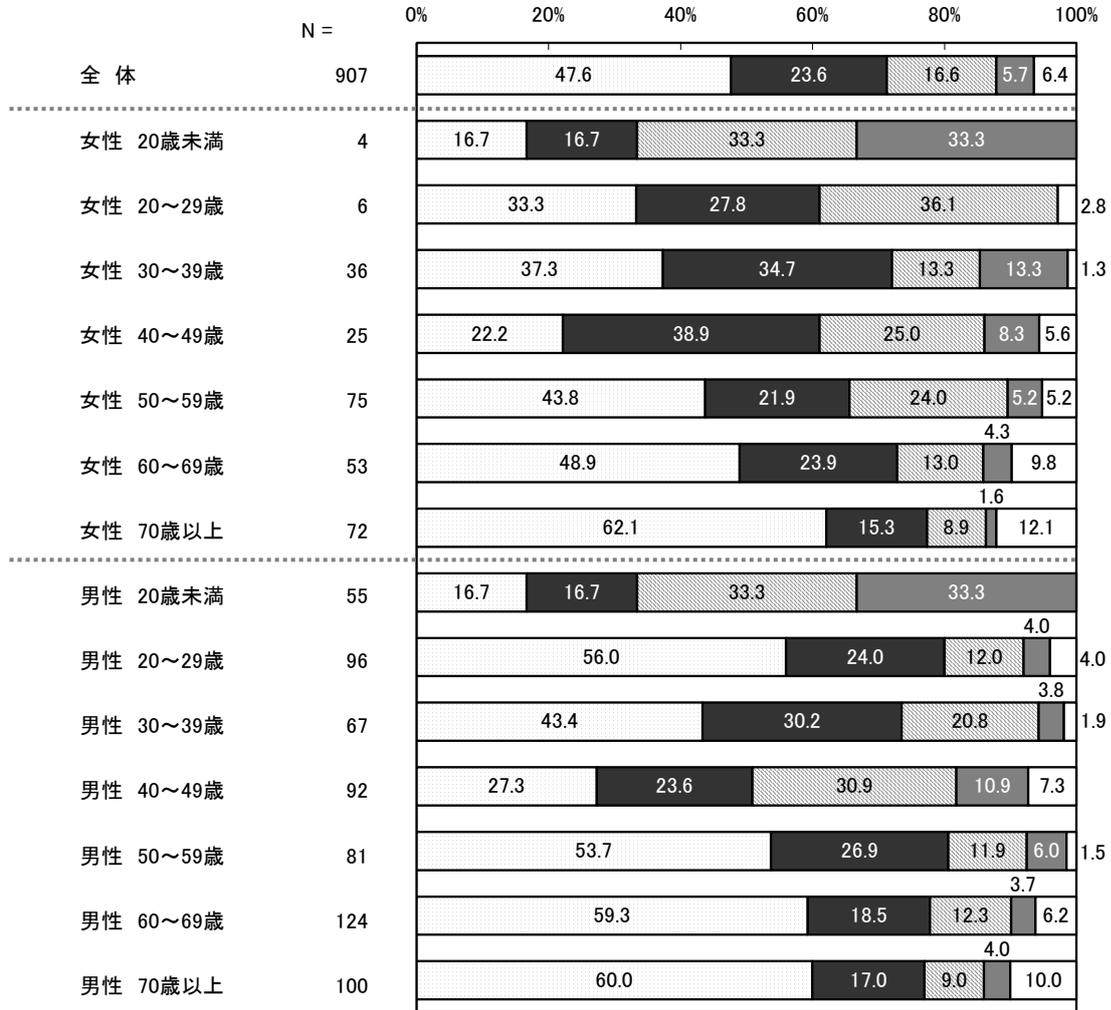
- 夫婦は同じ名字(姓)を名乗るべきで、法律を改める必要はない
- 結婚前の名字(姓)を「通称」として使えるように、法律を改めた方がよい
- ▨ 結婚前の名字(姓)を名乗れるように法律を改めた方がよい
- その他
- 無回答



【平成16年調査】



- 夫婦は同じ名字(姓)を名乗るべきで、法律を改める必要はない
- 結婚前の名字(姓)を「通称」として使えるように、法律を改めた方がよい
- ▨ 結婚前の名字(姓)を名乗れるように法律を改めた方がよい
- その他
- 無回答



老後の生活について

問 35 安心して老後を迎えるためにあなたが特に大切だと思うことは何ですか。下の1～11の中から4つ以内で選び、数字を○で囲んでください。

安心して老後を迎えるために特に大切だと思うことについては、「経済的不安がない」の割合が87.2%と最も高く、次いで「健康であること」の割合が85.9%、「住居の不安がない、安心して住める住宅があること」の割合が63.6%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「かかりつけ医の充実」、「ホームヘルパーの派遣など在宅福祉の充実」の割合が高くなっています。

前回と比較し、全体では「住居の不安がない、安心して住める住宅があること」の割合が7.3ポイント増加しています。また、「趣味を持つこと」の割合が5.4ポイント減少しています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	経済的不安がない	住居の不安がない、安心して住める住宅があること	健康であること	働ける場の確保	趣味を持つこと	子どもと一緒に住むこと	かかりつけ医の充実	往診医の充実	ホームヘルパーの派遣など在宅福祉の充実	高齢者センターなど通所施設の充実	特にない・わからない	無回答
全体	985	87.2	63.6	85.9	14.0	39.7	4.0	20.5	10.3	26.1	11.0	—	2.5
女性	553	88.1	62.6	84.8	12.1	34.4	4.3	23.3	9.6	30.9	13.2	—	2.4
男性	426	85.9	64.6	87.3	16.2	46.7	3.5	17.1	11.3	20.2	8.2	—	2.8

【平成16年調査】

単位：%

区分	有効回答数(件)	経済的不安がない	住居の不安がない、安心して住める住宅があること	健康であること	働ける場の確保	趣味を持つこと	子どもと一緒に住むこと	かかりつけ医の充実	往診医の充実	ホームヘルパーの派遣など在宅福祉の充実	高齢者センターなど通所施設の充実	特にない・わからない	無回答
全体	907	85.0	56.3	87.3	13.0	45.1	3.7	19.7	11.0	25.6	10.6	0.3	4.3
女性	501	84.6	53.1	85.2	11.2	40.5	4.6	23.4	12.2	30.5	13.0	0.2	4.8
男性	390	86.2	60.8	90.0	15.1	50.0	2.6	15.4	10.0	19.5	7.7	0.5	3.6

問 36 あなたが、自分の身のまわりのことを自由にできなくなったとしたら、どうしたいと思いますか。下の 1～11 の中から最も近いものを 2 つ以内で選び、数字を○で囲んでください。

身のまわりのことを自由にできなくなったとしたらどうしたいかについては、「介護保険の在宅サービスを利用する」の割合が 56.3%と最も高く、次いで「配偶者（妻や夫）の世話になる」の割合が 42.5%、「特別養護老人ホームなどを利用する」の割合が 37.1%となっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「介護保険の在宅サービスを利用する」の割合が高く、6割を超えています。また、女性に比べ男性で「配偶者（妻や夫）の世話になる」の割合が高く、約6割となっています。

前回と比較し、全体では「特別養護老人ホームなどを利用する」の割合が 5.5 ポイント増加しています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	配偶者(妻や夫)の世話になる	娘の世話になる	息子の世話になる	息子の妻の世話になる	娘の夫の世話になる	知人・友人などの世話になる	家政婦を雇う	介護保険の在宅サービスを利用する	特別養護老人ホームなどを利用する	その他	どうしてよいかわからない	無回答
全体	985	42.5	10.3	3.9	1.5	0.4	0.6	3.0	56.3	37.1	3.2	5.2	3.4
女性	553	32.0	13.0	3.1	2.0	0.5	0.9	3.6	64.6	39.8	2.7	4.9	2.9
男性	426	56.6	6.6	4.7	0.9	0.2	0.2	2.3	46.0	33.8	4.0	5.4	3.8

【平成 16 年調査】

単位：%

区分	有効回答数(件)	配偶者(妻や夫)の世話になる	娘の世話になる	息子の世話になる	息子の妻の世話になる	娘の夫の世話になる	知人・友人などの世話になる	家政婦を雇う	介護保険の在宅サービスを利用する	特別養護老人ホームなどを利用する	その他	どうしてよいかわからない	無回答
全体	907	47.4	9.6	2.9	1.4	0.2	0.9	4.5	54.4	31.6	3.4	4.5	6.5
女性	501	38.5	12.4	2.6	1.6	0.4	1.0	5.2	58.5	33.3	2.8	5.2	6.0
男性	390	58.7	5.6	3.3	1.3	—	0.8	3.6	49.0	29.7	4.1	3.8	6.9

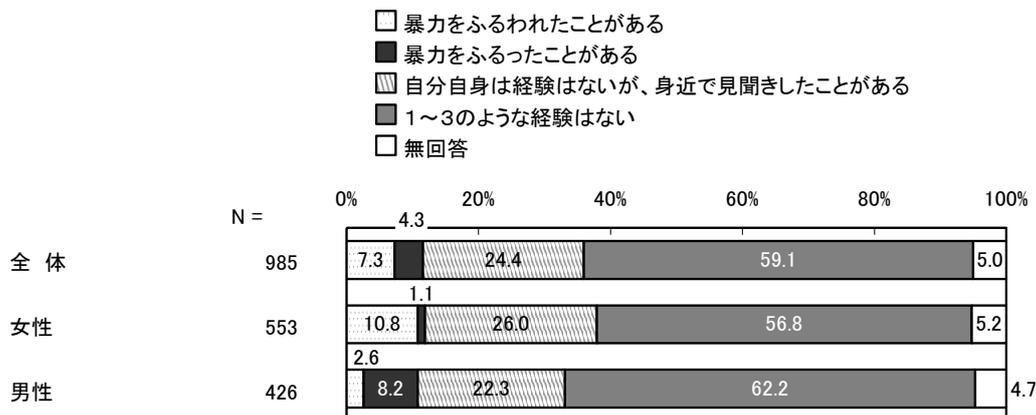
パートナーからの暴力について

問 37 あなたは、パートナー（配偶者や恋人など）から暴力をふるわれたり、あるいはパートナーに暴力をふるったり、身近で見聞きした経験がありますか。次の中から1つだけ選び、数字を○で囲んでください。

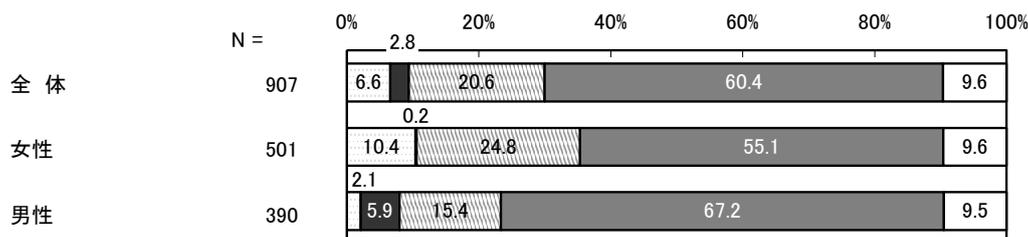
パートナーから暴力をふるわれた、ふるった経験や見聞きした経験の有無については、「1～3のような経験はない」の割合が59.1%と最も高く、次いで「自分自身は経験はないが、身近で見聞きしたことがある」の割合が24.4%、「暴力をふるわれたことがある」の割合が7.3%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「暴力をふるわれたことがある」の割合が、女性に比べ男性で「暴力をふるったことがある」の割合がそれぞれ高くなっています。

前回と比較し、性別では、男性で「自分自身は経験はないが、身近で見聞きしたことがある」の割合が6.9ポイント増加しています。



【平成16年調査】



問 38 は問 37 で「1 暴力をふるわれたことがある」「2 暴力をふるったことがある」「3 自分自身は経験はないが、身近で見聞きしたことがある」を選んだ方に対する質問です。該当しない方は問 41 へお進みください。

問 38 それはどのようなものでしたか。当てはまるものをすべて選び、数字を○で囲んでください。(いくつ選んでもかまいません。)

暴力の内容については、「大声でどなるなど、言葉の暴力」の割合が 57.9%と最も高く、次いで「医師の治療は必要でない程度の暴行」の割合が 40.4%、「医師の治療が必要となる程度の暴行」の割合が 21.2%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「医師の治療が必要となる程度の暴行」の割合が高く、約 3 割となっています。また、女性に比べ男性で「何を言っても無視し続ける」の割合が高く、約 2 割となっています。

前回と比較し、全体では「大声でどなるなど、言葉の暴力」の割合が 10.1 ポイント増加しています。また、「医師の治療が必要となる程度の暴行」の割合が 9.1 ポイント増加しています。

性別では、男女ともに「大声でどなるなど、言葉の暴力」の割合が 8.0 ポイント以上増加しています。また、女性で「医師の治療が必要となる程度の暴行」と「医師の治療は必要でない程度の暴行」の割合が 10.0 ポイント以上増加しています。男性で「医師の治療は必要でない程度の暴行」の割合が 6.1 ポイント減少しています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	命の危険を感じるくらいの暴行	医師の治療が必要となる程度の暴行	医師の治療は必要でない程度の暴行	嫌がっているのに性的な行為を強要する	見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌などを見せる	何を言っても無視し続ける	監視する	交友関係や電話を細かく監視する	「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」などと言う	大声でどなるなど、言葉の暴力	生活費をわたさないなどの経済的暴力	無回答
全体	354	6.5	21.2	40.4	6.5	2.0	16.7	12.4	19.5	57.9	16.7	5.9	
女性	210	7.6	26.2	40.5	8.1	2.4	12.9	15.2	21.9	56.7	21.4	4.3	
男性	141	5.0	14.2	39.0	3.5	0.7	22.0	7.8	15.6	59.6	8.5	8.5	

【平成 16 年調査】

単位：%

区分	有効回答数(件)	命の危険を感じるくらいの暴行	医師の治療が必要となる程度の暴行	医師の治療は必要でない程度の暴行	嫌がっているのに性的な行為を強要する	見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌などを見せる	何を言っても無視し続ける	監視する	交友関係や電話を細かく監視する	「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」などと言う	大声でどなるなど、言葉の暴力	生活費をわたさないなどの経済的暴力	無回答
全体	272	4.4	12.1	34.9	6.6	1.1	10.7	8.1	13.2	47.8	15.4	27.9	
女性	177	6.2	15.3	30.5	8.5	0.6	9.0	10.2	15.3	46.9	18.6	29.9	
男性	91	1.1	6.6	45.1	3.3	2.2	13.2	4.4	9.9	51.6	9.9	22.0	

問 39 は問 37 で選択肢「1 暴力をふるわれたことがある」を選んだ方に対する質問です。選択肢「2」、「3」を選んだ方は問 41 へお進みください。

問 39 暴力をふるわれたとき、あなたは誰に相談しましたか。下の 1～9 の中から当てはまるものをすべて選び、数字を○で囲んでください。(いくつ選んでもかまいません。)
「誰にも相談しなかった」という方は「10」を○で囲んでください。

暴力をふるわれたときに誰に相談したかについては、「誰にも相談しなかった」の割合が 47.2% と最も高く、次いで「家族・親族」の割合が 33.3%、「友人・知人」の割合が 26.4% となっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「家族・親族」、「友人・知人」の割合が高く、3 割以上となっています。また、女性に比べ男性で「誰にも相談しなかった」の割合が高く、約 8 割となっています。

前回と比較し、性別では、女性で「友人・知人」の割合が 10.8 ポイント増加しています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	家族・親族	友人・知人	同じような経験をした人、 そうした人のグループ	家庭裁判所、弁護士	警察	役所の相談窓口 (「女性の悩み相談」など)	配偶者暴力相談支援センター	医師、カウンセラーなど	その他	誰にも相談しなかった	無回答
全 体	72	33.3	26.4	1.4	5.6	2.8	1.4	1.4	5.6	—	47.2	—
女 性	60	36.7	30.0	1.7	6.7	3.3	1.7	1.7	5.0	—	41.7	—
男 性	11	9.1	9.1	—	—	—	—	—	—	—	81.8	—

【平成 16 年調査】

単位：%

区分	有効回答数(件)	家族・親族	友人・知人	同じような経験をした人、 そうした人のグループ	家庭裁判所、弁護士	警察	役所の相談窓口 (「女性の悩み相談」など)	配偶者暴力相談支援センター	医師、カウンセラーなど	その他	誰にも相談しなかった	無回答
全 体	60	33.3	16.7	1.7	3.3	3.3	1.7	5.0	1.7	1.7	46.7	13.3
女 性	52	34.6	19.2	1.9	3.8	3.8	1.9	5.8	1.9	1.9	44.2	13.5
男 性	8	25.0	—	—	—	—	—	—	—	—	62.5	12.5

問 40 は問 39 で「10 誰にも相談しなかった」と答えた方に対する質問です。
誰かに相談された方は、問 41 へお進みください。

問 40 あなたが誰にも相談しなかった理由は何ですか。下の 1～12 の中から近いものを
3 つ以内で選び、数字を○で囲んでください。

誰にも相談しなかった理由については、「自分にも悪いところがあったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が 29.4%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」の割合が 26.5%、「自分さえがまんすればなんとかこのままやっていけると思ったから」の割合が 23.5%となっています。

性別でみると、女性に比べ男性で「自分にも悪いところがあったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が高くなっています。

前回と比較し、全体では「自分にも悪いところがあったから」の割合が 18.7 ポイント、増加しています。一方、「自分さえがまんすればなんとかこのままやっていけると思ったから」の割合が 12.2 ポイント、「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が 9.9 ポイント減少しています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	どこ(誰)に相談して よいかわからなかった から	相談する人がいな かったから	はずかしくて誰にも 言えなかったから	被害を受けたことを思い 出したくなかったから	相談しても無駄だと 思ったから	相談したことがわかる と、仕返しやもっとひど い暴力を受けると思った から
全 体	34	11.8	11.8	17.6	2.9	26.5	11.8
女 性	25	16.0	12.0	20.0	4.0	28.0	12.0
男 性	9	—	11.1	11.1	—	22.2	11.1

区分	自分さえがまんすれば なんとかこのままやっ ていけると思ったから	他人を巻き込みたく なかったから	子どもに危害が及ぶと 思ったから	自分にも悪いところが あると思ったから	相談するほどのことでは ないと思ったから	その他	無回答
全 体	23.5	5.9	—	29.4	29.4	11.8	5.9
女 性	24.0	8.0	—	20.0	12.0	16.0	8.0
男 性	22.2	—	—	55.6	77.8	—	—

区分	有効回答数(件)	どこ(誰)に相談してよ いかわからなかったから	相談する人がいなかった から	はずかしくて誰にも言え なかったから	被害を受けたことを思い 出したくなかったから	相談しても無駄だと思っ たから	相談したことがわかる と、仕返しやもつとひど い暴力を受けると思った から
全 体	28	7.1	10.7	17.9	—	32.1	7.1
女 性	23	4.3	8.7	17.4	—	30.4	8.7
男 性	5	20.0	20.0	20.0	—	40.0	—

区分	自分さえがまんすればな んとかこのままやってい けると思ったから	他人を巻き込みたくなか ったから	子どもに危害が及ぶと思 ったから	自分にも悪いところがあ ると思ったから	相談するほどのことでは ないと思ったから	その他	無回答
全 体	35.7	14.3	—	10.7	39.3	—	3.6
女 性	39.1	13.0	—	13.0	43.5	—	—
男 性	20.0	20.0	—	—	20.0	—	20.0

ここからはすべての方がお答えください。

問 41 あなたは、パートナー（配偶者や恋人など）からの暴力に対し、どのような援助が有効だと思いますか。下の 1～11 の中から 3 つ以内で選び、数字を○で囲んでください。

パートナーからの暴力に対して有効だと思う援助については、「家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助」、「身の安全を保障できる場所の提供」の割合がともに 37.8%と最も高く、「経済的な自立に向けた支援を行うこと」の割合が 35.0%、「相談窓口を増やしたり相談窓口の情報を提供すること」の割合が 33.6%となっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「経済的な自立に向けた支援を行うこと」、「身の安全を保障できる場所の提供」の割合が、女性に比べ男性で「家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助」の割合がそれぞれ高く、4割を超えています。

パートナーからの暴力の経験別で見ると、他に比べ暴力をふるわれたことがあるで「経済的な自立に向けた支援を行うこと」の割合が高く、4割を超えています。また、自分自身は経験はないが、身近で見聞きしたことがある、1～3のような経験はないで「家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助」、「身の安全を保障できる場所の提供」の割合が高くなっています。

前回と比較し、性別では、女性で「経済的な自立に向けた支援を行う」の割合が 10.5 ポイント増加しています。

単位：％

区分		有効回答数(件)	経済的な自立に向けた支援を行うこと	相談窓口を増やしたり相談窓口の情報を提供すること	家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助	医師・心理的援助	医師、カウンセラーなどの情報提供と支援	市役所などの公的機関での民間支援グループなどの援助	民間支援グループなどの援助	身の安全を保障できる場所の提供	被害者に対する周囲の理解と協力を得やすくすること	加害者への指導やカウンセリングを行うこと	お互いの人権を大切にすること	特に援助は必要ないと思う	無回答
全	体	985	35.0	33.6	37.8	21.9	15.2	4.3	37.8	13.5	19.5	19.4	1.6	7.4	
性別	女性	553	41.6	30.9	32.0	22.6	14.1	3.1	43.2	13.6	19.9	20.3	0.9	7.1	
	男性	426	26.5	37.1	45.5	20.9	16.9	5.9	31.0	13.6	19.2	18.1	2.6	7.7	
パートナーからの暴力の経験別	暴力をふるわれたことがある	72	43.1	20.8	12.5	19.4	8.3	5.6	23.6	16.7	22.2	33.3	5.6	5.6	
	暴力をふるったことがある	42	14.3	26.2	23.8	21.4	11.9	4.8	26.2	7.1	11.9	28.6	9.5	9.5	
	自分自身は経験はないが、身近で見聞きしたことがある	240	36.7	30.0	41.3	25.4	17.9	4.6	40.0	15.4	20.8	20.4	1.3	4.2	
	1～3のような経験はない	582	36.1	39.3	42.8	21.6	15.6	4.0	40.9	13.6	20.4	17.7	0.9	4.8	

【平成16年調査】

単位：％

区分		有効回答数(件)	経済的な自立に向けた支援を行うこと	相談窓口を増やしたり相談窓口の情報を提供すること	家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助	医師・心理的援助	医師、カウンセラーなどの情報提供と支援	市役所などの公的機関での民間支援グループなどの援助	民間支援グループなどの援助	身の安全を保障できる場所の提供	被害者に対する周囲の理解と協力を得やすくすること	加害者への指導やカウンセリングを行うこと	お互いの人権を大切にすること	特に援助は必要ないと思う	無回答
全	体	907	28.0	32.4	36.6	21.4	11.7	3.3	35.4	13.2	22.3	19.8	1.8	13.9	
女	性	501	31.1	30.1	32.1	22.0	11.0	3.0	39.3	14.4	24.4	18.4	1.2	14.0	
男	性	390	23.6	35.4	42.3	20.8	12.8	3.8	30.5	11.8	19.2	21.0	2.6	13.8	

地域活動などについて

問 42 あなたはこの 1 年間に、次に掲げるような地域活動に参加したことがありますか。該当するものすべての数字を○で囲んでください。(いくつ選んでもかまいません。)

この 1 年間の地域活動への参加状況については、「参加していない」の割合が 39.1%と最も高く、次いで「趣味やスポーツ、文化などの活動」の割合が 31.3%、「自治会や町内会、商店会などの地域活動」の割合が 26.3%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「保育園・幼稚園の保護者会、学校の P T A 活動」の割合が高くなっています。

前回と比較し、性別では、男性で「趣味やスポーツ、文化などの活動」の割合が 7.1 ポイント増加しています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	地域活動 自治会や町内会、商店会などの	保育園・幼稚園の保護者会、 学校の P T A 活動	子ども会や青少年スポーツ チームなどの活動や世話	趣味やスポーツ、文化などの 活動	研究会や勉強会	地域の仲間同士集まって行う クルなどの市民活動	環境問題・消費者問題やリサイ クルなどの市民活動	高齢者や障害のある人の介護などの ボランティア活動、福祉活動	消防団等の自主防災活動	国際交流活動	生協などの消費者活動	参加していない	無回答
全 体	985	26.3	11.9	6.9	31.3	9.6	6.1	7.3	1.9	2.7	5.5	39.1	4.9	
女 性	553	25.7	14.1	7.1	30.4	8.9	5.8	8.5	0.7	2.2	7.8	39.8	5.1	
男 性	426	27.2	9.2	6.8	32.2	10.6	6.6	5.9	3.5	3.5	2.6	38.7	4.5	

【平成 16 年調査】

単位：％

区分	有効回答数(件)	地域活動 自治会や町内会、商店会などの	校の P T A 活動 保育園・幼稚園の保護者会、学	子ども会や青少年スポーツチ ムなどの活動や世話	動 趣味やスポーツ、文化などの活	研究会や勉強会	地域の仲間同士集まって行う研 究会や勉強会	クルなどの市民活動	環境問題・消費者問題やリサイ クルなどの市民活動	高齢者や障害のある人の介護などの ボランティア活動、福祉活動	消防団等の自主防災活動	国際交流活動	生協などの消費者活動	参加していない	無回答
全 体	907	22.5	11.1	7.6	27.3	8.6	5.6	7.2	1.2	2.1	5.4	43.7	6.6		
女 性	501	20.0	15.8	8.0	29.5	8.8	5.4	9.8	0.8	2.2	8.0	41.3	5.8		
男 性	390	25.9	5.1	7.2	25.1	8.2	6.2	4.1	1.8	2.1	2.1	45.9	7.7		

問 43 は問 42 で「参加経験がある」と答えた方（選択肢 1～10 のどれかに○印をつけた方）に対する質問です。

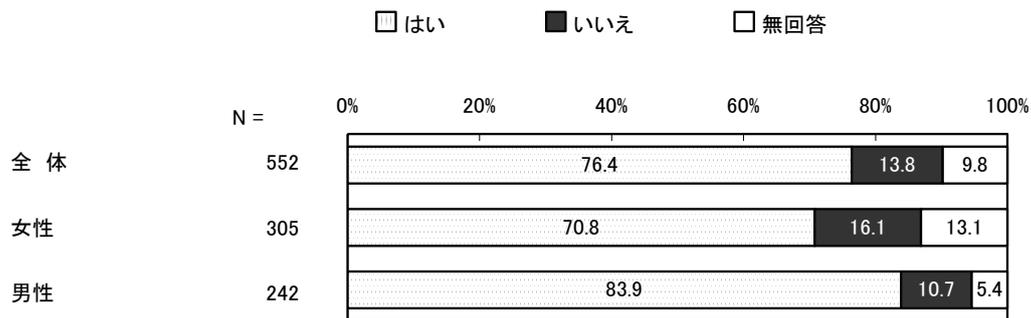
該当しない方は問 44 へお進みください。

問 43 その地域活動では、男女共同参画は進んでいますか。下のいずれか 1 つだけを選び、数字を○で囲んでください。

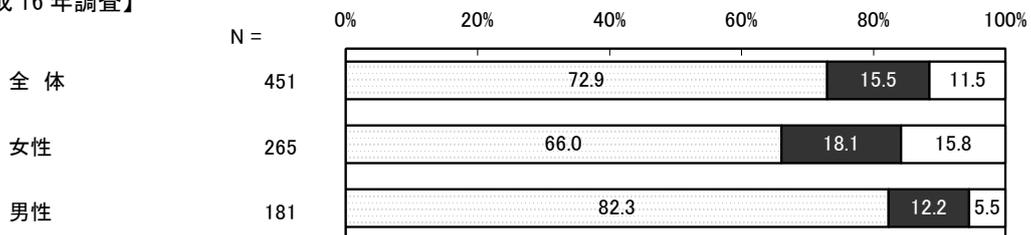
地域活動での男女共同参画が進んでいるかについては、「はい」の割合が 76.4%、「いいえ」の割合が 13.8%となっています。

性別で見ると、女性に比べ男性で「はい」の割合が高く、8割を超えています。

前回と比較し、大きな差異はみられません。



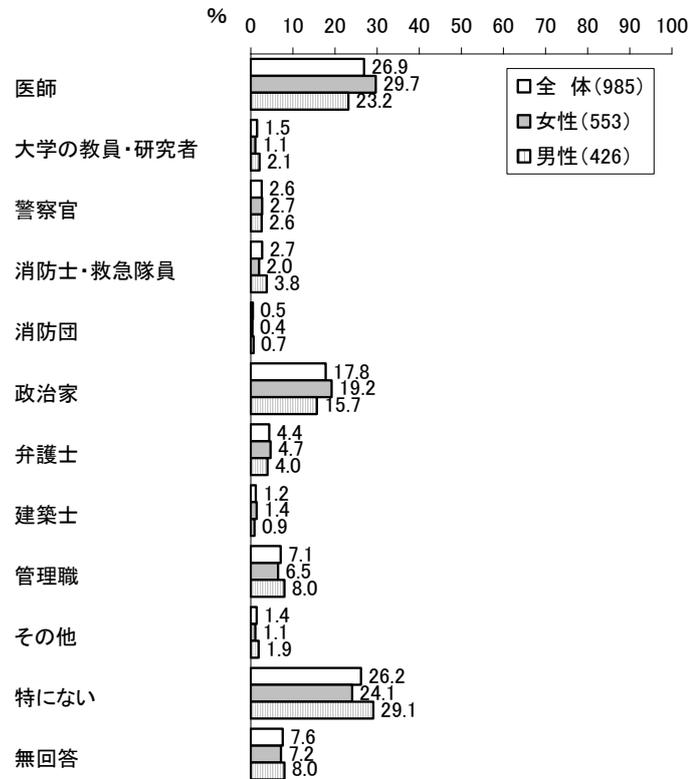
【平成 16 年調査】



問 44 下に掲げる職業・職階などのうち、特に女性に進出してほしいと思うものを1つだけを選び、数字を○で囲んでください。

女性が進出してほしいと思う職業・職階については、「医師」の割合が26.9%と最も高く、次いで「政治家」の割合が17.8%となっています。なお、「特にない」の割合が26.2%となっています。

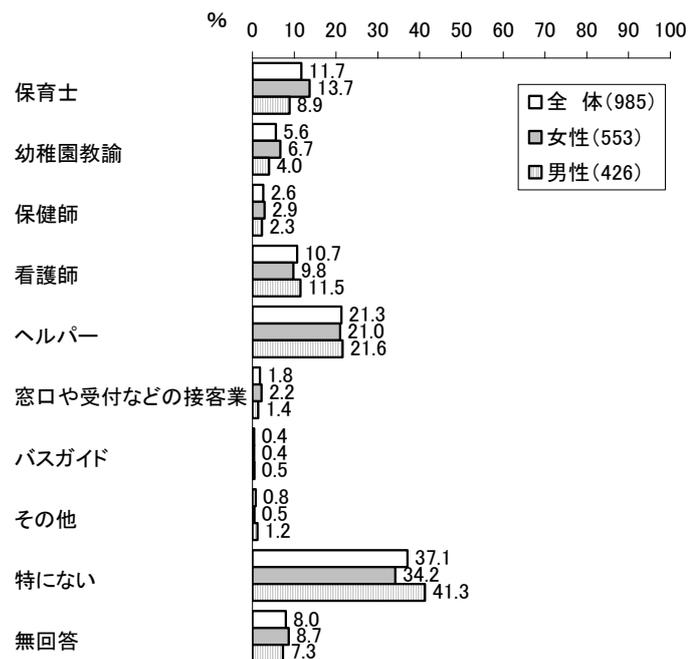
性別で見ると、男性に比べ女性で「医師」の割合が、女性に比べ男性で「特にない」の割合がそれぞれ高く、約3割となっています。



問 45 下に掲げる職業などのうち、特に男性に進出してほしいと思うものを1つだけを選び、数字を○で囲んでください。

男性に進出してほしい職業については、「特にない」の割合が37.1%と最も高く、次いで「ヘルパー」の割合が21.3%、「保育士」の割合が11.7%となっています。

性別で見ると、女性に比べ男性で「特にない」の割合が高く、4割を超えています。



問 46 現在、逗子市が行っている下の1～7の事業のうちで、あなたが知っているものをすべて選び、数字を○で囲んでください。(いくつ選んでもかまいません。)

逗子市が行っている事業の認知度については、「放課後児童クラブ（学童クラブ）」の割合が49.9%と最も高く、次いで「子育て支援センター」の割合が43.1%、「ふれあいスクール」の割合が31.7%となっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「ファミリー・サポート・センター」、「放課後児童クラブ（学童クラブ）」、「子育て支援センター」、「ふれあいスクール」の割合が高くなっています。

前回と比較し、全体では「放課後児童クラブ（学童クラブ）」の割合が12.6ポイント増加しています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	「ずし男女共同参画プラン」・「ずし男女共同参画プラン推進会議」	女と男のセミナー	女性相談	子育て支援センター	ファミリー・サポート・センター	放課後児童クラブ（学童クラブ）	ふれあいスクール	無回答
全 体	985	19.0	3.0	9.7	43.1	18.2	49.9	31.7	29.6
女 性	553	18.6	3.3	12.5	53.0	25.5	60.9	36.9	23.7
男 性	426	19.5	2.8	6.1	30.5	8.9	35.9	25.1	37.3

【平成16年調査】

単位：%

区分	有効回答数（件）	「ずし男女共同参画プラン」・「ずし男女共同参画プラン推進会議」	女と男のセミナー	女性相談	子育て支援センター	放課後児童クラブ	ふれあいスクール	市ホームページコラム『女も男も』	無回答
全 体	907	12.2	4.0	12.2	41.2	37.3	23.5	3.7	38.1
女 性	501	15.4	5.2	16.0	51.1	48.7	29.9	3.8	29.3
男 性	390	8.5	2.6	7.4	28.7	23.1	15.4	3.8	49.0

「男女共同参画社会の実現」をめざしてのこれからの施策について

問 47 男女があらゆる分野でもっと平等になるために、重要と思うことは何ですか。下の1～11の中から3つ以内で選び、数字を○で囲んでください。

男女があらゆる分野で平等になるために重要なことについては、「法律や制度上での見直しを行い、男女差別につながるもの（男女の賃金の格差、育児・介護休業の取りやすさなど）を改めること」の割合が38.2%と最も高く、次いで「男性が家事・育児・介護に参加すること」の割合が33.5%、「職場の長時間労働が改善されること」の割合が33.2%、「女性が自身の経済力を向上させること」の割合が32.9%となっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「女性が自身の経済力を向上させること」、「男性が家事・育児・介護に参加すること」の割合が高く、約4割となっています。

性別年代別で見ると、男性の20～29歳で「職場の長時間労働が改善されること」の割合が高く、約7割となっています。また、女性の80歳以上で「女性が自身の経済力を向上させること」の割合が高く、5割を超えています。

前回と比較し、全体では「職場の長時間労働が改善されること」の割合が7.5ポイント増加しています。

性別では、男性で「女性が自身の経済力を向上させること」の割合が7.2ポイント増加しています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	女性が自身の経済力を向上させること	女性が政治・経済に参加すること	男性が家事・育児・介護に参加すること	男性が家事能力を向上させること	職場の長時間労働が改善されること	法律や制度上での見直しを行い、男女差別につながるもの(男女の賃金の格差、育児・介護休業の取りやすさなど)を改めること
全体	985	32.9	15.5	33.5	15.7	33.2	38.2
女性	553	37.3	13.9	37.4	15.0	32.7	38.5
20歳未満	5	40.0	—	20.0	20.0	60.0	60.0
20～29歳	32	37.5	21.9	46.9	15.6	34.4	43.8
30～39歳	81	27.2	11.1	49.4	17.3	40.7	34.6
40～49歳	87	36.8	9.2	42.5	12.6	35.6	36.8
50～59歳	94	40.4	14.9	45.7	17.0	25.5	37.2
60～69歳	117	36.8	17.1	30.8	13.7	27.4	47.0
70～79歳	106	38.7	14.2	27.4	14.2	35.8	36.8
80歳以上	30	53.3	13.3	20.0	16.7	30.0	23.3
男性	426	27.5	17.6	28.6	16.7	34.0	37.8
20歳未満	13	15.4	30.8	38.5	30.8	23.1	46.2
20～29歳	19	10.5	10.5	42.1	10.5	68.4	52.6
30～39歳	44	20.5	11.4	40.9	15.9	36.4	25.0
40～49歳	63	22.2	12.7	38.1	17.5	55.6	28.6
50～59歳	68	32.4	10.3	27.9	16.2	35.3	38.2
60～69歳	116	32.8	20.7	19.0	16.4	29.3	41.4
70～79歳	75	29.3	28.0	25.3	18.7	18.7	44.0
80歳以上	28	28.6	14.3	25.0	10.7	21.4	32.1

区分	さまざまな偏見、固定的な社会通念や慣習・しきたりを改めること	子どもの時からの男女平等教育の徹底	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	その他	わからない	無回答
全 体	31.7	19.3	21.8	1.8	3.0	4.2
女 性	29.5	18.4	22.4	1.3	2.2	4.5
20歳未満	—	—	40.0	20.0	—	—
20～29歳	50.0	3.1	21.9	—	—	—
30～39歳	27.2	14.8	27.2	2.5	2.5	1.2
40～49歳	40.2	18.4	20.7	2.3	3.4	1.1
50～59歳	33.0	24.5	25.5	—	1.1	—
60～69歳	19.7	17.9	28.2	1.7	2.6	6.0
70～79歳	28.3	20.8	14.2	—	1.9	10.4
80歳以上	20.0	23.3	10.0	—	3.3	13.3
男 性	34.0	20.4	21.1	2.3	4.2	3.8
20歳未満	53.8	30.8	7.7	7.7	—	—
20～29歳	47.4	5.3	21.1	—	—	—
30～39歳	34.1	11.4	15.9	6.8	6.8	2.3
40～49歳	30.2	17.5	22.2	4.8	3.2	1.6
50～59歳	30.9	22.1	25.0	—	5.9	1.5
60～69歳	34.5	21.6	19.0	2.6	6.9	5.2
70～79歳	28.0	22.7	28.0	—	—	6.7
80歳以上	46.4	32.1	14.3	—	3.6	7.1

区分	有効回答数(件)	女性が自身の経済力を向上させること	女性が政治・経済に参加すること	男性が家事・育児・介護に参加すること	男性が家事能力を向上させること	職場の長時間労働が改善されること	法律や制度上での見直しを行い、男女差別につながるもの(男女の賃金の格差、育児・介護休業の取りやすさなど)を改めること
全体	907	27.5	15.8	28.4	16.2	25.7	35.2
女性	501	33.1	15.8	32.9	16.4	25.3	35.9
男性	390	20.3	16.2	22.8	15.1	26.2	35.1

区分	さまざまな偏見、固定的な社会通念や慣習・しきたりを改めること	子どもの時からの男女平等教育の徹底	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	その他	わからない	無回答
全体	32.2	22.1	22.5	3.4	2.5	5.8
女性	30.5	23.4	24.4	1.6	2.2	4.4
男性	34.4	19.7	20.3	5.4	2.8	7.7

問 48 「男女共同参画社会の実現」に向けて、市に特に力を入れてほしい施策を下の1～20の中から5つ以内で選び、数字を○で囲んでください。

「男女共同参画社会の実現」に向けて市に特に力を入れてほしい施策については、「高齢者や障害者の介護制度の充実」の割合が55.6%と最も高く、次いで「保育所・放課後児童クラブ（学童クラブ）・ふれあいスクールの充実」の割合が37.3%、「女性が能力を発揮したり、社会活動をするための学びの場の確保」の割合が31.0%、「ひとり親家庭への支援の充実」の割合が29.5%となっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「保育所・放課後児童クラブ（学童クラブ）・ふれあいスクールの充実」、「女性に対する就労支援・職業訓練・職業相談」の割合が高くなっています。

前回と比較し、全体では「女性が能力を発揮したり、社会活動をするための学びの場の確保」の割合が20.0ポイント増加しています。また、「家庭における子育てへの支援の充実」の割合が7.0ポイント減少しています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	女性が能力を発揮したり、社会活動をするための学びの場の確保	男性に対する男女共同参画社会の啓発事業	「女性の悩み相談」の充実やパートナーからの暴力の防止	暴力を受けた場合のシェルター（避難所）の確保	保育所・放課後児童クラブ（学童クラブ）・ふれあいスクールの充実	家庭における子育てへの支援の充実	ひとり親家庭への支援の充実	男女平等教育の推進	高齢者や障害者の介護制度の充実	女性の健康増進
全 体	985	31.0	12.9	9.5	18.7	37.3	28.6	29.5	15.7	55.6	10.9
女 性	553	32.9	10.7	9.0	17.4	40.9	25.3	28.2	14.5	57.9	12.3
男 性	426	28.4	16.0	10.3	20.2	32.6	32.6	31.5	17.4	52.6	8.9

区分	政策等の立案・決定に参画できる人材育成や共同参画の推進	ワーク・ライフ・バランスの推進による就労条件の改善努力	女性に対する就労支援・職業訓練・職業相談	女性に対する就労支援・職業訓練の支援	女性のNPO活動や地域活動の支援	地域コミュニティの活性化	男女共同参画プランネットワークの設置	人権の尊重や女性問題の啓発事業	男女共同参画センター等の設置	県や国との連携	その他	無回答
全 体	9.5	13.6	26.3	4.5	14.5	3.7	7.0	5.2	12.9	1.9	5.0	
女 性	9.6	13.9	30.2	5.1	12.3	3.6	5.4	4.3	13.6	1.3	4.7	
男 性	9.4	13.1	21.1	3.8	17.6	3.8	9.2	6.1	12.2	2.6	5.4	

区分	有効回答数(件)	女性対象の学級・講座の実施	男性対象の学級・講座の実施	女性の悩み相談の充実やDV防止	DVシエルトーの設置	保育・児童施設の充実	家庭での子育て支援の充実	男女平等教育の推進	高齢者や障害者の介護制度の充実	女性の健康増進
全体	907	11.0	7.5	15.1	24.3	31.5	35.6	25.1	55.6	12.7
女性	501	12.8	6.4	15.2	23.0	35.3	32.3	24.6	59.3	14.0
男性	390	8.7	8.2	15.4	26.2	26.9	40.3	25.1	50.8	10.8

区分	政策立案・決定への共同参画の推進	政策立案・決定参画の人材育成	就労条件の改善努力	職業訓練・職業相談	人権尊重や女性問題の啓発事業	女性センターの建設	県や国との連携	その他	特になし	無回答
全体	13.1	16.6	26.0	19.2	12.6	6.6	15.0	1.4	3.1	5.1
女性	11.8	16.6	26.3	21.8	13.0	8.4	14.8	1.8	2.6	4.4
男性	14.9	17.2	25.6	15.9	12.6	4.6	15.1	1.0	3.6	5.6

3 自由記述

(1) 女性に対するあらゆる暴力の根絶

- 平等は考慮されるべき理由を含め取り扱ってほしいと思います。DVについては男が加害者、女性が被害者と単純ではなくて、その背景を考えるべきではないでしょうか。被害者がDVを受ける要因になるような事をしている場合もあります。結婚、離婚の問題は便宜上、愛、恋なのかよくわかりません。(男性 50 歳代)

(2) 生涯を通じた女性の心身の健康づくり

- 今回の調査は大切なことだと思います。しかしながら、レベルが違うかもしれませんが、もう少し若い女性が自分自身を大切にすることを教えてあげたいと思います。男性が売春をして、援交を求めることに「お金のためなら減るわけじゃない」と両方がずるい言い訳をしている現状はとても恐ろしいです。(女性 50 歳代)

(3) 相談窓口の充実

- 私は実兄の言葉のDVでひどく悩んでいる。どこか相談できる場所はないかと思う。(世の中、夫のDVの相談場所はあるのと思う) 私は小学校から逗子だが男女平等であったと思う。しかし、社会にでると途端に男女の格差がある。日本は本当に矛盾している。遅れている。アメリカや中国のようにベビーシッターや高齢者の方の力を借りて、どんどん女性も外に出るべきだ。また、いつまでも配偶者控除があるのもおかしい。働かない女性が大きな顔をしているのは世界でも日本だけだ。(女性 40 歳代)
- 何かと国のせいにしてたり、人のせいにしてたり、権利を振りかざすのは子どもの頃からの道徳教育に要因があると思います。健康のことや家庭内のことに社会が入り込み、プライバシーを侵害されることが多くてわずらわしいです。心配な人のみを受け入れる相談窓口があればよいと思います。(女性 60 歳代)
- 暴力という問題を解決していくために、カウンセラーか相談所などの充実を目指してほしい。また、このような問題を抱えている人が、周囲の人に相談できないということもあると感じるので、気軽に相談できる窓口の設置を検討してほしい。(男性 20 歳未満)
- 市長の理解が少ない。市長の考えが理解できない。もっと市民に逗子市の男女共同参画施策等をPRしてほしい。学校のPTA総会でもPRして欲しい。市のホームページにもわかりやすく掲載してほしい。未婚女性の出産に関する相談窓口がどこかわからない。このようなアンケートは大切なのでがんばって続けてほしい。(男性 50 歳代)

(4) 雇用における男女平等の実現

- 現在私は 30 代ですが、同年代の男性・女性は社会でも家庭でも平等であろうとする考えはだいぶ身につけているように思う。彼らが社会で中心的な役割を担う時代には法制度なども大分、改善されるであろうと思う。その基盤として、労働時間や条件の改善は個人の余暇を見直すためにも必要であると思う。(女性 30 歳代)
- 男性と女性が同じ種類の仕事をするというのではなく、男性、女性の適性を活かした仕事をするというやり方であってほしい。(女性 60 歳代)

- 女性が社会進出するために子どもにしわ寄せが行かないように本人（母親）と行政も努力してほしい。また、その時若いおばあちゃん、おじいちゃんの知識を活用してほしい。（女性 60 歳代）
- 30 代・40 代の男性がやりがいのある安定した仕事につけるように行政も努力してほしい。（女性 60 歳代）
- 私は団体職員として働いていますが、女性が社会で働き続けていくためには、中小企業における労働環境を整備していくことが欠かせないと考えます。なぜなら、女性の正社員が増えてきた中であって、当該社員の多くが育児・介護休業を取得していけば、そのしわ寄せは残された独身女性社員や男性社員にいくからです。労働環境を個人個人が働きやすいものにしていくことが求められているのではないのでしょうか。（男性 30 歳代）
- 法的に男女平等にはなっていると思うが、それは大企業のみのことです。中小企業では無理なのが現状です。（男性 40 歳代）
- 男女平等の意識はかなり浸透していると思います。しかし、実際の場合で、例えば女性の就業機会や高齢者介護のための女性への依存等、女性に負担を与えている場面がまだまだたくさんあると思います。難しい問題ですが、改善に向けて諸施策の実施、市民を巻き込んだ活動の推進を望みます。（男性 50 歳代）
- 男女平等といっているが、女性の働く場が少ないのではないか。女性も経済力を持たないと、年金だけでは生活できない。（男性 60 歳代）
- 子育て経験者が第二ステージで普通に働ける社会になってほしい。（賃金待遇について）（男性 60 歳代）
- 申し訳ありませんが日ごろ感心がないので、答えられません。ただ私は会社に勤めていたとき、人事を担当したことがあります。男女を平等に扱いました。入社試験をすると、だいたい女性のほうが平均的に優秀な学生が多かったです。（学校の成績表も女性のほうがよいケースが多い）妻に対して特に女性だからという意識で接したことはありません。（男性 70 歳代）

（5）家庭・地域活動と仕事との両立支援

- 女性の出産時や前後における経済負担の軽減と、男性の育児出産休暇の収入低減をもっと考えてほしい。その後父母として一緒に子育てを勉強できる場をもっと充実してほしい。（女性 20 歳代）
- 今現在、子どもを育てている経験から、やはり男性の就労時間の長さが、男性の子育て参加を難しくしていると思います。とても難しい課題ですが、余裕を持って生活できる（気持ち、時間など）ことが男女共同参画へ結びついて行くのではと思います。（女性 30 歳代）
- 男性が育児休業等取るのは難しい。日本の社会では、家事や子育ては女性の役割という意識が強い。女性（共働き、ひとり親）の人が働くため子育てとのバランスをとるには、学童クラブ、ふれあいスクールの充実が必要。時間延長を含め、場所も見直してほしい。遊び学びという面からは、小学校内の教室などが望ましい。時間も 19 時でなく延長を希望している。子どもへのスペースも広くしてほしい。（女性 40 歳代）
- 男性は額に汗して労働の糧を受け、女性は子どもが 3 歳くらいの時は特にスキンシップをすることが大切なのではないかと思います。子育てがある程度終われば、女性も社会活動等に参加するのがよいと思います。私は 67 歳ですが逗子カトリックで、主を賛美することを大変喜びに思っています。日々が大切なのだとこの頃思います。感謝しています。愛の心で小さな良い社会活動をさせていただきたいです。（女性 60 歳代）
- 子どもは現在も未来も宝物です。両親に大切に育てられた子どもは、周囲の人間にも思いやりのある大人に成長していくと思います。いつでも子どもを受け入れることができる社会環境が整ってくれば、男女の差別はなくなってゆくと思います。まずは、子どもをひとりぼっちにさせない社会にしてほしいです。（女性 60 歳代）

- 不景気になって、働く条件はますます女性に不利になってきていると思います。妊娠・出産・育児についての公的援助をもっと充実させてほしいです。育児のためにやむなく職場をやめた経験から、いつまでたっても女性は育児の苦勞から開放されないと思っています。子どもは国の次代の宝です。もっと公的な保育所を増やしてほしいです。(女性 70 歳代)
- 男女を区別平等にしなければならないという教え方がよく理解できません。少なくとも私の身近な女性でそういう考えを主張している者はおりません。保育所等女性の働きやすい環境づくりとDV等で困った時の対応窓口さえしっかりしていればそれで十分ではないですか。質問事項に「家のお金の管理は誰がしているか」というのもいれてみてはどうですか。(男性 30 歳代)
- 男女に限らず平等の概念は人それぞれ違うので、正解などない永遠のテーマだと思う。特に仕事に関しては、その企業への貢献度合いで評価するのは当然で、権利だけを主張して休暇をとる社員の評価は、他の社員と同じにする方が不平等だと思う。(男性 40 歳代)
- 生物として性差がある以上、それを同一にしようとするのは誤りである。男性、女性、それぞれに適した仕事や作業があり、それはそれでよい。子どもが小さい時は母親が身近で十分愛情を注ぐべきであり、一日中保育所へ預けられた子どもたちが社会を担う時代が来たらと思うと恐ろしい。DVと男女平等は別の問題であり、同一性間でも暴力は暴力である。行き過ぎたジェンダーフリーは厳に慎むべきである。(男性 40 歳代)
- 保育時間（保育所など）がもっと早朝から選べたりすれば我妻も更に自由に働けると言っていました。「いつでも女性は犠牲になる」とも言っていました。女性が思うということはそんな世の中なのだと思います。(男性 40 歳代)
- 男性の育児休暇取得が進んでない。会社の取得しづらい雰囲気のためでもあるが、現状を打破し、取得を促進させるような施策を望みたい。(男性 40 歳代)

(6) 男女平等意識の啓発

- 男性と女性では能力が違います。例えば教育の面では女子は強制されることを嫌うので、教師は友達のように接し、逆に男子には「誰がボスカ」をわからせる必要があるので、命令口調で接するという試みがアメリカの一部の学校で行われているそうです。私自身、外で働く事より家事や子育ての方に興味があります。「女性も働くのが当たり前」という今の時代は正直つらいです。何でもかんでも平等にすればよいというものではないと思います。(女性 20 歳未満)
- 男性と女性の平等は難しいです。男と女は質が違います。しかし、男女とも生き生きできる環境になってもらいたいです。(女性 40 歳代)
- 男女平等というよりもその人にあった人生をよりよく生きられる社会を皆でつくっていくことが重要。主夫や、家事より仕事が好きな女性など、社会の偏見や差別の無い自由な生き方が楽しくできる世の中であって欲しい。皆違って皆よいことを皆がわかっている日本、世界であって欲しい。(女性 50 歳代)
- この地球上で男は男、女は女で「男は男らしく。女は女らしく」は好きな言葉ですが、今アンケートが元となる「男女共同参画施策」ははっきり言ってよくわかりません。男と女は生体の根本から違っていますので、平等にとは無理なことです。私は女ですが、やはり男にはかないませんし、男でも女にはかなわない所があると思います。女は母親となり、男は父親となります。そして、子を育てていく上で市や国から何らかの援助があれば波風立たないように静かに暮らして行けるのではないのでしょうか。(女性 50 歳代)
- 男性の意識改革も必要でしょうが、女性自身も意識の改革が必要と思われます。(全部の女性ではないが) (女性 50 歳代)
- あくまで男女の性差はあるから、何もかも全て平等ではありえない。家庭にあって母親の代わりに父親が、父親の代わりに母親がすることはできないように。(女性 60 歳代)
- 男性も女性も「男である、女である」前に「一個の人格のある人間である」ということをしっかり認識・自覚することです。周りがいろいろとお膳立てをしても、当の本人にその自覚がな

ければ無駄に終わります。(女性 60 歳代)

- 男女とも、自立することが基本的にできていないと、均等にしようとするのが空論になります。結婚後の女性が特に実家に寄りかかるのが気になります。それができる人と、まったくできない人がいるのに、政治的、経済的、社会的、文化的利益を均等にといわれてもと思います。ただ、理想を掲げないと社会がよいほうに動かないので施策は必要だと思います。(女性 70 歳代)
- 性差による差別はいけませんが、区別が必要になることもある。差別と区別を同一視した男女共同を目指すことのないように、注意してほしい。(男性 30 歳代)
- 格差ありきでつくられているアンケートだと感じます。格差ではなく、業務によっては男女の役割分担が必要です。市役所のデスクワークの方が頭で考えてつくられたアンケートだと思います。(男性 40 歳代)
- 女性の側に「私は女だから」といって逃げる女性をよく見かける。男女に関わりなく、一人ひとりの人間を大切にすることが大切だと皆が本当に理解できれば、「男女共同参画社会」などと、声高に騒ぐことは無いはず。(男性 60 歳代)
- 男と女は体の違いと性の基本的な取らえ方の違いがあると思います。それぞれの感性のすれ違いを合わせようとはしないで、人間として互いが社会に対してどう向き合い、人生を歩んでいくかという目標を持つことが必要です。力の強弱で互いにぶらさがった気持ちを持つと男と女は上手くいかないと思います。男性も女性からパワーハラスメントを受けます。女性だけが弱い立場ではありません。(男性 60 歳代)
- 何がなんでも男女平等という考え方にはついていけません。人類の歴史においても両性それぞれの役割分担がありました。両性の長所を生かす、男女平等を望みます。(男性 70 歳代)
- 人間すべて男は男、女は女である。昨今はこの基本を無視した平等論が一人歩きしている。この基本に立脚した諸施策を心掛けてほしいものだ。(男性 80 歳以上)

(7) 男女平等に向けた教育・学習の推進

- いろいろの場面で男女平等などへの動きが見られますが、画一的に成されるのはどうかと思う場面があります。特に学校教育において、男女の体格差や体力能力差などもあり、運動時において同等に男女を扱わなくても良いのではと思います。また、最近の命名の多様化で中性的な名前があり、男女混合出席簿などでは性別が区別できない事もあります。(女性 40 歳代)
- 「男尊女卑」の日本の悪しき風潮を根本から変えていくには、まだまだ長い年月がかかるのではないのでしょうか。その一助として、学校教育の中に「男女同権」を学ぶ専門教育を取り入れることも必要だと思います。特に小学校では、学業だけでなく、学校の生活全体を通じて男女の特性を理解し、お互いを尊重することの大切さを体験し学べる教科が必要だと思います。また、最も変わらなければならない、父母に影響を及ぼす学習ができれば理想だと思いますが、いずれにしても子どもからの地道な活動が、「男尊女卑」を無くしていくものと確信します。(男性 70 歳代)

(8) 女性のエンパワーメントによる男女共同参画

- クリーン作戦などの地域活動にもっと男性が参加するように促して欲しい。(女性 50 歳代)
- 将来ますます就労人口が少なくなる中で、女性の政治、経済、社会進出は必要不可欠だと思います。社会進出ができる社会環境が必要です。その他、社会の意識改革、保育園の増設等があげられます。(男性 60 歳代)
- 男女平等とか共同参画とか大上段に振りかぶった議論が今日必要なのかという疑惑がわく。逗子で共同参画として行われているものはミュージカルみたいなものしか知らない。とてもナン

センスな気がする。わが町内会では祭り、盆踊り、災害たま出し訓練なども女性のパワーなくしては動かない。物事を決めるにしても女性の意見が大いに反映されていると考えている。積極的にリーダーシップを取る女性と、暴走しないようコントロールできる男の知恵がうまくかみ合っている社会には男女共同参画云々というスローガンは不要である。それはお互いに人としての人格を尊重し合う所から自然発生的に生まれてくるものであって、人為的に作り出すとすること自体ナンセンスと言わなければならない。(男性 60 歳代)

(9) 行政への要望

- 男女混合のバレーやフットサルやバスケットなど、スポーツ教室があれば参加したい。(女性 30 歳代)
- 理解しやすい表現で頻繁にお知らせすると、みんなの関心が向いてくると思うので、大変だと思うけどもっと広い範囲で報告して欲しい。(女性 30 歳代)
- 何をやるにしても税金の無駄遣いをしないでほしい。(女性 40 歳代)
- 高齢者社会となった現在、男女問わず、健康でやる気ある方が多くいると思います。65 歳以上は高齢者と社会が言っているだけなので、世のため、人のために活躍して下さる方々に色々な面で情報提供をして、老若男女社会参加できる逗子市にしてほしいと希望します。(女性 60 歳代)
- こういう企画はもっと早くやってもよかったと思います。これからの発展に期待致します。(女性 70 歳代)
- 問 46 内の逗子市が行っている事業が漠然としていて、具体性に欠け一般的に知られていないように思えるのですが、もっと市民に呼びかけ浸透するよう広報強化はできないものでしょうか。(女性 70 歳代)
- 逗子市の男女共同参画施策がどのようになっているか、現実にはみられない。(女性 70 歳代)
- 私の住所・職業・年齢はわかっているはずなのに、無駄な税金を使わないでください。こんなアンケートをしなくても市役所は把握しているはずで、これ以上税金をかけないでください。(女性 不明)
- 市が、男女平等に関するセミナーを企画することが必要だと思う。(男性 20 歳代)
- 30 代ですが学生のころより人権や男女平等扱いといった教育を受けていました。同年代の人はだいたいそのような学習をしてきたと思います。今回のアンケート内容を見て、10 年以上前の学校でやっていた内容と何も変わっていないことを残念に思いました。今後はより個人が尊重される町づくりを望みます。当然犯罪は許されるべきものではないので厳しく対応されることを望みます。(男性 30 歳代)
- 今アンケートは無記名式となっておりますが、アンケート対象者の中へ名前を公表して構わない人がいたら(私自身)市長と意見交換の場を設けて頂きたいです。(男性 40 歳代)
- 世の中には、男性と女性しかいないと思います。男女共同参画の名称を変更してはいかがでしょうか。(男性 50 歳代)
- 男女共同参画社会の実現には大賛成ですが、様々の施策を見るにつけ、時として不公平がみられるのも事実ではないかと感じる場合があります。(男性 50 歳代)
- 逗子市の施策の策定に関し、概念(観念)的な施策ではなく、具体的な施策と投入する財政の規模等の指針、優先順位を明確に打ち出してほしい。(男性 60 歳代)
- 私は県で「男女参画コース」生涯学習指導者研修について活動を進めていますが、各地区から多くの人達が参加され、活発に討議等に取り組まれています。逗子市の担当者の方々も他の地域の人たちと共通の立場の人と色々な物事について話し合い(同じテーマ)交流されたほうがよい方向性が見出せると思います。(男性 60 歳代)

- 協議が済みましたら是非、実現・実行してください。(男性 70 歳代)

(10) アンケートに対する意見

- アンケートの量が多すぎる。時間がかかる。(女性 20 歳代)
- 男女共同参画アンケート内容ですが、今の時代、男性も自立するのが大変な時代です。むしろ実家族の場合、女性の方が居心地よいのでは。今回のアンケート結果はどのように扱うのでしょうか。市税を使ってのアンケート調査の結果発表を望みます。(女性 50 歳代)
- 年寄り目は見えにくい。字は書けなかったので、若い方にアンケートを出してください。(女性 70 歳代)
- 体調が悪くてお答えできません。もっと若い人をお願いしてください。申し訳ございません。(女性 70 歳代)
- 70 歳を過ぎていて、このアンケートについて、今現在あまり関係することが無いので、十分な答えができませんでした。(女性 70 歳代)
- このアンケート自体、少し平等でない部分があるような気がしました。(男性 20 歳代)
- この質問を製作した側が男女平等の立場で質問しているように思えない。男性に対してもっと男女平等の教育をすべきだと思う。男性側の目線で書いている気がする。(男性 50 歳代)
- 残念なことです。本アンケートの設問には、設計者の意見の偏りやこの問題に対する意識・見解の度合いがあまり高いとは言えない箇所が散見されました。また、これだけ時間を使わせる(80 分かかりました)のなら、もっとよく考えてアンケートを設計すべきです。具体的施策につながりにくいアンケートとも思えます。例えばあまり勉強していない学者や、人生経験が少なくこの領域を勉強していない方がつくったように思えます。真剣に考える程度が浅い方が、興味本位で作ったのかと思わせる箇所が複数ありました。2000 人に、これだけ時間を使わせるのに相応しい効果が期せるアンケートを考えて実施して頂きたいです。もっと勉強してください。(男性 50 歳代)
- 男女共同参画というアンケートでありながら、女性に偏った内容が多く、アンケートとしては結果を予期可能なアンケートであり、実施する価値の無いアンケートと言わざるを得ない。(男性 60 歳代)
- アンケート項目が多い。半分にすべき。(男性 60 歳代)
- アンケートを取らないと各自が何を考えているのかわからないです。(男性 60 歳代)
- 設問と回答を男女別にしないと回答しにくい。(男性 70 歳代)
- 私は現在 81 歳で、7 年前妻を亡くし今は 1 人で生活しており、少しボケ始めています。以上の事から難しく答えられません。(男性 80 歳以上)

(11) その他

- 夫婦別姓が実現すれば、もっと結婚率は上がると思う。結婚後に男性の苗字にするのが当たり前と思っている男性が多すぎる。17~18 時に帰宅できる人はほんのわずかしかないのに、働く女性に対して近所の年配の人たちの理解が無い。(女性 30 歳代)
- 開庁時間を短縮してもよいと思うので、土、日も開庁してほしい。休日出勤ではなく、交代勤務で対応してほしい。短時間勤務の推進をしてほしい。(女性 40 歳代)
- アンケートの結果でどのように変わっていくのですか。(女性 50 歳代)

- 男性も女性も成人も子どもも老人もみな同じ人間であること。権利も、義務も平等にあることを全ての人が認めることが大切だと思っています。(女性 60 歳代)
- 私を含め一般の市民は「男女共同参画」についてどのくらい知っているのか疑問。このアンケートも設問に答えているとき、「男女共同参画」のどの部分について回答しているかよくわからないところがあった。(女性 60 歳代)
- 人間の差別、大人になりたての人への女性たちのいじめ（経営者+パート達）によって普通に生きていけるはずの人が狂ってしまいました。人が人らしく成長するためには、どうすればよいのでしょうか。(女性 60 歳代)
- もう少し若かったら積極的に参加させていただくのですが、今は病と年齢とでそうできず残念です。(女性 60 歳代)
- 子どもたちが安心して活動できるように近所との協力、見守りが必要です。高齢者が安心して通える近くにある病院や店があればいいと思います。無理であれば、交通機関の充実を望みます。出張車や配達、24 時間何でも電話相談（用事を申し込める）をいつでもできる所があればいいと思います。(女性 60 歳代)
- 私も 62 歳です。これから先のことを考えると不安になります。老後の生活費は何とか公的年金、個人年金で準備をしていますが、万が一のとき子どもに頼ることはできないと感じています。今の世の中、若い人たちも厳しい時代で、明日はどうなるかという不安の中で生活をしている感じがします。せめて、動けなくなったとき、公的機関の介護の充実や医療等に頼りたいのですが、逗子市はまだまだ遅れていると思います。池子では東逗子駅方面への足が無く、お年寄りには困っています。坂をのぼれないため、東逗子駅から JR 逗子駅まで出て、アザリエバスで迂回しているようです。東逗子市駅へ回るバスができたらどんなに池子の方は助かるでしょうか。皆さんもそう思っていると思います。(女性 60 歳代)
- 市として色々施策を考えていることは承知しているつもりですが、少し前まで夫婦ともにフルタイムで働いておりましたので、又、現在も少し仕事を持っておりますので市民活動になかなか参加できませんが、協力と応援の気持ちは持っています。どうか今後ともよろしくお願い致します。(女性 70 歳代)
- 今更と思うところもありますが、期待しています。(女性 70 歳代)
- 逗子はすべての面において、割とスムーズに行われていると思います。(女性 70 歳代)
- 逗子広報はたくさんの方が読んでいます。より一層の充実を望みます。(女性 70 歳代)
- 認識不足、勉強不足で「市民協労課」という課が有ることも知りませんでした。年齢を重ねて時間はありますが、健康に注意しながら残りの時間を過ごしてまいりたいと思っております。広報逗子も隔々まで目を通してありますが、色々勉強不足なので市のホームページも開いてみたいと思います。(女性 70 歳代)
- 今年 6 月に愛知県から逗子市沼間に転居してきて、市内のことはあまり分からず、よい解答ができていません。これからいろいろ勉強するつもりです。どうぞよろしくお願い致します。前居住地には、コミュニティバスが走り、市役所、図書館、公民館、病院、大型スーパー、芸術劇場、神社などへ大人 100 円、子ども 50 円で市内の移動ができ、活動が活発にできました。車椅子でも乗車できる優しい巡回バスで助けられた人が多かったように思います。(女性 70 歳代)
- この件を後期高齢者に聞くと酷だ。こんな事くらいで改革できると思うのが大きな間違い。テーブルの上の考えと現場での違いがある。何の役に立つのか。どんな事に力を入れているのかもわからない。まず、物価を下げることから始め、若いお母さんたちに血の通った教育をすること。自分本位の考えだけで身勝手、非常識なことをする人が多すぎる。(女性 70 歳代)
- 20 年前でしたらまた、答え方も違うと思いました。(女性 80 歳以上)
- 何分にも 82 才の老人です。現代の人と意見のずれがあると思います。(女性 80 歳以上)
- 逗子市の子ども関連の支援では、他市に比べて所得制限などで大いに疑問がある。所得制限は

世帯主ではなく、世帯全体での所得で実施しなくては意味が無い。このアンケートの結果を踏まえて、実際にどのように行動するかが重要である。行動しないのであれば税金の無駄使いだ。市民の協力も無駄になる。真剣に考えて取り組んでほしい。(男性 40 歳代)

- 女性の活躍は大いに結構ですが、男女共に人間としての威厳を身に付けていきたいものです。(男性 60 歳代)
- 何事も程々がベターです。戦後 64 年、女性の地位は飛躍的に向上してきましたと思います。むしろ男性の自意識後退を感じる今日です。男女各々が異性を認識し合ってふさわしい活動を公平に確保することが肝要です。平等に参画するのではなく、女性らしく、男性らしい思いやる気持ちを尊重できる社会を目標にステップバイステップでの実現を希望します。(男性 60 歳代)
- 世界（地球上）では、男女共同参画において日本は中間程度に位置づけられるかもしれない。本アンケートのような事項はもっともっと向上しなければいけないと思う。逗子、県、国、そしてアジア、世界の人々が恵まれた人生であるようになってほしいと思う。(男性 60 歳代)
- 人々が安心して生活する社会の実現がわれわれの希望であるが、今の現実社会を見ると大きな声や態度の人が多く、会などの力を借りた人々が大きな態度をして他人に迷惑を掛けても平気な社会となっている。この一番の原因は家庭の教育であり、その二番目は学校の教育であり、その三番目はコミュニティの教育の喪失である。特に中心は家庭であって、親の責任はとても重いものがある。今の社会は経済の格差以上に家庭のしつけや教育の格差が大きいのと思う。(男性 60 歳代)
- 男女共同参画社会の現実のはわが国の 21 世紀の最大の課題です。国際的にみても日本はこの分野においては、非常に遅れています。恥ずかしい限りです。一人ひとりが努力をしたいものです。状況的弱者の問題が一つ一つ解決されれば男女共同参画社会は一步前進です。社会関係資本の充実を望みます。(男性 70 歳代)
- わが国は、敗戦を経て新憲法下、男女差別は少なくなっています。むしろイスラム教・ローマカソリックなどの宗教を国家教義にしている国々では日常的習慣で差別が行われています。アラブの民 10 億カソリックの信徒 20 億の人々に今日的差別撤廃の普遍性を求めるのは至難事だと思います。(男性 70 歳代)
- 根本的には市ができる問題ではないが、日本語の伝統的な使い方を廃止することがよい。すなわち、敬語とか謙譲語などは最低限にする社会を実現すれば平等参画の社会はあらゆる意味で大きく前進する。(男性 70 歳代)
- 寝たきり老人が退院した後の受け入れ先は介護病棟しかないが、どこも早くて 6 ヶ月待ち（大部屋で月 30～40 万）、早く入院できるのは月 60 万～150 万の自己負担ができる人であり金持ちの人しか入れない。ある病院は大部屋を減らし個室を増やしている。結局は家で世話をすることになると、2 時間置きのたん吸引、体位交換でやがて介護者、病人が共倒れとなる。介護保険料を金持ちが自由に使い、庶民は利用できない。介護病棟を 3 年後に廃止するというが、寝たきり老人が安心して入院できる施策が急務である。(男性 70 歳代)
- 市民病院を第一に進めてほしい。(男性 70 歳代)
- 私は現在 82 歳です。昭和の初期の生まれですが、私の両親も教育をしてくれた学校の先生方も皆、明治か若くて大正前期に生まれた方々ばかりです。結論を申し上げますと、私は昭和生まれですが、成長に関わった人達は明治生まれの方々です。ですから、私の思考の根底には明治の時代が流れているのだなあと最近では考えさせられております。3 年ほど前に妻が死亡し、養子縁組した息子と 2 人暮らしです。女性の大変さと偉大さを日々味わっております。(男性 80 歳以上)